

# 牧羊者

## 教師の方々へ「主イエスの生涯」

### —主イエスにならおう—

今年度のテーマは「主イエスの生涯」です。しかし、主イエスがなされた言動を、ただ知識的に教えるだけであってはなりません。そこで、副題として「主イエスにならおう」というモットーをつけ加えました。これは、子どもたちに教える前に、教師自身が実行せねばならないことです。どんな点で主イエスにならうべきかを、三つの方面からまとめてみましょう。

第一に、神であられる方が、私たちとまったく同じ人間となられたことです。もちろん、私たちはもとも人間ですから、主イエスと同じようなことができるはずはありません。しかし、主の謙遜さにならうことはできます。まず、教師自身が子どもたちと同じ目線になり、彼らの気持ちを理解するところから始めましょう。子どもたちと会話するときには、必ず彼らの目の位置まで身を低くして話しましょう。

「子どもたち」という所にすでに優越感があるので、「お友だち」と言う方が良いという意見もあります。その通りですが、問題は呼び方というよりも、私たちの態度であり、接し方です。

主イエスが人となられたことを知り、教師が子どもたちと同じ位置で話するとき、

子どもたちも謙遜に生きることを学び始めます。上級生が喜んで下級生の世話をしようになります。同じ分級の中でも、このようなことが自然にできるようになるように、配慮してみてください。

第二にならうべき点は、主が弟子を愛され、罪人を愛されたことです。弟子たちが自分の仕事をやめてまで主とともに生活するようになったことや、罪人たちが喜んで主の話を聞くようになったことは、主の深い愛のゆえでした。

教師もこの主の姿勢にならうまいしょう。子どもたちを心から愛しましょう。そうするなら、彼らもきっと教師を愛し、両親を愛し、友だちを愛するようになるはずです。一週ごとの学びが、子どもたちの身近な人々を愛することに結びつくように指導してください。

第三の点は、主が自らのいのちを犠牲とされたことです。これを文字どおりに行なうことはできないでしょう。でも、主イエスにならうって生きようとするなら、「自分の十字架を負う」ことが不可欠なのです。自分の得になるようにではなく、損になるように生きる必要があります。今の子どもたちには、損になることを嫌う傾向があります。しかし、喜んで損に

なることをしていく子どもたちに育てていきましょ。それこそ、主イエスにならう生き方だからです。分級の中でも、損になる仕事をあえて与えてみてください。

教会学校教師は、教会の中で最も犠牲の多い奉仕のひとつです。しかしこれこそが、栄冠の与えられる道でもあります。そして、今、教えている子どもたちの中から、そのような生き方を受け継いでくれる者が出てくるなら、どれほど嬉しいことでしょう。今の生徒は、十年後の教師としての自覚をもって歩んでください。

以上の三点において、主イエスにならうって生きるこそ、「イエス・キリスト」を体験的に知ることです。永遠のいのちは、決してこの地上の生活が終わって与えられるだけのものではありません。主イエスとともに、主イエスにならうって生きる毎日に、永遠のいのちはすでに実現していることを忘れないでください。

これらのことに留意して、この一年間、心から主に頼り頼みつつ、子どもたちを導いていただきたいと願っています。よく言われるように、「牧羊者」は単なる教案誌ではありません。まず教師自身が整えられ、その証を子どもたちと分かちあうところにこそ、本書の大きな意義があることをご理解いただければ幸いです。

## 目次

巻頭言	2
本書を用いる方々のために	4
教案とワークブックの用い方	5
年間カリキュラム	6
第Ⅰ期 準備とはじめの伝道	8
4月教案	10
5月教案	30
6月教案	46
7月教案	62
第Ⅱ期 ガリラヤ伝道	82
8月教案	84
9月教案	100
10月教案	116
11月教案	136
第Ⅲ期 ユダヤ伝道	152
12月教案	154
1月教案	174
2月教案	190
3月教案	206
編集後記	222

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

# 新『牧羊者』発刊のご挨拶



教団委員長  
中島 秀一

『牧羊者』の創刊は一九五二年（昭和二十七年）六月であった。教団創立が前年の七月であったので、『牧羊者』は教団創立後一年にして発刊されたことになる。書物の出版は、今日考えて今日出来るようなものではない。発案、構想、執筆、編集、印刷などの作業を経て、書物が発行されるまでには少なくとも一年はかかる。このように考えてみると、『牧羊者』出版の発案、構想は、教団創立以前から温められていたものであることがわかる。

こうして産み出された『牧羊者』は教団の発展と共に成長し、ここに（二〇〇〇年三月号）五一九号を数えるに至った。改めて、教団創立当初の先輩諸師が抱いておられた、児童の救済に対する熱意の凄さに驚嘆すると共に、『牧羊者』を産み出し、育て、養い、そしてこれを用いて児童伝道、教会教育に携わってこられた多くの牧師やCS教師に対して、心より深い感謝を表す者である。

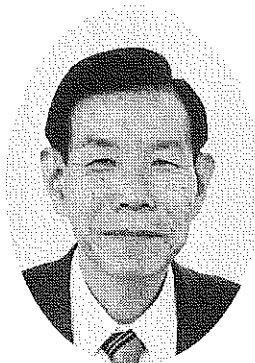
創刊当初の表紙には、本書の特色として「聖書の信仰、児童の救済、児童の霊育」の三項目が掲載されていた。これは創刊以来今日に至るまで変わらない『牧羊者』の編集方針である。この方針に基づいて出版してきた中で、時に『牧羊者』は難しい、使いにくい」と言った声があっ

たのも事実である。そのつと担当者は、『牧羊者』は単なる教案ではなく、教授案である」と釈明してきた。つまり『牧羊者』をそのまま使用するのではなく、『牧羊者』を基盤にして、自分のクラスに適した、自分の教案を作ることを要求してきたのである。その意味において、『牧羊者』は確かに骨太な教案誌であったと言える。その結果、執筆者も購読者も互いに苦闘し努力しながら、今日まで牧師として教師として育てられ、養われてきたのである。そして、何よりもその間にCS生徒が教えられ養われて、今日の教会の働きの重要な担い手になっていることは大きな喜びである。

我々は今や二十一世紀を目前に控えている。主イエスは、「新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるべきである」（マタイ9章17節）と言われた。主イエスは本質的に変わらないお方ではあるが、その働きにおいては常に新しいお方である。二十一世紀に働かれる主イエスもまた、きっと必ず、新しいぶどう酒となって我々に臨まれることであろう。そのために必要なものは新しい皮袋である。教団は先に「教団出版物検討委員会」を設置して、出版物全般にわたって、二十一世紀にふさわしい出版物の内容とその在り様を検討してきた。その第一号として採用されたのがこの、新『牧羊者』である。

教団五十年の歴史において蓄積された知的財産としての出版物は、膨大な分量に及ぶ。ここに編集された新『牧羊者』はそのエキスの一部である。これがCS教師の資料としてのみならず、すべての教団信徒の信仰の成熟のために有用な書物であることを確信し、広く購読されることを期待しつつ、ここに発刊の挨拶とする。

# 『牧羊者』の年刊発行にあたって



関西聖書神学校校長  
金井 由信

私は、一九五七年関西聖書神学校卒業後まもなく、『牧羊者』の名付け親であられる長島師から幼稚科の執筆を命じられて、以来、並河・神原・岡本・鈴木・小山・小島各師の七代の局長のもとで、『牧羊者』の編集と執筆に携わらせて頂きました。

初めは岡本師自らのガリ刷り判の発行でしたが、やがて隔月刊の活版印刷になり、そしてついに今日の月刊の発行になりました。

私の書棚にはガリ刷りの第二号（一九五二年九・十月号）から最近号までの『牧羊者』がズラリと合本にしています。見るたびに先輩諸先生方のご苦労と五十年の歴史の重みをしみじみと覚えます。

このたび、『牧羊者』が一年分の合本になると知り、特に感慨深いものがあります。

昔、若い頃の編集部員だった時に、ある編集会議の席上で、『牧羊者』の年刊発行と、別冊の教師養成講座テキストの合本発行を提案して、「まるで夢のようだ」と同席しておられた先生方に笑われた事を懐かしくおもいます。

あの頃は、寝ても醒めてもということと大げさですが、私の頭の中は『牧

羊者』でいっぱいでした。『どうしたらもっとより良い教案を』『どうしたらもっと日本中の多くの教派の人々に利用して頂けるだろうか』『と、各教派のCS研修会に招かれるたびに、何冊かの見本を持参して宣伝したものです。

また、なぞなぞなどで、『どんなに薄くても、噛めば噛むほど味があるものとは何でしょう？』——そのころは——「すると牧羊者」と洒落たものです。

私の長年の夢は、『牧羊者』の合本が教会学校の教案としてだけではなく、全信徒の聖書研究のテキストとなり、また霊性の向上に役立つ聖書研究の参考書になることです。それが、ひいては教会成長に用いられればと願っております。

今日、どこの教会学校も生徒の減少と教会学校伝道の困難を嘆き、訴えておられます。

しかし、「継続は力」です。最近のことですが、神学校の後期から聴講生が急に増えました。その多くは、教会学校を経験しておられる方々です。また、個人的にも親しい人の救いの知らせを聞きます時に、やはり教会学校の影響のあったことを知り、心強く思うのです。ますます教会学校伝道の重要性の確信を持ちました。

この度、発刊される新しい『牧羊者』が、さらに広く豊かに用いられますようにとお祈りしてやみません。



# 本書を用いる方々のために

## 合本にした理由

『牧羊者』は今年度から大きく模様替えすることになりました。一年分を一冊にまとめたのです。このようにした理由は三つあります。

第一に、教師が前もって十分に準備できるためです。一年間の流れが、一目瞭然と見渡せます。明確な視野をもって、一週ごとの学びができるようになるのではないのでしょうか。

第二にワークブックをより良くするためです。この合本のテキストに準拠して、三カ月に一度、ワークブックを発行します。就学前の子とも向き、文字は読めるが聖書本文の研究まではできない子ども向き、聖書本文を読んだ上で質問に答えることができる人々向きの三種類のワークブックを作成します。

第三に、過去に蓄積された『牧羊者』の豊富な内容を、現代に生かすためです。今まで、多くの牧師たちがまとめてくださったものに手を入れ、現代の状況にあてはまるように修正してみました。

## カリキュラム解説

今までの『牧羊者』は、多少の例外はありますが、概ね、三年サイクルのカリキュラムが、二種

類用いられてきました。一種類は聖書の流れにそったもので、最初の年が「主イエスの生涯」、二年目が「教会の歩み」（以上が新約聖書）、三年目が「救いの計画」（旧約聖書）という構成です。もう一種類は、以上の内容を神学的・実践的にまとめ、一年目は「信仰に生きる」、二年目は「愛に生きる」、そして三年目は「希望に生きる」というテーマで組み立てられていました。

一九九九年度は、「希望に生きる」というテーマでカリキュラムが組まれていましたので、この二〇〇〇年度は、最初にもどって「主イエスの生涯」を学ぶことになりました。

この一年間の中心聖句は、「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることです。父なる神がご自身を人間に示すためにこの地上に遣わされた御子イエスとは、どういう意味で救い主なのかを、一年かけて学びます。

主イエスのご生涯は、ガリラヤ伝道を真ん中にして、その前後の部分に分けられますので、一年を三期に区分しています。特に第一期の最初の単元においては、主イエスは単なる偉人ではなく、人類の墮落のときから預言され、今も天で大祭司としての役割を果たしておられる救い主であることとを、教会暦と関係をもたせながら学べるようになっていきます。その後、主イエスの幼少時代とはじめの伝道のありさまが、共観福音書とヨハネ福音書との調和をはかりつつ、配分されています。

教会暦も無視しないように、苦心して週ごとのテーマを決定しました。

第二期のガリラヤ伝道では、主に共観福音書の中から題材が取られています。四福音書に共通する「パンの奇跡」だけを、ヨハネ福音書から学ぶことになりました。「変貌山」の出来事は第二期のクライマックスと言えるでしょう。最後は収穫感謝の学びでしめくります。

第三期のユダヤ伝道は、まずクリスマス・年末と、季節に応じた週題が定められています。そして新年から、反対者たちのいるユダヤ地方へと向かっていける主イエスの歩みをたどっていきます。共観福音書の記事が多いのですが、ヨハネ福音書からも三つの重要な箇所を選びました。この後、二〇〇一年四月からは、主の十字架・復活の学びを経て、弟子たちによる教会の形成に発展していきます。

以上簡単に、今年度のカリキュラムの概要を説明しました。過去の多くの先生方の玉稿を下敷きにして、一貫性をもつように編集したつもりですが、不十分な所をぜひご指摘ください。次のサイクルでは、さらに良い内容になるように改訂したいと思っています。

また、この一年の流れを十分に頭に入れ、何カ月か先のテキストにも目を通したうえで週ごとの準備をしていただければ、合本の意義が十分におわかりいただけると思います。

なお本誌では口語訳聖書を使用しています。

## 教案の使い方

今回の新『牧羊者』の編集方針は、今までのものと何ら変わりません。「聖書の信仰、児童の救済、児童の霊育」という三本柱をそのまま維持しています。また単なる教案ではなく、これを基盤にして、「自分の教案」を作っていく必要があることも以前と同じです。ただ以下の三点においては、昨年度までのものと違っていることにご注意ください。

第一に、より読みやすくするためにA4の大きさにし、活字も大きくしました。持運びに不便かもしれませんが、準備はできるだけ前日までに自宅でおいてください。また、二色刷りにして重要点を明確にし、月ごとのインデックスをつけて開きやすくしました。

第二に、分級教案を学年別にわけず、あえてA・B・Cにしました。学年ではなく、生徒の成長段階に応じて用いてください。これは、ワークブックA・B・Cとも対応していますので、それらも参照してください。

第三に、中高校と成人科の教案がなくなりしました。いずれは考えるべきことですが、今しばらくは、分級Cとワークブックで対応していただきたいと願っています。

以上の諸点にご留意くださり、ぜひこの新しい『牧羊者』をご利用ください。

## ワークブックA

これは、主に就学前の子どもたち用に作成されています。ぬりえ、簡単なクイズ、工作などが中心になっています。クレヨンやはさみ、のりなどをクラスに用意しておいてください。合本のテキストをヒントにして、お話をしながら作業するのが良いのではないのでしょうか。AとBは厚手の紙を使用しています。

## ワークブックB

これは字の読める子どもで、まだ聖書を十分知らない子どもたちを対象にしています。一応小学校低学年を想定していますが、それより上でも下でも、その内容に適した子どもたちに用いてください。毎週、暗唱聖句を書き込む欄も設けていますので、今までの「金言カード」に代わるものとして用いてください。

## ワークブックC

これは小学校の中ころから上の子どもたち、あるいは中高生でも用いられるように編集してあります。最下段には、暗唱用として新改訳と新共同訳も引用していますので、各教会の実情に応じてご使用下さい。質問のほとんどは教案に準拠しています。下線のあるところに答えを書いてください。最後に自分にあてはめて考える問題が出されている場合もあります。

現在のところ、成人科の教案を用意するまでには至っていませんが、このワークブックは、初心者ならおとも用いられるのではないかと思います。特別なクラスがなくても、自分で聖書を読んで質問に答え、それを牧師が担当教師に提出して添削してもらうという方法もとれるでしょう。そのため、少し厚い紙を用いています。ぜひ信徒教育のために用いてください。

# 教案とワークブックの使い方

# 主イエスの生涯

中心聖句・ヨハネ17:3

## ―主イエスにならおう―

永遠の命とは、  
唯一の、まことの神でいますあなたと、  
まだ、あなたがつかわれた  
イエス・キリストとを知ることあります。



第Ⅰ期 準備とはじめの伝道

2000年			2000年		
4月2日	進級式	最初の預言	4月2日	進級式	最初の預言
9日	永遠の命	ヨハネ17:1-5	9日	永遠の命	ヨハネ17:1-5
16日	十字架の主	ルカ23:44-49	16日	十字架の主	ルカ23:44-49
23日	復活の主	マタイ28:1-10	23日	復活の主	マタイ28:1-10
30日	昇天の主	ルカ24:44-53	30日	昇天の主	ルカ24:44-53
5月7日	大祭司なる主	ヘブル7:22-28	5月7日	大祭司なる主	ヘブル7:22-28

2000年			2000年		
5月14日	母の日	献児式	5月14日	母の日	献児式
21日	ナザレにて	マタイ2:13-23	21日	ナザレにて	マタイ2:13-23
28日	少年イエス	ルカ2:41-52	28日	少年イエス	ルカ2:41-52
6月4日	荒野の声	マタイ3:1-12	6月4日	荒野の声	マタイ3:1-12
11日	イエスの洗礼	マタイ3:13-17	11日	イエスの洗礼	マタイ3:13-17
18日	父の日	マタイ4:1-11	18日	父の日	マタイ4:1-11

2000年			2000年		
6月25日	神の小羊	ヨハネ1:29-34	6月25日	神の小羊	ヨハネ1:29-34
7月2日	最初の弟子たち	ヨハネ1:35-51	7月2日	最初の弟子たち	ヨハネ1:35-51
9日	カナの婚礼	ヨハネ2:1-11	9日	カナの婚礼	ヨハネ2:1-11
16日	宮きよめ	ヨハネ2:13-22	16日	宮きよめ	ヨハネ2:13-22
23日	ニコデモ	ヨハネ3:1-15	23日	ニコデモ	ヨハネ3:1-15
30日	サマリヤの女	ヨハネ4:1-15	30日	サマリヤの女	ヨハネ4:1-15

第Ⅲ期 ユダヤ伝道

2001年			2001年		
12月3日	アドベント	預言された救い主	12月3日	アドベント	預言された救い主
10日	マリアへのみ告げ	ルカ1:26-38	10日	マリアへのみ告げ	ルカ1:26-38
17日	キリストの誕生	ルカ2:1-7	17日	キリストの誕生	ルカ2:1-7
24日	羊飼いのみ告げ	ルカ2:8-20	24日	羊飼いのみ告げ	ルカ2:8-20
31日	年末感謝	詩篇103:1-22	31日	年末感謝	詩篇103:1-22

2001年			2001年		
1月7日	新年	富める農夫	1月7日	新年	富める農夫
14日	ぶどう園の主人	マタイ20:1-16	14日	ぶどう園の主人	マタイ20:1-16
21日	よい羊飼いの	ヨハネ10:1-11	21日	よい羊飼いの	ヨハネ10:1-11
28日	まいごの羊	ルカ15:1-7	28日	まいごの羊	ルカ15:1-7
2月4日	ほつとう息子	ルカ15:11-24	2月4日	ほつとう息子	ルカ15:11-24
11日	バルテマイ	ルカ18:35-43	11日	バルテマイ	ルカ18:35-43
18日	ザアカイ	ルカ19:1-10	18日	ザアカイ	ルカ19:1-10
25日	ラザロ	ヨハネ11:17-44	25日	ラザロ	ヨハネ11:17-44

2001年			2001年		
3月4日	エルサレム入城	マタイ21:1-11	3月4日	エルサレム入城	マタイ21:1-11
11日	十人のおとめ	マタイ25:1-13	11日	十人のおとめ	マタイ25:1-13
18日	ナルドの香油	マルコ14:1-9	18日	ナルドの香油	マルコ14:1-9
25日	洗足	ヨハネ13:1-15	25日	洗足	ヨハネ13:1-15

第Ⅱ期 ガリラヤ伝道

2000年			2000年		
8月6日	ナザレ伝道	ルカ4:14-24	8月6日	ナザレ伝道	ルカ4:14-24
13日	ペテロの召命	ルカ5:1-11	13日	ペテロの召命	ルカ5:1-11
20日	罪人を招く	マタイ9:9-13	20日	罪人を招く	マタイ9:9-13
27日	十二使徒の選び	マルコ3:13-19	27日	十二使徒の選び	マルコ3:13-19

2000年			2000年		
9月3日	振起日	マタイ5:13-16	9月3日	振起日	マタイ5:13-16
10日	地の塩・世の光	マタイ5:43-48	10日	地の塩・世の光	マタイ5:43-48
17日	父なる神の愛	マタイ6:5-15	17日	父なる神の愛	マタイ6:5-15
24日	主の祈り	マタイ7:24-27	24日	主の祈り	マタイ7:24-27

2000年			2000年		
10月1日	百卒長のしもべ	マタイ8:5-13	10月1日	百卒長のしもべ	マタイ8:5-13
8日	悪霊につかれた人	マルコ5:1-20	8日	悪霊につかれた人	マルコ5:1-20
15日	一羽のすずめも	マタイ10:24-33	15日	一羽のすずめも	マタイ10:24-33
22日	パンの奇跡	ヨハネ6:1-14	22日	パンの奇跡	ヨハネ6:1-14
29日	湖の奇跡	マルコ6:45-52	29日	湖の奇跡	マルコ6:45-52

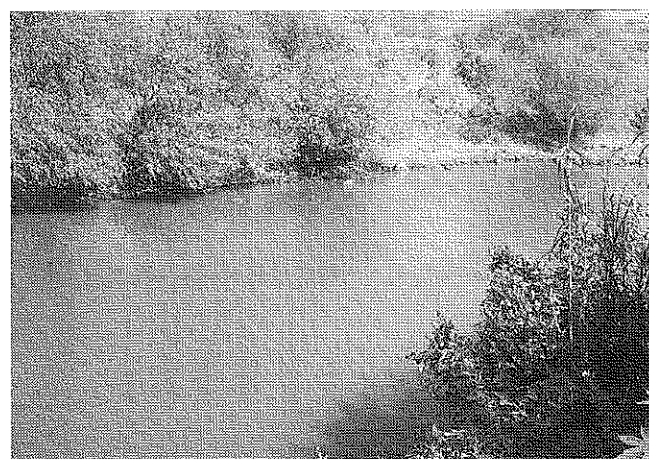
2000年			2000年		
11月5日	ペテロの告白	マタイ16:13-20	11月5日	ペテロの告白	マタイ16:13-20
12日	十字架の道	マタイ16:21-28	12日	十字架の道	マタイ16:21-28
19日	変貌山	マタイ17:1-13	19日	変貌山	マタイ17:1-13
26日	収穫感謝	申命記26:1-11	26日	収穫感謝	申命記26:1-11



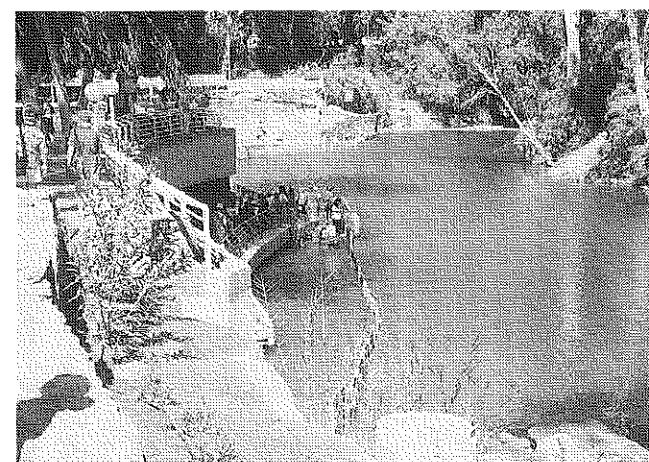
## 第Ⅰ期 準備とはじめの伝道

イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があつて言った、「これはわたしの愛する子。わたしの心になう者である」。

マタイによる福音書  
3章16節、17節



ヨルダン川の流れ  
ガリラヤ湖から流れ出て、南の死海にそそいでいるヨルダン川は、荒野のあいだの深い峡谷を蛇行して流れて早い。主イエスは、30才をすぎたころ、ナザレをあとにして、死海に近いヨルダン川のほとりで預言者ヨハネから、洗礼を受けられた。

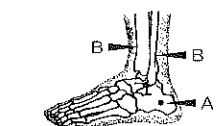
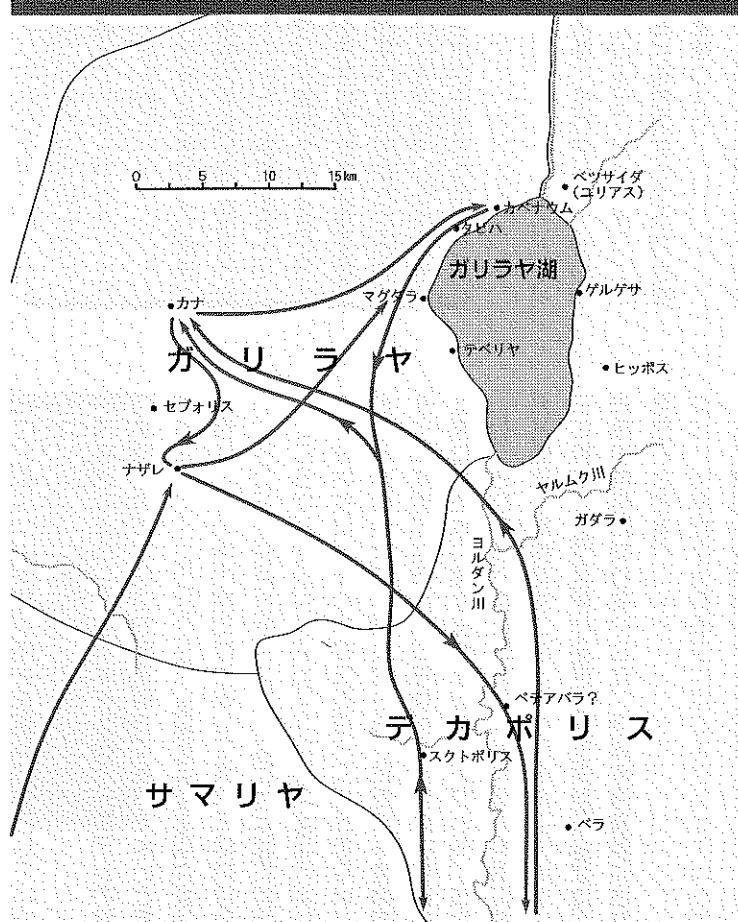


ガリラヤ湖に近い  
ヨルダン川での洗礼風景

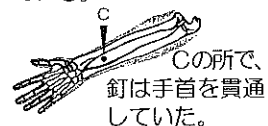
おおよそ三十才になられた頃、時満ちて主イエスはお育ちなさったナザレを出て公生涯に入られます。まずヨルダン川にて洗礼を受けられ、聖霊に導かれてユダの荒野をさまよい、悪魔の試みに勝利され、伝道が始まりました。ガリラヤの海辺で最初の弟子たちを召し、カナの婚礼にて最初の栄光を現されました。

4月は、受難週、イースターを迎えます。十字架に歩まれる主、復活の主、昇天の主、さらに、天に昇り私たちの大祭司として執り成しておられる主について学びます。

### キリストの初期旅行



この男性の左足の絵。釘が貫通しているのがよくわかる。Aは、釘が貫通している場所。Bの箇所では骨が折れている。



Cの所で、釘は手首を貫通していた。

1968年、エルサレム近郊で発掘された骨から推測される十字架刑の様子。この男性は、26才で、身長167cmと推定される。釘は板切れを通してうちつけられたようである。足の骨は折られているために、全体重が手首の釘にかかり、罪人は窒息して死に至る。



### 十字架刑

十字架刑は、ローマ帝国の雄弁家キケロが「最も残酷で恐ろしい刑罰」と述べているものである。殺人者、強盗、裏切者などにも課せられたが、最も多いのは、反乱者に対してであった。ローマ帝国は広くこの刑を用いた。ローマに対する戦いにおいて何万というユダヤ人がこの刑に処せられた。一日に五百人が十字架にかけられたという記録もある。

## 進級式

● 週 題 最初の預言

● 聖 書 創世記3・8～19

● 暗唱聖句 彼はおまえのかしらを砕き、おま

えは彼のかかとを砕くであろう。

● 目 標 最初の人間が罪を犯したときから、

その罪を解決する救い主が与えられるとの預言がされていたことを教える。

## 導入

新しい学年が始まります。それぞれ一つずつ学年が上がリ、「さあ、がんばるぞ」とはりきっているでしょうね。新学年も、み言葉をしっかりと聞いて、神様に従っていきましょう。

## 最初の罪

神様は、はじめに天と地を造られました。大地や大空、太陽や月、植物や動物を造られました。そして、最後に人間を造られました。

「人間はサルから進化した」と言われていますが、聖書にはそのように書かれていません。人間は、神様が創造されたのです。

神様は、ご自分のかたちに似せて、男の人を造り、アダムと名づけられ、そしてアダムから女の人を造り、エバと名づけられました。アダムとエ

バは、エデンの園で、仲よく楽しく暮らしていました。

神様は二人に、一本の木を除いて、エデンの園にあるどの木からでも実を取って食べてよいと言われました。一本の木とは、善悪を知る木でした。神様は、その木の実だけは決して食べてはいけないうい、食べたら必ず死ぬと、きつく命じられました。ところが、ある日、へびがエバに近づきました。へびは彼女に、その木の実を食べても死なない、むしろ神様のように賢くなれる、とだましたのです。彼女は、とうとう、神様が食べてはいけないと言われた木の実を食べました。アダムも、彼女に勧められて食べました。二人は神様の命令に背いてしまったのです。

これが、人間が犯した最初の罪でした。罪とは、神様の命令に従わないこと、神様のみ言葉にさからうことです。

## 神様のさばき

神様には、彼らが罪を犯したことが、すぐにおわかりになりました。神様の前には、隠すことができるものなど、何ひとつないのです。

神様は、彼らに厳しいさばきをお与えになりました。エバには子どもを生む苦しみを、アダムには働く苦勞を与えられました。そして、アダムもエバも、やがて必ず死ななければならぬと言われました。人間はなぜ死ぬかということ、罪を犯したからなんですね。

しかし、何と言っても、エバをだましたへびが

もっとも厳しくさばかれました。それは、へびが一生、地をはい回らなければならないこと、そして「女のすえ」がへびの頭を砕くことでした。

## 救いの約束

実は、この「女のすえ」がへびの頭を砕くということが、わたしたちに対する神様の救いの約束だったのです。「女のすえ」とは、救い主イエス様のことです。へびは、わたしたちを罪に縛りつけるサタンのことを表しています。

へびが「女のすえ」のかかとを砕くというのは、イエス様が十字架の苦しみを受けられることです。イエス様は、十字架の上で、大変な苦しみを味わわれました。しかし、イエス様は、ご自分が死なれることによって、わたしたちの罪をおゆるしになりました。サタンは、わたしたちをいつまでも罪の中に閉じ込めておくことでしたが、その計画は、十字架によってみごとに砕かれたのです。この救いの約束が、アダムとエバが罪を犯した直後に示されたのは驚くべきことです。神様は、それほどわたしたちを愛してくださっているのですね。

## 結び

わたしたちにも、神様に従いたくない心がありませんか。自分の罪を悔い改め、イエス様の十字架がわたしたちのためだったと信じて、救いをいただきます。女は「女のすえ」として来てくださったイエス様、十字架で勝利をくださったイエス様を、心から感謝しましょう。

## 分級 A

## 〈分級活動例〉

おはよう!! 今週から四月になりました。えりちゃんもすすむくんも一年生のクラスにいったけど、わたしたちは元気をだしてたのしくしようね。さて、神様が一番はじめにつくられた男の人を「アダム」といいます。その次につくられたのは女の人で「エバ」というのよ。

アダムさんとエバさんは「エデンの園」というところで神様といっしょにしゃあせにくらしていました。

ところがある日、アダムさんとエバさんはへびにだまされて、神様とのお約束をやぶってしまいました。そのときからアダムさんもエバさんも神様にしかられるのがこわくて、神様が「アダムよ、エバよ、どこにいるんだ」と呼んでくださったも逃げてばかりいました。

そして、とうとう神様といっしょにエデンの園でくらすことができないで出ていくことになりました。

神様はこのアダムさんとエバさんがかわいそうでなりません。「なんとかして救ってあげよう。そして、もう一度わたしのところにもどってこれる

ようにしてあげよう」と思われました。

それはどんな方法だとももう?

それは、罪をおかしたわたしたち人間のところにイエス様をおくってくださいのことだったのよ。神様はすぐにその準備をしてくださいました。そして、一番いい時にイエス様を救い主としてお

くってくださいましたよ。

## 〈あそび〉

きょうは進級式です。

あたらしく幼稚園に入ったお友だちはいますか。また、幼稚園や保育園に入園しようとしているお友だちもあるでしょう。

お名前を紹介したり、園の名前を紹介したり、あるいは、自分の家の住所、電話番号などいえるかな? お互いに話しあってみましょう。

## 〈ワーク〉

アダムとエバを、へびにじゃまされなくて神様に会いに行かせてください。ぬり絵をしてもいいですよ。

## 分級 B

## 〈キーポイント〉

## 救い主のやくそく

## 〈導入〉

春です! 一年生の皆さん、ご入学、おめでとう! 二年生、三年生へ、進級おめでとう! ピッカピカの新しい学年、この一年も神様の祝福をいっぱいいただく年でありますように。これは、わたしたちの大好きなイエス様のご生涯を学びます。しかも神様に預言された救い主としてです。たのしみです。この一年で、もっともイエス様を大好きになり、心に深く信じる子どもになりたいね。

## 〈聖書に親しむ〉

創世記3・8～19です。ナレーター、神様、人女とわかれて読みます。暗唱聖句は線を引いて覚えます。

## 〈よげんワークをします〉

○の中に、正しいことは入れましょう。そしてそれぞれ正しいところと、線で結んでください。その意味も話しあってみましょう。おはなし、よくわかったかな?

## 〈まちがいない、救いのやくそく〉

するがしこいあくまにさそわれて、人は妻と共に罪を犯してしまつた! でも神様は、そのために、この救い主の預言をしてくださって、救いのやくそくをされました。そしてそれはみことになしとげられたのです。神様のすばらしい愛をほめただえましょう。



## 分級C

〈キーポイント〉

## 最初の預言

## 〈導入〉

四月になりました。もう春ですね。長い冬の間に眠っていた自然界も目を覚ましています。それぞれ進級するみなさんも、期待に胸をふくらませていくことでしょう。わたしたちの信仰の導き手であり、その完成者であるイエス様を仰ぎ見つつ、がんばりましょう。

## 〈聖書を読む〉

今日は創世記3章8節〜19節です。ここにはどのような事が書かれてあるのか考えながら読んでみましょう。15節の後半が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。そして次の質問に答えましょう。

## 〈質問〉

①ここに登場している人たちはなんという名前ですか。

●アダムとエバです。

神様が最初に創られた人がアダムです。神様はアダムの助け手としてエバをお与えになりました。

②アダムとエバがいた所はなんと呼ばれていますか。

か(2・8、15)。

●エデンの園です。そこは実にすばらしく、祝福に満ちた所でした。アダムとエバはいつも神様と親しく、お話することができました。

③神様はアダムに一つだけ命令をお与えになりました。それはどのような命令ですか(2・17)。

●エデンの園にある木で善悪を知る木からは実を取って食べてはならない、という命令です。ほかにあった木からはいくらでも取って食べることがゆるされました。しかしただ一つ善悪を知る木からは取って食べてはならないとおっしゃったのです。

④神様の命令を守らないように話しかけたのは？(1節)

●へび(その正体はサタン)です。へびは神様のお言葉を悪がしく使ってまずエバに話しかけました。へびはエバに対して「ほんとうに神様が言われたのですか」と言っていますね。これはエバに神様のお言葉をうたがわせようとするへびの作戦です。

⑤アダムとエバはへびの悪がしい誘惑に対してどう応答しましたか(6節)。

●その木の実を見るととてもおいしそうで、目にも美しく、そして賢くなれそうだと思ったので、まずエバがその実を取って食べ、次に夫のアダムにも与えてしまいました。彼らは神様の命令を守りませんでした。これが罪の始まりです。

⑥アダムとエバが罪を犯した後、神様が彼らに近づかれました。彼らはどうしましたか(8節)。

何となく人目をはばかる心境は、生まれながらにして持ち合わせたものだ。彼らは、主なる神に対して罪を犯したからである。

9 主なる神は、あなたはどこにいるのかと人に呼びかけられた。神にはすべてがお見通しなのだから、隠し通せるはずがない。問いに対して、「私は、罪を犯しました」と素直に認めればよかったのだが…。

10 人は恐れて身を隠したと答える。罪は神に対する恐れを生み出し、神と人との交わりを失わせる。

11 神は、だれが知らせたのかと質問。神の命令に背いた彼らに、罪の告白が促されている。

12 あの女がと、アダムは妻に責任転嫁する。実はアダムは、「こうなったのは、彼女のせいだ」と言いたかったのだ。アダムは、禁断の木の実を食べてはならないのを承知していた。夫婦は共に神との約束を守る責任を共有していた。しかし彼は、約束を破った責任を彼女になすりつけて、逃げた。

13 責任転嫁は、女も同じだった。へびがわたしをだましたと答える。恐れて隠れて逃げていた二人が、〇〇のせいと答える姿に、へびのようにがん首を上げて、神と対抗しようとする罪人の生き方が見えてくる。罪人とは、神への反逆児なのだ。

14 ここでは、女を誘惑したへびに刑罰を課している。そのへびは、「悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わすへび」である(黙示録12・9)。

15 ここにはキリストの福音の予表が記されている。ロマ16・20、ヨハネ13・18と合わせ見ている。

●神様の顔をみることができず、木の間に身を隠しました。彼らは神様をおそれて隠れてしまったのです。

人は罪を犯したことによって、神様に対して恐れを覚える者となりました。神様と人々との間には、深い深い罪という溝ができてしまったのです(イザヤ59・2)。神様との交わりが断たれてしまったのです。

神様に問いつめられた彼らは自分が悪かったと認めることができませんでした。そうした中で、神様がへびに言われた言葉に注目しましょう。

⑦神様は「彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」と言われました。「彼」とはだれのことでしょうか(15節)。

●イエス様です。なんと神様は、人が罪を犯したこの時に、もうすでに救い主イエス様をこの世に遣わされることを預言されたのです。ここに最初の預言があるのです。

「かしら」とは頭のことですね。サタンがどんなに暴れてもイエス様がついに勝利をとられるのです。

⑧神様は、罪を犯した彼らに何をしてくださったでしょうか(21節)。

●神様は動物を殺してその皮の着物を彼らに着せられました。その動物が彼らの身代わりとなったのです。この動物はやがて遣わされるイエス様を表しています。愛とあわれみに満ちておられる神様を心から賛美しましょう。

## 研究資料

## 週題 最初の預言

今年度は「主イエスの生涯」を年題としており、その最初の学びは人類の墮落の記事までさかのぼる。すでにこの時点において、へびで象徴されているサタンのかしらを砕かれる救い主の登場が預言されているからである。

## テキスト

創造主なる神は、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り…」(創世記1・26)とあるように、人を特別な存在として世に置かれた。その人に神は、特別な使命を備える。神を賛美し、神が造られたすべての生き物を治める使命だ。また、神は人の助け手として女を造り、男と一体とした。エデンの園は、彼らの最初の住まいとなった。神は、彼らとの間に単純とも思えるような一つの約束をするが、彼らは守れなかった。これが罪の始まりである。しかし神はだちに救い主に関する預言を与えられた。

8 彼らは禁断の実を口にしてしまって、今までと全く違った意識がでてくるようになった。それまでは、神が園を歩かれる足音を耳にしても、二人には何でもなかったものが、神の顔を避けて…身を隠すようになる。後ろめたいことがあると、

だきたい。鍵になるのは、女のすえ(子孫)という言葉である。この語は単数で記されているから、人となられた神、救い主、すなわちイエス・キリストを指す。救い主は、おまえのかしら(頭)を砕きとあるように、サタンに完全に勝利される。サタンは、アダム夫婦に巧妙にしかも狡猾に働き、神から彼らを奪い取ることに成功した。それ以来、人は罪を内に宿して誕生するようになる。しかし、時が満ちて神の子なるイエスが世に下られ、十字架上で贖う愛をもって勝利されたのである。サタンは表向きには勝利したかのように見えたが、じつは決定的に敗北したのだ。

サタンは、自分のかしらを砕かれても彼(キリスト)のかかとを砕くとあるから、彼の受けた傷は、致命的ではなかった。サタンの最期は、黙示録20・10にあるとおり、我らが生きている時代よりも先のことである。

世に罪が入ってきたと同時に十字架が預言された点を、しっかり受けとめておきたい。

16〜19 ここには、罪の結果として人の世界に入ってきたものが記されている。これは、今も避けて通れないものだ。

①苦しんで子を産むこと。

②苦しんで食物を取ることを。

③ちに帰る(死ぬ)こと。

生きることは、喜びも楽しみもあるが、反面苦しみも伴う。罪を犯した人は、苦しみと向かい合って生きていかなければならないのである。

# 礼拝メッセージ

●週 題 永遠の命  
●聖 書 ヨハネによる福音書17・1～5  
●暗唱聖句 永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエスキリストとを知ることです。ヨハネ17・3  
●目 標 永遠の命とは、神とイエス・キリストを知ることだと教えて、今年テーマについての理解を深める。

## 導入

新学期が始まりましたね。新しい教室、新しい教科書。新しいお友だちもできましたか。気持ちも新たに教会学校にはげみましょう。  
今年は一年間「イエス様のご生涯」について学びます。今日は永遠の命について学ぶことにします。

## 命あるものとなないもの

木曾川は日本の川でも大きな川の一つです。ある時、何メートルもある大木が川の激しい流れに沿って流されていきました。ところが流される木とは反対に、何匹かの小さな魚が群れを作って川の流れに逆らってグイグイと上っていったということです。どんなに大きな木でも、命がなければ流されてしまいます。反対に小さな魚であっても、命があるならどんなに激しい流れでも負けずに上

ることが出来ます。木には命がなく、魚には命があるからです。

## 永遠の命とは

①イエス様がくださる命です。イエス様が父なる神様に祈られた中で、「子に賜ったすべての者に永遠の命を授けさせるため」と言われました。イエス様は私たちに永遠の命を与えるために来てくださったのです。

②勝利の命です。私たちがこの永遠の命をいただく時に、三つのものに勝利することが出来ます。一つは罪です。うそ、けんか、わがまま、ねたみ、争い、ごうまん……。罪は神様から私たちを離れさせます。けれども、イエス様を信じて永遠の命をいただくなら、私たちは罪に勝つことが出来ます。二つめは誘惑です。悪魔がどんなにうまく誘惑をしかけても、永遠の命がありますから勝利することが出来ます。そして三つめに、死に勝利することが出来ます。どんな人でもかならず死を迎えます。しかし、イエス様はだれも勝つことのできない死に打ち勝ってくださいました。十字架にかけられ、三日目によりみがえられたのです。永遠の命をいただく時、死は恐ろしくなくなります。死は永遠の世界への入口にすぎません。③どこまでも続く命です。死の壁を打ち破り、天国でいつまでもイエス様といっしょにすごすことができるのです。何とすばらしい命でしょう。私たちが永遠の命をいただきたいですね。では、どうすれば永遠の命をいただけるのでしょうか。

## 永遠の命をいただくには

①父なる神様を信じることです。神様は私たちを愛してくださって、ひとり子であるイエス様をおつかわしく下さいました。それは私たちがこのすばらしい永遠の命をいただくためなのです。神様はそれほどまでに私たちを愛してくださっています。神様の愛に感謝し、神様を信じましょう。

②そして神様のひとり子イエス様を信じることです。今日の暗唱聖句で「知る」と言われていますが、これは「信じる」ことです。イエス様はなんの罪も犯されなかったにもかかわらず、恐ろしい十字架にかけられました。本当ならば、私たちが自分の罪のために神様から罰を受けなければならなかったのです。しかし、イエス様が私たちの身代わりとなって神様の罰を受けてくださいました。私たちがこれまで犯してきた罪を悔い改め、イエス様を信じるなら、私たちの罪はすべてゆるされ、その結果、永遠の命をいただくことが出来ます。ただ信じるだけでいいのです。

## 結び

今日、私たちの罪を悔い改めましょう。イエス様があなたの罪のために十字架にかけてくださいましたことを信じ、イエス様を受け入れ、すばらしい永遠の命をいただきましょう。イエス様はあなたの心の戸をだいておられます。戸をあけてイエス様を心の中にお迎えしようではありませんか。

# 分級 A

## 準備するもの

模造紙位の大きさで「十字架の門」を作る。ペラペラなので、段ボールなどで補強する。門の高さ、幅は、子どもがくぐれる位にする(図1)。

## 分級活動例

①幼稚科クラスの先生と生徒の紹介をしましょう。先生の名前、生徒の名前、年齢は上手に聞き出して、全員で確認しましょう。

②(準備した十字架を出して)

「これは何でしょう?」「十字架」と答えができれば一緒によろこび、ほめる。

「これは十字架です。皆で一緒に言いましょ。」イエス様は、十字架にかかってくださいました。わたしたちに、天国行きのいのちをくださったためです。イエス様は「わたしは門です」と言われました。(十字架の門を開けながら)そして、「わたしを通してはいる者は、救われる」と言われました。さあ、わたしたちみんな、今年はイエス様を信じて、十字架の門から入って、天国のいのちをいただきましょね。

③みんなで「十字架、十字架」を歌いながら十字架の門をくぐりましょ。

(「友よ歌おう」40番。教師と生徒が一人ずつ通り、通り終わった生徒が、代って十字架を持つよう

# 分級 B

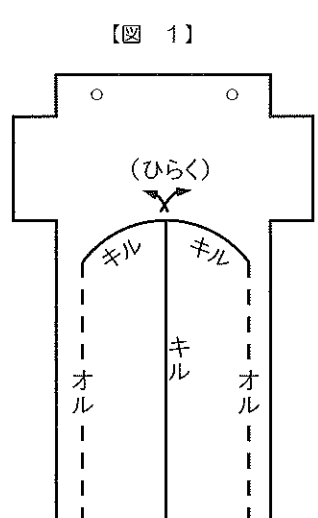
## キー・ポイント

## ふくいんのきしゃ

## 導入

みなさん、新しい学年が始まりましたね。新しい友だちもできましたか。ぜひ友だちを教会に誘ってください。そして一緒にイエス様のことを学び、天国行きの汽車に乗りましょ。

## 聖書に親しむ



うにしたらいいと思います。小さい子の時は、大きい子が手伝ってあげましょ。

## お祈りの時

イエス様、ぼくも(わたしも)イエス様の十字架の門をくぐって、天国のいのちをもらえますように。アーメン。

## ワーク

えいえんのいのちへのとびらを作りましょ。

ヨハネ17・1～5を順番に読み、暗唱聖句は線を引いて覚えましょ。きょうの暗唱聖句は、一年間ずっと忘れないで、いつでも言えるようにしましょう。

## 今週のさんび

ふくいんのきしゃ(「ふくいん子どもさんびか」79番)(みんなできしゃをつくって歌う)

ふくいんのきしゃにのってる

天国行きに(ポッポ)

罪のえきから出て もうもどらない

切符はいらない 主の救いがある

それでただ行く(ポッポ)

ふくいんのきしゃにのってる

天国行きに

天国行きワークをしよう

きょう礼拝できいたお話をもとにやります。

永遠の命をもらって、イエス様といっしょに天国に行ける人はお友だち? 手のつなをぶさわしい動物につなぎ、天国行きの「ふくいんのきしゃ」を完成しよう。色もぬっていいですよ。

## きょうのおいのり

神様、わたしもイエス様を信じます。罪をゆるし、永遠のいのちをください。そして、天国行きの「ふくいんのきしゃ」に乗りせてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

## 今週のやくそく

毎朝おきたら一番に、「きょう一日おまもりください」とお祈りをして、イエス様といっしょに一日をすごすこと。

# 分級 A・B



## 分級C

—キーポイント—

## イエス様を知る

## 〈導入〉

さあ、新学期が始まりましたね。新しいクラスには少し慣れましたか。新しい学校生活に期待していることがあれば、一言ずつ話しあってください。また、教会学校にも期待していることがあれば、話し合いましょう。

さて、今日はイエス様が十字架にかかられる前日、父なる神様に祈られたところから学びます。

## 〈聖書を読もう〉

ヨハネによる福音書17章1節～5節を順番に読んでみましょう。3節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

## 〈質問〉

- ①永遠のいのちとは、何を知ることだと言われていますか。二つのことが書かれていますね(3節)。
- 唯一のまことの神を知ること。
- 神が遣わされたイエス・キリストを知ること。
- ②父なる神様とは、どのような方ですか(ヨハネ3・16)。
- ひとり子のイエス様をこの世に送ってください

## 研究資料

先週教えられた「罪からの救い主」が、イエス・キリストであることを学ぶ。今日の暗唱聖句は、今年度の中心聖句でもあることに注意していただきたい。

主イエスの生涯は、「キリストは…十字架の死に至るまで従順であられた」(ペリピ2・6～8)の聖句に要約される。そして、その主に対する我らの姿勢は、「イエス・キリストを知ることであり、また」に尽きるだろう。おさなごらに主を知らしめていく、これが教会学校教師の使命である。

期題 この一年間で、「準備とはじめの伝道」「ガリラヤ伝道」「ユダヤ伝道」と、キリスト伝を大きく三期に分けて学ぶが、その第一期である。公生涯に入られるまでと、ヨハネによる福音書だけが記す「はじめの伝道」の部分である。

単元 「救い主イエス」においては、教会暦との関係から、神学的な観点で主イエスの働きを概観する。

## 週題 永遠の命

年間テーマの緒論である。主の生涯を知ること、ただ主の歩まれた道筋をたどるだけでなく、主がどのような心で父なる神に従って行かれたかを知り、主の従順にあずからせられることであ

ました。それは、神様は、わたしたちが罪のために滅びるのを黙って見逃すことのできない方だからです。神様はそれほどわたしたち一人ひとりを愛してくださっています。

## ③イエス様はどのような方ですか。

- 父なる神様から遣わされた神のひとり子です。
- 信じる者に永遠のいのちを与えてくださる方です(ヨハネ3・36)。

先週学んだように、わたしたち人間は、神様の命令を守れず、罪を犯す者となりました。そのままでは、滅んでしまいます。でもイエス様はわたしたちの身代わりとして罰を受けるために、この世界に来てくださいました。父なる神様が約束してくださった「罪からの救い主」がイエス様なのです。イエス様を信じるなら、どんな人でも永遠のいのちをいただくことができます。

④イエス様をより良く知るために、聖書から学んでいきましょう。今日開いたヨハネによる福音書の中には、イエス様が自己紹介しておられる言葉が七つ書かれています。順番にひらいて線を引いていきましょう。

- 「わたしが命のパンである。」 (6・35)
- 「わたしは世の光である。」 (8・12)
- 「わたしは門である。」 (10・9)
- 「わたしはよい羊飼である。」 (10・11)
- 「わたしはよみがえりであり、命である。」 (11・25)
- 「わたしは道であり、真理であり、命である。」 (14・6)

る。これが永遠の命につながるのだ。

人類に永遠の命を与えることは、主の来臨の目的であった(ヨハネ3・16)。人類は、エデン追放以来、永遠の命を求めて歩んできたが、いまだに永遠に生きる肉体をもっていない。しかし、イエスはすでにここで明確に言われた。すなわち、暗唱聖句が語るように、永遠の命とは何か物質的なものではなく、唯一のまことの神と、神から遣わされたキリストを知ることなのである。

パウロは、「主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値」(ペリピ3・8)と言った。ここでの知識とは、頭脳的知識ではなく、体験的知識である。つまり、主が我らのために十字架にかかり、罪のゆるしときよめの全き贖いをなしとげたもうたことを信じ、信仰をもってこの恵みを自分のものとするのだ。これが永遠の命である。これは、恵みと信仰による神の計画と言える。神の側の恵みと、我らの側の信仰によって、永遠の命を得られるのである。

主は、神がご自分に賜わった弟子たちに、これを与えたいと願われた。そして主は、弟子たちだけでなく、すべて主を信じ従おうとする者を「自分に賜わった者」と呼ばれ、全き救いを与えようとする。そのために十字架の贖いがなされたのだ。

## テキスト

本章は、十字架にかかられる前の、イエスの大祭司としての祈りである。バックストン師は、本章を「ヨハネ伝の至聖所」と言われた。主ご自身のための祈り(1～5節)、弟子たちのための祈り

●「わたしはまことのぶどうの木である。」(15・1) イエス様だけが、わたしたちに永遠のいのちを与えることのできる方です。何とすばらしい救い主を、父なる神様は与えてくださったことでしょうか。イエス様を送ってくださいた神様に感謝しましょう。また、イエス様の自己紹介を知って、素直にその通りの方と信じましょう。

◎みなさんは、イエス様についてどんなことを知っていますか。つぎの質問に答えてみましょう。

- Q イエス様がうまれた町は?
- A (ベツレヘム)
- Q イエス様の両親の名前は?
- A (ヨセフとマリヤ)
- Q イエス様の兄弟たちの名前は?
- A (マルコ6・3)

(ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモン)

Q イエス様は兄弟の中で何番目?

A (二番目)

(その他、イエス様について質問を考えよう)  
今年の一年間、イエス様のご生涯について学びます。イエス様のごことがたくさんわかれば、それだけイエス様を深く知り、イエス様をより深く信じるができます。

## 〈祈り〉

みんなで心を合わせて祈りましょう。イエス様をもっと深く知り、もっと深く愛せますように。そして永遠のいのちを得ることが出来ますように。

(6～19節)、教会のための祈り(20～26節)の三つの部分から成っている。

1 これらのこととは、14章から16章までの主の惜別説教を指す。13章で弟子たちの足を洗うことによって行為で教えられ、惜別説教において言葉で教えられた主は、ここで祈りをもって教えられている。

父よ、時がきました。主はこれまで度々、ご自分の「時」がまだ来ないと言ってこられたが(2・4、7・6)、受難週に入って、「時」が来たと言われるようになった(12・23)。主の「時」とは、全人類の救いの完成である十字架のあがないの時であった。

2 子に賜わったすべての者に。主は弟子たちのことを、神がご自分に賜わった者と言われた。主は、ご自身が栄光を受けられた後も、迫害の待ち受けている厳しいこの世に残されていく彼らを愛し、また彼らの全存在に責任を持たれたのである。

5 栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。栄光とは、御子が受肉前に持っておられた言(口「ゴス」としての栄光(1・1～5)である。主は神の栄光を捨てて人となり、世に下られた。そして十字架の贖いを完成されたあと、復活―昇天―ご即位の栄光(ペリピ2・9～11、小島伊助師)を父から受けようとする。この栄光が回復されるようにというのが、テキストの主ご自身のための祈りであった。主は、十字架の苦難のかたに、必ず回復される栄光を望み見、そして、回復させたまう神の真実を信じて祈られたのである。

## 受難週

●週題 十字架の主

●聖書 ルカによる福音書23・44～49

●暗唱聖句 父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。 ルカ23・46

## ●目標

主イエスが十字架にかかられたのは、人類の罪の身代わりのためであり、それを神のご計画として受け入れられたことを知らせる。

## 導入

今日から受難週が始まります。イエス様がわたしたちのために苦しみを受けられたことを覚えながら、この一週間を過ごしましょう。

## 十字架上のイエス様

世界で最初の人、アダムとエバが神様のご命令を守らなかった話を覚えていますか。そこに罪が生まれ、わたしたちは罪人になってしまいました。そのままでは滅んでしまいます。しかし、罪と滅びの中から救ってくださるのがイエス様です。イエス様は、何の罪も犯されなかったのに、捕らえられ、つばをかけられ、たたかれました。悪口を言われ、むち打たれて、大変な苦しみを受けられました。しかし、どれほど苦しくても、決して抵抗せず、ただ忍耐強く黙っておられました。イエス様の弟子だったペテロは、後でその様子

を思い起こして、手紙の中で、「キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず……」と書いています（1ペテロ2・22、23）。

イエス様は、とうとう十字架につけられました。十字架は、一番ひどい罪を犯した人がつけられる死刑の道具です。人間を生きたまま、両手両足を釘づけにして、死ぬまで放っておくという恐ろしい方法でした。

イエス様は、十字架の苦しみを進んで受けてくださいました。それは、わたしたちの罪のためでした。イエス様は、十字架の上で「父よ、彼らをおゆるしてください」と祈られました。それは、わたしたちの罪がゆるされるようにというお祈りでした。イエス様は、わたしたちの身代わりに死なれたのです。

## み手にゆだねます

イエス様は、十字架の上で、「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と言われて息を引き取られました。ご自分を父なる神様にまったくお任せになられたのです。悪口を言われても、どんなに苦しめられても、ただ忍耐されたのは、イエス様が神様にすべてを委ねておられたからです。

これは、イエス様の初めからの姿勢でした。イエス様は、神の御子であられたにもかかわらず、わたしたちと同じ人間になられ、十字架で死なれる時まで、父なる神様のまごころにすなおに従

われました。イエス様は、一度でも神様にさからって自分勝手にしようとしたことはありませんでした。

最後に「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と言われたのも、初めからだだまごころにだけ従ってこられたからでした。このイエス様によって、わたしたちが救われる道が開かれたのです。

## 百卒長の信仰告白

十字架のそばには、ローマ軍の隊長が立っていました。彼は、このようにイエス様が息を引き取られるのを見て、「ほんとうにこの人は神の子だった」と告白しました（マタイ27・54）。彼はイエス様がどこまでも従順に従われた様子を見て、この人こそ確かに、わたしたちを罪から救ってくださいる神の子だと信じたのです。

## 結び

イエス様は、わたしたちの罪のために十字架にかかって死なれました。わたしたちが罪を悔い改めて、十字架を信じるなら、だれでも罪がゆるされ、救われます。あなたは、もうこの救いをいただきます。

イエス様は、父なる神様のまごころに従って、十字架の苦しみを受けられました。わたしたちも、神様のまごころに従っていきたいですね。イエス様のよう、どんな時でも神様にお任せして、神様に信頼して進んでいきましょう。

## 分級 A

## ＜準備するもの＞

十字架にかけられたイエス様の絵。

## ＜分級活動例＞

おはよう！

ケンちゃんもマリちゃんも教会学校にくるとき教会に十字架が立っているのをみつけた？

それともまだみつけてないかな。

まだ見てないお友だちはあとでいっしょに見ようね。

どうして教会には十字架がついているのに、ほかのおうちには十字架がついてないのかな？

それはね、教会からのお知らせなの。

「イエス様がみんなの罪のかわりに十字架にかかって死んでくださったのよ。だからイエス様を信じてください。イエス様を信じる人はみんな神様の子どもになって、天国に入れるようになれるよ。」って。

わたしたちの心の中には、きたくない心がたくさんあるでしょ？ そんなきたくない心のままでは、天国に行けないで地獄に行ってしまうのよ。イエス様はともきれいな心の方だったから、わたしたちのきたくない心といっしょに死んでくだ

## 分級 B

## ＜キーポイント＞

## 救いの道

## ＜導入＞

きょうは、今年の受難週礼拝の日です。受難週とはむずかしい言い方だけど、イエス様がわたしに代わって、十字架の上で罪の罰を受けて苦しまれたのを記念する週です。十字架こそ、わたしのための、そして、世界中のすべての人たちのための「救いの道」なのです。

## ＜聖書に親しむ＞

ルカ23・44～49です。短いところですが、とてもとてもすごい光景です。ナレーター、イエス様、百卒長とわかれて読みましょう。暗唱聖句もしっかり覚えてください。

## ＜十字架ワークです＞

あかるい天への救いの道は、いったいどちらの十字架？ どんな人がつけられたのでしょうか。○の中に文字を入れましょう。そして、救いの道となった十字架を明るくぬります。他の十字架やバックはくらくらいい色でぬってください。

## ＜すべてを神におゆだねして＞

六時間の苦しみの中、特に十二時からの暗やみの中でも、イエス様はおわりまで神様のまごころにおしたが、いし、すべてをゆだねられて、死んでくださいました。そこにただ一つの救いの道が開かれたのです。イエス様、ほんとうにありがとうございます。今週は主イエス様のお苦しみを思い、節約して、イースターに感謝の献金をしましょう。





## 分級C

キー・ポイント

みこころにゆだねよう

〈導入〉

今日はバームサンデー（日本語では「しゅろの聖日」）。イエス様がろばの子に乗ってエルサレムの町に入られた時、人々がしゅろの葉を手にして、あるいはまた自分たちの上着を道に敷いて、「ホサナ、主の御名によってきたる者に祝福あれ」とイエス様を歓迎したところから、そのように呼ばれています。

イエス様がエルサレムの町に入られた目的はただ一つ。すべての人の罪のために身代わりとなって十字架にかかることでした。今週は受難週です。イエス様の十字架で受けられた苦しみを深く思いながら過ごしましょう。

〈聖書を読もう〉

今日、みんなで読む聖書の箇所は、ルカによる福音書23章44節〜49節です。暗唱聖句は46節です。線を引いてしっかりと覚えましょう。

イエス様は十字架上で、合計七つの言葉を言われました。この46節は第七番目に言われた言葉です。一番目→ルカ23・34、二番目→ルカ23・43、三番目→ヨハネ19・26、四番目→マタイ27・46、

五番目→ヨハネ19・28、六番目→ヨハネ19・30、七番目→ルカ23・46。

〈質問〉

①ルカによる福音書23章にはイエス様の十字架を囲むようにしているいろいろな人たちが登場します。どのような人たちですか（32節〜49節）。

●二人の犯罪人、役人たち、民衆、百卒長。

②それらの人々は十字架にかかれたイエス様に對して、二通りの反応をしました。どんな反応だったのでしょうか。

●イエス様をあざ笑い、ののしる人。悪口を言い続けた人。それと反対に、イエス様を信じて救われた人。

③ここでコリント人への第一の手紙1章18節を開いてみましょう。「十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。」

イエス様の十字架は、わたしたちが救われるための唯一の道です。神様はひとり子イエス様をお遣わしになり、十字架にかけられることによって救いに至る道を開いてくださったのです。

イエス様が十字架にかかれることは神様のみこころだったのです。

④イエス様は、神様のみこころに對してどうなされたのでしょうか。

●神様のみこころに心から従い、神様のみこころにゆだねられました。

イエス様は十字架にかかれる前、祈るためゲ

## 研究資料

週題 十字架の主

イエスが十字架につけられたのは、午前九時頃であった（マルコ15・25）。それからの三時間、ルカは、ゴルゴダ（されこうべの意）に立てられた三本の十字架に焦点を合わせる。真ん中にイエス、右と左に犯罪人がつけられる。それを遠巻きにするように、人々がかたずを飲んで見守っている情景が、まぶたに浮かぶ。

テキスト

44 風の十二時 日が一番高くあるはずなのに全地が暗くなったとある。全地とは、パレスチナ、ユダヤ地方を指している。暗くなった理由として日食が考えられるが、それはありえない。主イエスが十字架にかかれたのは過越の祭りの日だった。この祭りは満月の日と定められている。また三時間にも及び日食は考えられない。マタイ、マルコも異様な光景を記している。これらは神の子イエスの受難と深くかわる、超自然的な現象だった。45 全地が暗くなってからすでに三時間、もう一つ驚くべきことが起こった。聖所の幕がまん中から裂けたのだ。聖所は神殿に置かれていた（マタイ27・51）から、ゴルゴダでの出来事とどう関係づけたいのか思案する人もいるだろう。説明

しよう。

①どこが裂けたのか―聖所と至聖所を隔てている幕が上から裂けた。

②至聖所とは一年に一度だけ大祭司が入ることができる。その日は、第七月の十日の贖罪の日で、血を携えて入り、民のための贖いをした。

③裂けたことは何を意味するか―幕とは神と人をきびしく隔てるものだ。人々がいけにえによって罪の赦しを受けても、神のみそば近くにいて交わることはできない。その隔てを主イエスは、十字架上で流された血潮によって取り除かれた。46節には、45節を受けて、そのときとある。これは主が息を引き取られたこと（十字架）との関連を示す。ヘブル10・19は、十字架と聖所の関係を解説している。「イエスの血によって、はばかりことなく聖所にはいることができる」とあるとおりだ。神は御子イエス・キリストの十字架によって旧約時代にペリオドを打ち、だれでもはばかりずに神と交われる新時代を開かれた。

46 父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます このことばは、詩篇31・5の成就である。主イエスの十字架の贖罪のみわざは終わった。十字架のお苦しみは、肉体的苦しみをはるかに越えている。それは、人に捨てられた（イザヤ53・3）だけでなく、最終的に父からも捨てられた（マタイ27・46）からである。「彼（主イエス）を砕くことは主のみ旨であり……」（イザヤ53・10）とあるように、これは父なる神の痛みの伴う決断だった。十字架なくしては救いはなく、主イエスの死なくしては、新

ッセマネの園に行かれ、このように祈られました。「しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」（マタイ26・39）。そして十字架の上で叫ばれたのです。

「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と。

イエス様がこのように神様のみこころに完全に従われたのは、勝利の確信があったからです。そこには少しの不安や迷いもありません。もし、そうした思いがあったなら、わたしたちが救われることはなかったでしょう。イエス様がすべてゆだねてくださったからこそ、救いの道がひらかれたのです。

⑤わたしたちは、神様のみこころに對してどういう態度を示すべきですか。

●イエス様がすべて神様のみこころにゆだねられたように、神様をどこまでも信じ、神様のみこころにゆだねて従うことです。

神様のみこころとわたしたちが祈り願っている事とが違ふ時があります。そのような時にわたしたちにとって必要なのはゆだねることです。

⑥主の祈りの中には「みこころの天になることへ、地にもなさせたまえ」とありますが、あなたは本当にそのように願っていますか？

イエス様のようにすべて神様のみこころにゆだね、従う時にこそ勝利が与えられます。神様のみこころにお従いしましょう。

しく生かされることもない。働きを完成した後、最後に主に残されたのは、父なる神のみ手を信頼して、ゆだねることだった。

47 ルカは、十字架に一番近いところから順番に三つの顔を記す。遠近をわかりやすくカメラのレンズにたとえてみよう。まず広角レンズを向けたのは、百卒長である。ローマの兵士百人を率いる長で、死刑執行の仕事を受け持っていた。百卒長は十字架の近くにいて、つぶさに主の言動を聞き取ることができる立場にいた。宗教的には中立の立場であったと思われる。その彼が神をあがめた。ふつう処刑場に立って、神をあがめる心境になれるだろうか。神をあがめるに至ったのは、主イエスについてのことばに表されている。彼は、この人は正しい人であったと述べた。

48 次に標準レンズで群衆をとらえる。群衆には百卒長に見られたような明るさはない。ゴルゴダの出来事は、胸を打ちながら帰って行く結果をもたらした。日本語にも「胸を打たれる」という表現がある。はっとすると、感動するといった意味だ。ここでは、悲しみを表している。

49 最後に望遠レンズで主イエスを個人的に知っている人たちをとらえる。この中には、主の弟子たちだけでなく、ルカ8・1〜3に記された女性たちもいた。遠い所とあるように、彼らは安全な距離を確保していた。

「ここでは絵を書く」という表現がある。本日の六つの節の中には、中身が凝縮されている。できるだけ中身を解きほぐして話していただきたい。

# 礼拝メッセージ

## イースター

● 週 題 復活の主

● 聖 書 マタイによる福音書28：1～10

● 暗唱聖句 もうここにはおられない。かねて

言われたとおり、よみがえられたのである。 マタイ28：6

● 目 標 主は預言の通りに復活され、私たちに永遠の命を与えるという約束を確かにされたことを明らかにする。

## 導入

イースター、おめでとうございます。イエス様のよみがえりを心からお祝いしましょう。

## 失望と恐れの中で

イエス様は、十字架の上で死なれました。弟子たちは、みんな散り散りになり、悲しみと失望の中にいました。あれほど一生けんめいにイエス様に従ってきたのに、そのイエス様が死んでしまわれたからです。

弟子たちは、がっかりして、気がなくなっていました。それに、今度は自分たちが捕らえられるのではないかと、という恐れに囲まれていました。いつユダヤ人たちが押しかけてくるかわからないと思うと、いても立ってもおれませんでした。彼らは、外に出ていく勇氣もなく、ただ家の中でガタガタ震えていたのです。

# 分級 A

## ＜教師メモ＞

イエス様のよみがえりを心から喜びこのでる子どもが多々いることを願います。イエス様は自分のために十字架にかかって死んでくださったということがわかった子どもだけが、その喜びを知ることができるからです。先生方も、年中行事の一つとしてではなく、新鮮な心で十字架と復活を味わうときとしましょう。教師の気持はそのまま子どもに反映されます。

## ＜分級活動例＞

きょうは大ニュース、大ニュース。何だと思う？

先週は、イエス様がわたしたちのかわりに十字架にかかって死んでくださったというお話を聞いたでしょう？

そのイエス様が今朝、お墓からよみがえられたのよ。いつまでも死んだままと違って、死の力に勝ってよみがえられました。

うれしいね。

よかったね。

イエス様は今も生きておられるよ。

きょうのことを「イースター」といいます。

## 三日目の朝

イエス様は、墓に葬られました。墓の前には何人ものローマの兵隊が立って、墓の番をしていました。だれかがイエス様の体を盗み出さないかと警戒していたのです。

三日たちました。朝早く、だれかが墓に向かってきます。マグダラのマリヤさんともう一人のマリヤさんです。彼女たちは、イエス様の体に香料を塗りにきたのです。ところが、彼女たちが墓に着いたとき、突然大きな地震が起こりました。それは、天使が降りてきて、墓の入口の大きな石を転がし、その上にすわったからです。

その天使の姿は、まぶしく輝き、服は雪のように真っ白でした。その姿を見たローマの兵隊たちは、あまりの恐ろしさに震え上がり、死んだ人のように動けなくなりました。

天使は言いました。「恐れることはありません。あなたがたは、十字架にかかれたイエス様を捜しているのでしょうか。しかし、もうここにはおられません。イエス様が言っておられたように、よみがえられたのです。」

そして、天使は、墓の中のイエス様の体が置かれていた場所を見せてくれました。天使の言うとおり、イエス様の体はどこにもありません。

何ということでしょう。確かにイエス様は、以前、ご自分がよみがえられることをおっしゃっていました。その通りになったのです。イエス様のお言葉はほんとうでした。

きょうはうれしい、うれしい「イースター」の日。世界中のひとがよろこんでお祝いする日よ。

「イースター」って言うてみて。「一、二の三、イースター。」

## ＜あそび＞

ピンポン玉でゴールイン。

☆あそび方

・ テーブルをコートにみたてて、両はしにチョークでゴールを書く。

・ 子どもは二組にわかれてテーブルのまわりに立つ。

・ シャンケンで先攻を決め、勝ったチームの一人がピンポン玉を中央において、自分のゴールに向かって口で吹き飛ばす。

・ 手は使わずにテーブルのあちこちから口で吹いて、どちらのチームのメンバーも自分のゴールめざして玉を吹いておく。

・ テーブルから玉が落ちたら、落ちた位置からはじめる。

・ ゴールに玉が入った方が勝ち。

（注）子どもたちが自分のゴールをよく知っておくよう、説明をしておくこと。

## ＜ワーク＞

たまご、ひよこ、花に色をぬって、野原にはりましょう。

# 分級 B

マリヤさんたちは、大喜びで墓を後にしました。

そして、天使が言ったように、「イエス様は死人の中からよみがえられた」と知らせに行きました。彼女たちがうれしそうに走っていくと、途中でよみがえられたイエス様とお会いしました。そして、イエス様は「平安があるように」とお声をかけてくださったのです。

## 天国の希望

イエス様は、死人の中からよみがえられました。イエス様の復活は、わたしたちの大きな希望です。わたしたちは、皆やがて死にます。しかし、死んで何もかもおしまいになるわけではありません。イエス様は、わたしたちにも、よみがえりの命を与えてくださるのです。

イエス様の十字架を信じれば、どんな罪もゆるされ、救われます。そして、永遠の命が与えられ、天国に入る約束が与えられます。死んでおしまいなのではなく、やがて、光かがやく御国に入る希望を持つことができるのです。

よみがえられたイエス様は、今も生きておられます。そして、わたしたちのために神様の前で祈ってくださるのです。

## 結び

あなたは、天国に行けますか。もしその確信がないなら、今、十字架によって罪のゆるしをいただきます。そして、よみがえられたイエス様によって、天国の希望をもって進んでいきましょう。今も生きておられるイエス様は、あなたと一緒におられます。

## ＜キーポイント＞

## 救い主のよみがえり

## ＜導入＞

ハレルヤノイースター、おめでとうございますノハレルヤノハレルヤノ救い主は本当によみがえって今も生きておられるノなんてすばらしいことノそれでこそ本当に、救い主ですよ。

## ＜聖書に親しむ＞

マタイ28：1～10です。きょうは先生と皆さんで交読というのをします。先生が1、3、5、7、9節、みんなが2、4、6、8、10節を読みます。暗唱聖句には線を引いて、覚えてください。

## ＜イースターワークをいたしましょう＞

たまごやゆりの花の中に文字を入れてください。すこいメッセージですね。あと、きれいにぬりましょう。みんなイエス様のよみがえりのことを話しあってみてください。また、きょうのところの劇をやってみてもたのしいよノ

## ＜生きておられる救い主＞

その時から、すうーっと救い主イエス様は生きておられます。今も、これからも、そして永遠に、だから、わたしたちと共にあって、共に歩んで、助け続けてくださる。うれしいですね。イエス様のよみがえりのことも、ちゃんと、神様やイエス様の口から預言されていました。そしてその通りになりました。ハレルヤノ

# 分級 A・B



## 分級C

キーポイント

今も生きておられるイエス様

〈導入〉

イースターおめでとございます。今日は、十字架にかかれたイエス様が三日目によみがえられた、すばらしい恵みの日です。「事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである」(「リント15・20」)。

イエス様がよみがえられたことによって、

①イエス様が神様であることがわかります。

イエス様は十字架にかかれて死なれただけではなく、三日目によみがえられました。イエス様は死に打ち勝たれたのです。

②イエス様を信じることによって、わたしたちも死に対して勝利することが出来ます。

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。」

(ヨハネ11・25)

③罪の解決の道が開かれました。

④いつも喜びと希望に満ちた毎日を過ごすことができます。

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書28章1節〜10節を順番に読

## 研究資料

課題 復活の主

主イエスが十字架につけられたのは金曜日だった。次の日は安息日であるにもかかわらず、祭司長周辺は動いていた。主イエスが幾度となく、「三日の後に自分はよみがえる」と発言されていたからである。彼らはこの発言を無視していたが、弟子たちが遺体を盗み出して「復活した」などと偽り、民衆を煽動して、騒乱が起こればやっかいなことになると思ったようだ。そこで、「フツ」に求めて三日目までローマ兵に墓の番をするようにさせた。にもかかわらず、主イエスは約束どおり復活された。復活の出来事は、四つの福音書すべてに記されている。ぜひとも合わせて見ていただきたい。

テキスト

1 主の復活の第一発見者は、女性たちである。注目したいのは、マグダラのマリヤの名が特記されている点だ。彼女はかつてイエスによって七つの悪霊を追い出してもらったことがある(マルコ16・9、ルカ8・2)。彼女はゴルゴダの丘で主が処刑された時にもいた(マタイ27・56)。墓に向かったのは、早朝である。

2 墓は横穴構造になっていて、入口は石でふさいであった。日本でよく使われる墓石材に、御影石(花崗岩)がある。1トンは、72センチ大の角

んでみましょう。今日の暗唱聖句は6節です。しっかりと覚えましょう。そしていつものように質問に答えましょう。

〈質問〉

①マグダラのマリヤさんとほかのマリヤさんとがイエス様の体が納められた墓に行ったのはいつですか(1節)。

●週のはじめの日、すなわち日曜日の明け方です。イエス様がよみがえられたのは日曜日です。教会ではこの事を覚え、日曜日に礼拝をささげているのです。

②マリヤさんたちが墓に行った時の気持ちは、どのようなものだったでしょうか。

●愛するイエス様が亡くなられたので、言葉に表すことのできないほど悲しくつらい気持ちでした。

③マリヤさんたちが墓に着いたとき、大きな地震が起こりました。なぜでしょうか(2節)。

●天使が天から下ってきて、石をわきへころがし、その上にすわったからです。この石はちょっとやそつでは動かすことができないくらい大きな石です。マリヤさんたちは悲しみの中にいました。

しかし、その悲しみの石が、わきにころがされたのです。

わたしたちがどんなに悲しく、またつらく、苦しい出来事にあっても、神様はそうしたわたしたちではどうすることもできない石も、神様の方法でとりのけてくださいます。

④5〜6節の天使のことはから何がわかりますか。

●天使は「かねて言われたとおりに、よみがえら

石に相当しているから、見かけ以上に中身がズッシリしていて重い。

彼女たちの目の前で、主の使いは、石をわきにころがした。行ってみたら主のなきがらがなくなれば、「盗まれたのではないか」と、いらぬ心配をする可能性があった。

3 主の使いについて、ダニエル10・6を合わせ見ていただきたい。「その顔は電光のごとく」とある。また、白い衣を着ていたことを記している箇所も多くある。

4 見張りをしていた人は、主の使いを目の当たりにした。彼らの驚きは大変なものであった。

5 驚いたのは、見張りをしていた人だけではない。彼女たちも同じであった。主の使いが開口一番言ったのは、恐れることはないである。主の使いは、イエスの母マリヤに受胎告知するために近づいたときも、「恐れるな、マリヤよ」と述べている。恐れている者に恐れを止めるように求めたのは、重大な事実を伝えたかったからである。余りの驚きのために、その時のことをはっきり覚えていない経験をした人も多いだろう。もう一つ知っておきたいことは、重大な事実を聞いたのは、複数の女たちであり、けっして一人だけが知りえた事実ではない点だ。

6 主の使いは、今ここで起こった内容を順序よく語る。

①イエスにはここにはおられない。

②イエスは約束どおりよみがえられた。かねて言われたとおりとは、16・21やルカ18・33などを指

れたのである」と語りましたが、このことからイエス様の復活は預言の成就だったことがわかります。マタイ16章21節で、イエス様は「自分が必ず…殺され、そして三日目によみがえらるべき」ことを預言していました。

⑥イエス様の復活を知った二人のマリヤさんは、どうしましたか(8節)。

●恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行きました。

この行動によって、マリヤさんたちがどれだけ喜びに満ちあふれていたかがわかりますね。

死からよみがえって今も生きておられるイエス様は、わたしたちの悲しみを喜びへと変えてくださるのです。

⑦イエス様は弟子たちに「どこに行け」と言われましたか(10節)。

●ガリラヤです。ガリラヤとは、わたしたちが今生活している所です。よみがえられたイエス様は、わたしたちの毎日の生活において、現実にはわたしたちに会ってくださるのです。そして、わたしたちを慰め、励まし、立たせてくださるのです。

イエス様は今も生きておられます。死に対して勝利してくださったイエス様が、いつもわたしたちと共にいられることを信じ、イエス様を心から賛美しましょう。

している。

③イエスが納められていた場所を「らんないは、よみがえりの事実の確認を促すものである。

7 主の使いは、弟子たちに次のことを伝える使命を与えた。

①イエスは死人の中からよみがえられたこと。

②主は先にガリラヤに行かれるので、そこで主と会うことができること。

8 復活の事実、マリヤは恐れをもつのと同時に、大いに喜んだ。何か夢でも見ているような心境だったのかもしれない。マリヤは、急いでそこを立ち去って弟子のもとに向かう。

9 主のよみがえりについて、主のみ使いから聞いただけでなく、途上でその主と会った。実際によみがえりの主の声を耳で聞き、目で見ただけでなく、み足をいだいてとあるように、主に触れて拜した。

平安あれば、ギリシヤ語では「カイレテ」で、直訳すれば「喜べ」となる。新改訳では「おはよう」と訳している。

10 恐れることはない、主イエスも主の使いと同じように述べる。主は、愛する者に愛といつくしみをもって接してくださるお方である。ガリラヤは、主が伝道を開始された所で、そこで復活の事実を示されるというのだ。

「キリストがよみがえらなかつたとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にいることになる。」

(「リント15・17」)

●週 題 昇天の主  
●聖 書 ルカによる福音書24・44～53  
●暗唱聖句 祝福しておられるうちに、彼らを離れて、天にあげられた。ルカ24・51  
●目 標 復活の後に、主イエスは弟子たちを祝福しながら昇天され、今は天で父なる神の右におられることを教える。

導入

先週は、イエス様が死人の中からよみがえられたことを学びました。イエス様は、復活によってわたしたちに永遠の命と天国の希望を与えてくださいました。さて、よみがえられたイエス様は、その後何をされたのでしょうか。

よみがえりの証人

イエス様は、よみがえられた後、四十日間にとどまり、度々弟子たちに現れなさいました。悲しみと恐れに囲まれていた彼らにとって、それはどれほど大きな慰めになったことでしょう。

イエス様は、彼らの心を開いて、「自分がよみがえられたことは、旧約聖書に預言されていたことであることを示されました。そして、弟子たちに、「あなたがたはこのことの証人です」と言われました。イエス様のよみがえりの証人ということです。

分 級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃんもマリちゃんも、からだがフワッとうきあがってスーッと天にのぼっていったことがあるかな？

うん、夢でみたことあるの？

鳥は空高く飛んでいくよね。

人間にはそんなことできないんだよね。

そうそう、ロケットでならとび上がれるね。でも、その人はちゃんと地球へ帰ってくるでしょう？

イエス様は、お弟子さんたちとお話ししたあと、お弟子さんたちが見えている前でスーッと天に昇っていかれたんだって。

すごいことだね。

イエス様は、みんなの罪をゆるすために、身がわりになって十字架にかかってくださったね。そして、お墓からよみがえられました。もう、大切な御用が終ったから、天にお帰りになったのよ。

では、天に帰られて何をしていたらっしゃるのかは、この次の日曜日にお話しするからね。

〈あそび〉

どこまで高くとべるかな。

分級A・B

分 級 B

〈キー・ポイント〉

救い主は天に

〈導入〉

新しい学年はどうですか？ だいぶ慣れて、新しいお友達もできたかな？ 毎日、うれしいことばかりでもないよね。でもいつも生きておられる救い主イエス様が共にいてくださるので安心だし、感謝ですね。きょうは昇天された救い主のことを学びます。

〈聖書に親しむ〉

ルカ24・44～53です。きょうはみんな順番に、

弟子たちは、皆イエス様とお会いしました。そして、喜びと慰めが与えられました。今度は彼らが出て行って、イエス様のことを宣べ伝えていく番です。証人とは、見たこと、経験したことをそのまま伝える人のことです。

上から力を授けられるまでは

しかし、すぐに出て行くのではありませんでした。イエス様は、彼らに言われました。「わたしの父が約束されたものを贈ります。上から力を授けられるまでは、エルサレムにとどまっていなさい」。上からの力が与えられるまでは、証人として出ていけないのです。

その力とは、聖霊のことでした。イエス様は「あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられます」と約束されました。それは、彼らが以前イエス様から聞いていた、父なる神様の約束でした。イエス様は、「この約束をエルサレムから離れないで待っていなさい」と言われたのです。この約束は、やがてペンテコステの日の実現します。神様は、約束通り、弟子たちに上からの力を与えられ、彼らは、主のよみがえりの証人となって出て行ったのです。

天に昇られた主

その後、イエス様は、弟子たちをベタニヤの近くのオリブ山に連れて行かれました。そこからは、エルサレムの町がよく見渡せます。そこで、イエス様は手を挙げて彼らを祝福され

☆あそび方

・二人の人がゴムひもの両端をもって立つ。  
・子どもの手の届きやすい高さからはじめて、だんだんに、とび上がらないと届かない高さに向けていく。だれが一番高くまでとび上がってゴムひもをタッチできるか競争しよう。

〈ワーク〉

昇天されたイエス様は、たくさん祝福をくださいます。ぬり絵を描きましょう。

ました。祝福しておられるうちに、イエス様は彼らの見ている前で、天に昇っていかれました。彼らは、昇っていかれるイエス様を見上げながら、イエス様を礼拝しました。

そして、大きな喜びにあふれて、エルサレムに帰り、神殿で毎日のように神様を賛美しました。また十字架にかかり、よみがえられたイエス様のことをあかししました。

昇天されたイエス様は、どこに行かれたのでしょうか。天におられる父なる神様の右の座につかれたのです。それは、神様としてのすべての権威をもって、わたしたちのためにとりなしてくださるお方になられたということです。

先週お話を聞いたように、イエス様は今も生きておられます。そして、父なる神様の右の座で、わたしたちのために、祝福を祈ってくださいます。わたしたちが罪から救われるように、わたしたちがサタンの試みや試練から守られるように、健康も守られて元気で過ごせるように、また、イエス様のことを力強くあかししていくことができるようにと、祈っていてくださるのです。わたしたちが求めさえすれば、イエス様は神の権威をもって、そのようにさせていただきます。

結び

天に昇られたイエス様は、今も生きて働いておられるわたしたちの主です。イエス様は、昨日も今日も、いつまでも変わらないお方です。このイエス様に信頼して、進んでいきましょう。

一節ずつ読むことにします。暗唱聖句はいつものように覚えます。

〈しよってんワークをどうぞ〉

- ①④のヒントから、ふうせんや雲の中に文字をうめてみてください。ふうせんはどうなりますか？ あと、バックを空の色にぬったりして、完成させてください。ではヒントです。
- ①救い主のよみがえりは何日目？ (46)
- ②その名によって何がゆるされる？ (47)
- ③救い主は何の中からよみがえった？ (46)
- ④弟子たちはどこで神をほめたんだ？ (53)

〈いま、救い主は？〉

イエス様はお墓の中で腐ってしまったのではありません。地上のどこかにおられるでもありません。弟子たちを祝福しながら、父なる神様の所に帰られ、最高の力と権威の座である神様の右の座におられるのです。悲しい時やつらい時でも天を仰いで、勝利された救い主イエス様を見上げよう！



## 分級C

— キーポイント —

天に昇られたイエス様

〈導入〉

わたしたちの罪のために十字架にかかり、三日目によみがえられたイエス様は、四十日の間、人々に「自身のお姿を示されました。それから天に昇られ、父なる神様の右にすわられたのです。」

〈聖書を読もう〉

ルカによる福音書24章44節〜53節を順番に読んでみましょう。51節が今日の暗唱聖句です。覚えましょう。

47節〜49節は、イエス様がよみがえられて弟子たちに「自分の姿を示され、語られたところであり、50節〜53節にはイエス様が天に昇られたこと（昇天と言います）が書かれています。」

〈質問〉

①「モーセの律法と預言書と詩篇」とは旧約聖書のことです。聖書全体を買って書かれていることは何でしょうか（44節）。

●聖書66巻を通じて書かれていることはイエス様についてです。旧約聖書にはイエス様についての預言が、新約聖書にはその預言の成就が記されて

います。

「この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」（ヨハネ5・39）

②次の〇の中をうめてください。

●イエス様は弟子たちの〇と〇をお開きになりました（31、45節）。（目、心）

③聖書がキリストについて書いている二大事項は何でしょうか（46、47節）。

●イエス様が十字架にかかり、三日目によみがえられること

●罪のゆるしの福音が、エルサレムからはじまって全世界の人々に宣べ伝えられること

④イエス様は、弟子たちが「これらの事の証人となるためにどうすべきだと言われましたか（49節）。

●一人ひとりが聖霊に満たされるまでは、エルサレムにとどまっているようにとお命じになりました。

少しでも早く出かけて行って、一人でも多くの人に福音を宣べ伝えたいと急ぐ弟子たちでした。しかしイエス様はそれをおゆるしにならないで、弟子たち一人ひとりが聖霊に満たされるよう祈り求めることをお命じになりました。

⑤この「命令を受けた弟子たちはどうしましたか（使徒1・12〜14）。

●エルサレムにとどまり、心を合わせてひたすら祈り求めました。

ペテロさんをはじめとする聖霊に満たされた弟子たちを通して神様のみわざが進められ、教会が生まれたのです。わたしたちも聖霊に満たされる

時、恐れや不安は取り去られ、喜びにあふれて歩むことができ、神様のすばらしい働きのため用いられるようになります。聖霊に満たされるよう、祈り求めましょう。

⑥イエス様が昇天された時の様子は？（50〜51節）

●弟子たちをベタニヤの近く（オリブ山）まで連れて行かれ、手をあげて彼らを祝福されました。祝福しておられるうちに、弟子たちを離れて天に昇られました。

⑦昇天されたイエス様はどこにおられますか（マルコ16・19）。

●父なる神様の右におすわりになりました。

⑧神様の右にすわられたイエス様は、どのような働きをしておられるのでしょうか。

●大祭司として、わたしたちのために神様の前でとりなしの祈りをしてくださっています（ヘブル7・25）。これについては、来週もっと詳しく学びます。

またイエス様は、誕生において（マタイ2・2）、人格において（ヨハネ1・49）、そして働きにおいて、主としての権威を現されましたが（マルコ4・41）、昇天されることによって王としての支配を手に入れました。

さらに主イエス様は、信じる者と共に働き、みわざを進めてくださいます（マルコ16・20）。

今もわたしたちのためにとりなしの祈りをささげ、みわざを進めてくださるイエス様に、心からより頼みましょう。

## 研究資料

課題 昇天の主

主イエスは、人の姿をとって世に下られたクリスマス。主は、人の手によって十字架に上げられ、よみに下られた。そして復活して、今度は天に上げられた。すなわち、昇天である。再臨に至っては、この世に再び降り（下り）立たれる。下、上下というふうに意識的に記してみた。その一つ一つが、キリスト教信仰の根幹となっている。今日の主題は、キリストの昇天である。

テキスト

44 モーセの律法と預言書と詩篇とは、旧約聖書を指している。旧約聖書は、大きく三つの区分を持つているからである。新約聖書も同じく三区分できる。旧約の三区分と新約の三区分には深い関係がある。

(旧約)

(新約)

律法 — 福音書 ↓ 過去について  
詩篇 — 手紙 ↓ 現在について  
預言書 — 黙示録 ↓ 未来について

その旧約聖書の中でわたし（イエス・キリスト）について書いてあることは、必ずどこどこで成就するといふ。

45 主イエスは、聖書を悟らせるために弟子たちの心を開かれた。知的に理解したからといって、みことばがその人のものになるとは限らない。44節にあるように、キリストは重要な真理を弟子たちに以前から話して聞かせたが、本当の意味で彼らのものにはなっていなかった。教会学校でも同じ聖書の箇所から、何度でも同じ聞き手に話すことが大切である。話す者も聞く者も同じく、「主が心を開いてくださるように」真剣に祈りたい。

46 こう、しるしてあると述べて、旧約聖書に記

されていた十字架と復活に関する約束（預言）は、主イエスによって成就されたことを宣言している。たとえば、苦しみを受けることはイザヤ53章を、よみがえりについてはホセア6・2を開いてみれば、そこにはっきり記されている。

47 主イエスの救いは、ご自身の十字架、復活が

土台となっている。その結果、罪のゆるしを得さ

せる悔い改めが、イエスの名によって全世界に宣

べ伝えられるのだ。そのスタート地点は、エルサ

レムにほかならない。

48 弟子たちは、主イエスの十字架とよみがえりの

証人である。パウロにしても、「十字架につけら

れたキリスト以外のことは、あなたがたの間では

何も知るまいと、決心した」（1コリント2・2）

とあるように、証人としての任務に徹していた。

49 福音宣教は、人間の努力によって達成される

わけではない。上からの力が与えられない限り、

働きは失敗する。父が約束されたものとは、使徒

1・5にあるように聖霊であった。聖霊は、父か

ら贈られるものだが、偶然に与えられるような薄っぺらなものではない。祈り求めて与えていただくものである。彼らは、都エルサレムにとどまって十日間、深く祈った。その結果、聖霊が彼らにくだった。聖霊のバプテスマは、福音宣教の働きに不可欠である。多くの弟子たちは、ガリラヤ湖で漁をしていた人々であった。主のもとで訓練は受けたが、肉の人であった。その彼らが聖霊を受けて変貌する。「無学なただ人」が御霊によって変わってしまったのである。

50 主は、弟子たちをベタニヤの近くまで連れて

行って祝福された。その後今に至るまで、天にお

いて祈っておられる。

51、52 祝福しておられるうちに主イエスは、天、

すなわち父なる神のもとに昇られた。今は神の右

にすわっておられる。昇天の出来事は、使徒1・

9〜11にも並行記事があるので、ぜひ合わせてみ

ていただきたい。昇天されたのは、オリブ山から

であるが、この山には再臨の主が降り立たれる使

徒1・11。十字架にかられてからというものの、

弟子たちはひどく恐れていた。今度は、昇天によ

って彼らの目の前から主は見えなくなる。しかし、

彼らは恐怖から解放されて、神を心からほめたた

えるまでに高められていた。



●週題 大祭司なる主  
●聖書 ヘブル人への手紙7・22～28  
●暗唱聖句 彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられる。  
ヘブル7・25  
●目標 今も主イエスは、天においてわたしたちのためにとりなしていてくださる事実を教える。

導入

皆さんは、とんでもない失敗をしてしまったとき、だれかが間にはいつてあやまってくれたので、ゆるしてもらった、ということはありませんか。イエス様は、間に立つてとりなしてくる人のようなお方です。

大祭司の務め

イエス様がお生まれになる前の、旧約聖書の時代に、エルサレムの神殿では、祭司が神様のご用をしていました。それは、罪のあがないの務めで、やり方はこうでした。

イスラエルの人々は、罪を犯すと、小羊を連れて祭司の所に来ます。祭司は、その小羊の頭に手を置いて祈り、ナイフを小羊の首に刺して殺します。血がたくさん出ます。祭司は、その血を祭壇に注ぎます。小羊の体は、祭壇の上で焼かれます。これが、罪のあがないの儀式でした。

分級 A

△分級活動例△

先週のお話をおもいだしてごらん。  
お弟子さんたちが見ている前でイエス様がスーツと天ののぼっていかれたお話だったね。  
では、イエス様は今なにをしておられるでしょう。

お休みしておられるのかな？  
それとも遊んでおられるのかな？  
そうではないのよ。

イエス様は父なる神様といっしょにおられます。そして、もしわたしたちがまちがったことをしたとき、「どうせゆるしてあげて下さい」と神様にお願いして下さるの。

わたしたちがお祈りしたこと、もう、「どうぞ、このお祈りを聞いてください。」と、神様にお願ひして下さるの。

こんなことを、「とりなし」といいます。  
いつも、休むひまなくわたしたちのことを守ってくださっているから、わたしたちは安心していられますよ。

天のぼっていかれてからは目に見えなくなっただけ、このようにしてわたしたちをしつかり守ってくださっているからうれしいね。

その祭司の中から、大祭司が一人選ばれました。大祭司は、年に一度、至聖所という神殿の一番奥の部屋に入って、あがないの務めをしました。このために特別に用意された小羊の血を持って至聖所に入り、神殿の前に注いで、「わたしの罪をおゆるしてください。イスラエルの民の罪をおゆるしてください」とお祈りしたのです。

本当の大祭司イエス様

そのように、旧約時代の大祭司は、小羊の血で年に一度、すべての民のためにあがないの務めをしました。が、次の年には、また再び、あがないの務めをしなくてはなりません。次の年も……というわけで、毎年繰り返されたのです。

一方、イスラエルの人々は、一年分の罪を大祭司にあがなってもらうのですが、その後もまた同じ罪を犯してしまうなら、次の年には、また大祭司にあがなくてはならなりません。繰り返さなければならぬ、旧約時代のあがないは、繰り返さなければならぬ、しかも、いくら繰り返しても、人々の罪は完全には取り除かれることがなかったのです。

ところが、イエス様は、一度だけ十字架にかかれ、わたしたちの罪のあがないを完成して下さいました。イエス様の十字架のあがないは、動物の血ではなく、ご自分の血によるもので、しかも一度の完全なあがないでした。一度罪を悔い改めて、十字架の血でゆるされたら、また悔い改めて、十字架の血でゆるされたら、その罪はまった

△あそび△

- 一円玉はだれの手に？
- 一人が鬼になり目をとじる。
- 他の子どもたちは輪になってすわり、「一円玉はどこだ」といいながら、「一」の一円玉をとりの人にまわしていく。
- 先生が合図をして「ストップ」というと、一円玉をもっている人も、なにももっていない人もみんな手をにぎりこぶしにして前に出す。
- 鬼は目をあげて、だれの手に一円玉があるかをあてる。
- 三回までまちがってもよい。

鬼が「ここ」と指すと、さされた人は手を開いて見せる。

- 三回ともまちがったら、一円玉をにぎっている人は「ここだよ」といって手を広げて見せる。
- 次の鬼を決めて同じことをする。

△ワーク△

ハートの描き方を教えてください。また子どもたちの祈りをハートの中に書きこんでください。自分でかける子は、励ましてあげましょう。

分級 B

△キーポイント△

救い主のいのり

くゆるされたからです。

さらに、イエス様のあがないの血は、罪がゆるされて救われた後も、なお神様の心に従えない汚れた自分をもきよめます。イエス様の十字架のあがないは、罪のゆるしだけではなく、すべての汚れからのきよめまで与える、完全なものです。わたしたちにとって、イエス様こそ、ほんとうの大祭司なのです。

イエス様を仰ぎ見つ

わたしたちに、このような大祭司イエス・キリストがおられるということは、ほんとうにうれしいことです。わたしたちは、いつでもこのイエス様のところに行くことができます。わたしたちが行きさえすれば、イエス様は、いつでもわたしたちを救ってくださいます。

わたしたちのために十字架にかかり、よみがえられたイエス様は、天に昇り、今も生きておられて、わたしたちのためにとりなしていてくださいます。このイエス様を仰ぎ見つ、進んでいきましよう。

結び

あなたは、イエス様の十字架によって罪がゆるされましたか。まだの人は、早くイエス様のところに行きましよう。もう救われた人は、すべての汚れからきよめていただく恵みを求めていきましよう。イエス様は、今もあなたのためにとりなしていてくださいます。

△導入△

美しい空を仰いで、神様の右におられる救い主のことを思い、励まされた一週間だったでしょう。実は、救い主イエス様は、今、天で、わたしたちのために、とりなしのおいのりをしていてくださるのです。

△聖書に親しむ△

ヘブル7・22～28です。きょうも一節ずつ順番に読むことにします。暗唱聖句には線を引いて覚えましよう。真実な神様のすばらしいおやくそくです。

△とりなしワークしようせん△

おや、おや、おいのりの手がいっぱい。中の文字を読んで、イエス様のとりなしの手だと思ってもめつて下さい。そうでもないものには×をします。ところで、○の中のめつて字を組み合わせてみると？（キリスト）

△救い主のいのり△

「えいえんの大祭司」ノ身ぶるいするほど、すばらしいイエス様のよび名ですね。いつも生きておられて、わたしたち一人ひとりのことをとってよく知っていてくださって、きつとかならず、助けてくださるお方。心が弱くなったり、くじけそうになったら、いつでもこのイエス様を思い、元気づけられましよう。

## 分級C

—キーポイント—

イエス様のとりなしによって前進

〈導入〉

小学校一年生のみかちゃんは、活発な女の子です。毎日友だちと日が暮れるまで家のまわりにある田んぼを走りまわったり、小高い丘にのぼったりしています。

ある日のことです。いつものように友だちと遊んでいました。近所の家の花壇をふと見ると、とてもきれいな花がたくさん咲いていました。幼い時から花好きのみかちゃんは、大胆にも花壇に入りこんで咲いていた花を次々と摘んでいったのです。得意そうな顔をして家に帰ったみかちゃん。お母さんにみせると、お母さんはギョッとみかちゃんの手を握ってその人の家に行きました。そして、お母さんはみかちゃんと一緒になって謝ってくれたのです。その家の人は今にも力ミナリが落ちそうになりましたが、お母さんが間に入ってくれたので、「まだ小さいから仕方ないね。いいわ、ゆるしてあげる」と言ってくれるしてくださいます。

〈聖書を読もう〉

へブル人への手紙7章22節～28節を開いてみま

## 研究資料

週題 大祭司なる主

主イエスは、オリブ山から天に昇られた。その次のテーマは、「大祭司キリスト」である。とまどいを感じる方がいるかもしれないが、主が地上の生涯を終えて昇天されたのは、大祭司としての役目を担うためであった。

節に従って解説する前に、簡単に三つの用語について記す。紙面の関係で完璧ではないので、へブル人への手紙を入念に読まれるとよい。

一、大祭司：人々の中から選ばれて、人々の罪のために供え物と犠牲とを神にささげるのが大祭司に託された奉仕である。彼は、人々だけではなく、自分の罪のためにも、犠牲をささげなければならぬ。この栄誉ある立場は、アロンの場合がそうであったように、神の選びによる。

二、大祭司キリスト：キリストは、大祭司の栄誉を、神から授けられた。詩篇110：4にあるとおり、「あなた（キリスト）はメルキゼデクの位に上がったとこしえに祭司である」。

三、祭司メルキゼデク：創世記14：15～20に記されている。アブラハムの時代、彼は至高の神の祭司となえられた。先のみことばでキリストはメルキゼデクのような永遠の祭司と述べられているとおり、メルキゼデクは、キリストのひな型であ

しょう。少しむずかしい所ですが、がんばって読んでみましょう。25節が今日の暗唱聖句です。しっかりと覚えましょう。

〈質問〉

①24節からイエス様がどのような方だとわかりますか。

●永遠に生きておられる方です。

●変わらずに祭司の務めを持ちつづけておられます。祭司って聞いたことがありますか。祭司は神殿の中にいて、神様を礼拝するために集まってきた人々を祝福したり、様々なおきてを教えたりしていました。

そうした中で、祭司の最も大切な務めは、集まってくる人たちの罪がゆるされるように、祭壇にいけにえをささげ、神様にとりなしのお祈りをするのでした。

②よみがえられ、天に昇られたイエス様は、今どのような動きをされていますか（25節）。

●イエス様は今生きておられ、わたしたちのために父なる神様にとりなしてくださっています。イエス様がいつも間に入ってくださいるので、わたしたちはいつでも父なる神様に近づくことができるのです。

③イエス様がわたしたちのためにとりなしてくださるのはなぜですか（26節）。

●イエス様こそ大祭司だからです。大祭司とは、祭司の中でも一番位が高く、祭司を代表する人です。きよい神様と、罪ある人々の間に入ってとり

る。三つの点でそうだとはいえる。

①名称において：メルキゼデク＝義の王サレム＝平和の君

②系図がない：父母、系図、その誕生、生死など一つも記されていない。キリストは、アロンのようなレビ族出身ではなく、ユダ族から出られた。かつて一度もユダの系図から祭司がでた例はない。まだキリストは永遠なる神でありますから、系図がないのである。

③祭司職が永遠：7：17を参照。

さてここから節ごとに見ていくが、大祭司キリストと歴代の大祭司、動物のいけにえと十字架にご自身をささげられたいけにえなど、比較しながら学ぶとわかりやすいであろう。

テキスト

22 大祭司イエス・キリストは、律法よりはるかにすぐれた新しい契約を示して、その内容を保証されている。新しい契約は、かつてのような犠牲ではなく、ご自身の血に基づいている。

23・24 歴代の大祭司は、死ぬたびに交替を余儀なくされた。それと比較して、キリストは永遠にいます方だから、交替はありません。

25 大祭司キリストは、いつもとりなしてくださっている。とりなしをするキリストは、人と神との間に立たれて務めをなされる。これが仲保者である。このとりなしに至る流れをしるしてみよう。①すべての人間は罪を犯している罪人であるから、神のさばきを受けることはできない。

なしをするのが大祭司なのです。

④旧約時代の大祭司の務めとは何ですか（27節前半）。

●自分自身の罪とイスラエルの民全体の罪がゆるされるために、小羊を犠牲としてささげていました。これをあがないと言います。大祭司は年に一度のあがないの日に、ふだんはだれも入ることのできない至聖所に入って、あがないの務めをしたのです。しかし、それは何度も何度も繰り返して行われなければなりませんでした。

⑤真の大祭司なるイエス様は、わたしたちのために、何をしてくださいましたか（27節後半）。

●きよく、傷のない神の小羊として、ご自身を十字架の上でささげてくださいました。イエス様はわたしたちの罪がゆるされるために、十字架にかけられ、罪のあがないを成し遂げてくださいました。それは、ただ一度だけの完全なあがないなのです。

イエス様は、過去にどのような罪を犯した人であっても、イエス様を信じる者をゆるし、救ってくださいます。なぜなら、イエス様は、今も生きておられ、わたしたちのためにとりなしてくださっているからです。たとえ誤って罪を犯したとしても、その罪を告白し、「神様おゆるしてください」と祈るなら、ゆるされます（1ヨハネ1：7、9）。すばらしい大祭司が与えられていることを神様に感謝しましょう。

②しかし主イエスは、全人類の罪のためにご自身の尊い血を流してくださいました。

③我らが自分のために主イエスが代価を払ってくださいましたと信じるなら、その信仰によって、主は父なる神にとりなしてください。

とりなしがなくては、だれも神の国の住人にはなれない。とりなしのおかげで、いつも救われることができるのである。

26 ここには、キリストがいかに大祭司としてふさわしいかたであるか、我らが必要としている方であるかが示されている。

27 アロンをはじめとした歴代の大祭司も、我らと同じく罪人であったから、民ばかりではなく、自分自身のためにも、日々、いけにえをささげるべきだった。動物のいけにえは不完全だったから、日々、繰り返してささげられる必要があった。

それに対して大祭司キリストは、罪を一度たりとも犯されなかったため、まずもってご自分のためにはいけにえを要しない。ただ一度だけ、十字架において罪人のためにご自身を完全ないけにえとされた。

28 最後に比べられているのは、かつての大祭司は罪から自らを守ることができない弱さをもっていましたが、神は誓いをもって、ひとり子という完全な方を永遠の大祭司として任命してくださいました点である。

## 礼拝メッセージ

母の日

●週題 献児式

●聖書 ルカによる福音書2・21・35

●暗唱聖句 あなたがたのからだを、神に喜ば

れる、生きた、聖なる供え物とし

てささげなさい。ローマ12・1

●目標 主イエスの献児式のことを学び、

わたしたちも自分のすべてを神に

ささげる決意をする者となる。

導入

みなさんは献児式って聞いたことがありますか。お父さん、お母さんが教会に生まれて間もない赤ちゃんを連れて来ます。そして、牧師先生に「この子は神様がくださった大切な子どもですから、神様におさげします」とお祈りしていただく大切な儀式です。みなさんの中にも献児式を受けた人がいることでしょう。今日は、イエス様の献児式のお話です。

イエス様の献児式

イエス様のお父さんのヨセフさんとお母さんのマリヤさんが、神様が定められたおきてに従って、イエス様を神様におさげするためにエルサレムにある神殿にやって来ました。その頃、山羊か山ばとをささげるというおきてがあったのですが、貧しくこれらの物を買えない人たちのために、二羽で一組の山ばとが家はこのひなをささげること

## 分級 A

△用意するもの▽

献児式の写真(だれのものでもOK)

△分級活動例▽

ケンちゃんもマリちゃんも覚えてないと思うけど、こんなに小さな赤ちゃんだったとき(手であらわす)に、お父さんやお母さんにだっこしてもらって、教会で牧師先生にお祈りをしてもらったことがあるのよ。

そのときは、きつときれいな洋服をきせてもらったのね。ホフ、これを見てごらん。この写真の赤ちゃんはだれかな。小さいね。だいにだっこしてもらってるね。そして、牧師先生にお祈りしてもらってるでしょう。

どうしてこんなふうにお祈りしてもらうのかな? そうね、元気で大きくなるように、とか、病氣やけがをしないように、とお祈りするのね。そのとおりなんだけど、本当はもっと大切なお祈りがあるのよ。

イエス様も、赤ちゃんのときにヨセフさんとマリヤさんがこんなふうにしたのよ。

そして、「神様、この子を神様におさげします。どうぞ、神様の御用のためにおつかいください」とお祈りしておさげしました。

になっていました。貧しかったヨセフさんはそれ

を持って来て献児式を行いました。すると、救い主を心から待ち望んでいたシメオンさんがイエス様を抱きあげ、神様を賛美しました。シメオンさんは、まだほんの赤ちゃんのイエス様を見て、この方が神様の示してくださった救い主だと信じたのです。

ヨセフさんとマリヤさんは、信仰をもってイエス様をささげましたから、シメオンさんを通して、神様から祝福をいただきました。

わたしたちに求められていること

神様はわたしたちが、わたしたちのからだを神様にささげること求めています。「わたしたちのすべては神様のものです。神様のみこころのままに用いてください」と、神様にわたしたち自身をささげる時、

①それは神様に喜んでいただけるささげものとなるのです。カインさんとアベルさんはそれぞれに神様にささげものをしました。神様はアベルさんのささげもの(羊の初子)を受け入れられました。カインさんのささげもの(畑の作物)はお受けにならなかったのです。アベルさんは心をこめて、神様に喜んでいただける思いでささげたからです。

②それは生きた供え物です。命に満ちあふれたささげものです。わたしたちの元氣いっぱいいのちから神様におさげしましょう。

③それは聖なる供え物です。これはきよいささげものという意味です。神様はきよいお方ですから、

ケンちゃんもマリちゃんも、お父さんとお母さんが神様におさげた人なのよ。

だから神様の御用をするのよ。うれしいね。神様から「ありがとう、よくがんばったね」と言っていたらうれしいね。

イエス様は神様の御用で十字架にかかってくださいました。

さあ、わたしたちはどんな御用ができるかな。むずかしいことなくても、お父さんやお母さんのお手伝いをするのが、神様の御用をする準備になるんだよ。

△ワーク▽

「お手伝い券」

☆きょうは母の日です。お母さんのためにどんなお手伝いができるかよく考えて、「お手伝い券」をつくり、プレゼントしましょう。

☆書いたカードは封筒に入れます。

封筒に自分の名前をかきましょう。

☆子どもが持ち帰り、お母さんへプレゼントします。

## 分級 B

△キーポイント▽

わたしはきょう

汚れた供え物をお受けになることができます。しかし、感謝なことに、まず、イエス様がわたしたちのために、十字架の上で命をささげてくださいました。イエス様の十字架のおかげで、神様は私たちの罪を赦し、すべての心の汚れからきよめてくださいます。そして、わたしたちのささげものを喜んで受け入れてくださるのです。

わたしたちのささげもの

むかし、ヨーロッパのある教会の礼拝で、牧師先生がアフリカ大陸の話をした後、アフリカの人たちに献金しようと呼びかけたところ、集まった人たちは、まわってきたお盆にたくさんのお金をささげました。中には指輪や時計をささげた人もいました。やがて一人の少年のところにそのお盆がきました。なんと彼はそのお盆の上にのり、このように言いました。「わたしは今、アフリカのためにささげるものがありませんから、わたし自身をおささげします」。そして彼は成長して、当時「暗黒大陸」と言われていたアフリカに宣教師として出かけて行きました。この少年こそ、アフリカの多くの人にイエス様の福音を伝えた、リビングストーンです。

結び

神様はわたしたちを通して、すばらしい働きをしてくださいます。イエス様がささげられたように、きょう、わたしたちのすべてを神様におさげしましょう。

△導入▽

気持ちのよい五月です。さわやかな心で、教会学校に励みましょう。今週からは、私たちの大好きなイエス様の「生涯について学んでいきます」。「わたしたちもイエス様のように生きよう!」というのが目標ですよ。

△聖書に親しむ▽

ルカ2・21・35です。一節ずつ輪読しましょう。暗唱聖句はローマ12・1です。そして、そこも聞いて、みんなでいっしょに読んで、線を引いて覚えましょう。

△けんしんワークをしてください▽

わたしたちのからだのいろんな部分。□の中にその名前を書き入れます。そして、1か2かどちらがささげられたからだと思いますか。正しい方に○をつけます。そして他にもいろいろ話し合ってみてください。

△献児式と献身▽

イエス様も献児式をしていただき、神様にささげられ、やがて用いられました。今も赤ちゃんの献児式がもたれ、この子が神様にささげられ、神様の御用に用いていただけるよう祈ります。きょう、わたしたちも、神様にお祈りし、身も心も「神様のお役に立ててください」とおさげしましょう。

△母の日▽

きょうは母の日です。わたしたちのからだをどう用いたら、神様は喜んでくださるかを考え、行動しましょう。

## 分級 A・B



## 分級C

—キ・ポイント—

## 神様にささげよう

## 〈導入〉

先週は、復活され天に昇られたイエス様が、今も生きておられ、わたしたちのためにとりなしていただくことを学びました。イエス様は神の子ですが、わたしたちの救いのためにこの世に生まれ、わたしたちと同じ人間となりました。

今週からイエス様のご生涯の中でも、幼い頃と少年時代について学びます。

## 〈聖書を読もう〉

ルカによる福音書2章21節～35節を開いてみましょう。少し長い箇所ですが、質問に答えながら読んでいきましょう。

## 〈質問〉

①イエス様の両親がイエス様を連れてエルサレムへ上ったのはいつですか(22節)。

●律法に定められていた、きよめの期間が過ぎた時です。男の子の場合は、生まれてから四十日目のことでした。

②それは何のためでしたか(23節)。

## 研究資料

## 単元について

四月の第二週から先週までの五週間で、「救い主イエス」の生涯を神学的に見てきた。今週からは、伝道を始められる前の「備えの時」を学ぶ。

## 週題 献児式

今週のテキストは、生後八日目の主イエスが、両親によって神に献けられる場面である。ヨセフとマリヤは、律法に忠実に従い、幼子イエスを神に献げるためにエルサレムに上った。最初に母の胎を開いた男児を献げるということは、両親の献身の表明であった。それだけではなく、献けられたイエスご自身が、神のみこころに従順に従われたことをも意味している。つまり、イエスご自身の献身でもあった。主は「自身を」神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物として(ローマ12・1)神に献けられたのだ。これは、やがて主が、我らの罪のあがないとして、ご自身を十字架の上に献げられることを暗示している。

## テキスト

21 モーセの律法は、男子が生まれた後、母親は儀式的に七日間不浄であると定めていた。八日目にはその子は割礼を受けることになっていた。割礼は神がアブラハムと結ばれた契約のしるしであった(創世記17・9～12)。

22 男子を産んだ母親は、七日の不浄の時が過ぎ

●幼子のイエス様を神様におささげするためでした。この時がイエス様の献児式でした。

献児式とは、「この子は神様が与えてくださったのですから神様におささげします。神様を信じ、神様のために働く人になるように育てます」という両親の信仰の決意をあらわす、とても大切な儀式です。

③イエス様の両親は、何をいっしょに犠牲としてささげましたか(24節)。

●山ばと一ツがい(二羽で一組のこと)あるいは家ばとのひな二羽をささげました。

これも律法に定められていた通りです。ヨセフさん、マリヤさんが神様の掟に忠実に従っていることがここでも分かりますね。

④そのときにシメオンさんが神殿に入りましたが、シメオンさんってどんな人でしょうか(25節)。

●正しく信仰深い人で、救い主が来られるのを待ち望んでいました。また、聖霊に満たされた人でした。

⑤シメオンさんは、なぜ赤ちゃんのイエス様を抱いて神様をほめたたえたのですか(30節)。

●救い主を待ち望んでいたシメオンさんには、イエス様こそ父なる神様から遣わされた神の子、救い主だと分かったからです。

⑥シメオンさんはイエス様のことを「異邦人を照らす啓示の光、み民イスラエルの栄光であります」と言いました(33節)。この言葉にはどういう意味があると思いますか。

●イエス様の使命について語られています。イエ

た後も、さらに三十三日間は、聖所に入ることが許されなかった。割礼とそれに続くこの儀式は、人間のすべての子どもに受け継がれている罪の汚れからの救いときよめの象徴である。もちろんイエスは、ご自身のためにこれが必要とされなかったが、我らのために、律法に従われたのである。主は我らを律法の呪いから贖い出すため、律法の下に生まれ(ガラテヤ4・4)、どこまでも律法に従順に従われた。「わたしが律法や預言者を廃すためにきた、と思つてはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである」(マタイ5・17)と言われた言葉を思い浮かべよう。

23 エルサレム上りの目的は、幼な子を主にささげるためであった。出エジプト13・2の規定がここに記されている。母の胎を初めて開く男の子は、みな主に聖別していただく必要があった。

聖別とは、「人もしくは物が、俗な汚れた領域から移されて、神との特定な関係へと分離されること」(『新キリスト教辞典』)である。

主から授かったから主にささげるのである。子どもは親の所有物であるかのような見方があってはならない。授かりものとして責任をもって育てたいものだ。献児式は親としての自覚が問われる時でもある。

24 本来のいけにえは、全焼のいけにえのための小羊と、罪のためのいけにえとして家ばとのひなか山ばと一羽であった。しかし、もし小羊に手が届かない場合は、母親は、二羽の家ばとのひなを持つてくることになっていた(レビ12・6～8)。主は我らの

ス様は「わたしは世の光である」と言われました(ヨハネ8・12)。イエス様は暗黒の中にある人々に、救いの光、希望の光、命の光を与えるために来てくださいました。

今日、わたしたちはイエス様が神様にささげられたことを学びました。それでは、わたしたちはどうすればいいのでしょうか。

⑦ここで、今日の暗唱聖句を開きましょう。ローマ人への手紙12章1節です。神様は何をささげることを求めておられますか。

●わたしたちのからだです。からだをささげるといふのは、神様から与えられているすべてのものを神様のためにささげることです。

⑧それをどのようにささげるのでしょうか。

●神様に喜んでいただけるようにです。自分のためではなく、「神様のために用いてください」とささげるなら、神様はわたしたちを喜んで受け入れてくださいます。

また、「生きた聖なる供え物」とあります。生きているからだを、しかも若くて元気なからだを神様のためにささげましょう。大切な事は「聖なる」ということです。ゆるされていない罪がありませんか。イエス様の十字架の血によってゆるされ、きよくしていただきましょう。そして神様にささげましょう。

## 〈話し合ってみよう〉

神様に喜ばれる供え物とはどのようなものか、みんなで話し合ってみましょう。

ために貧しくなられた(Ⅱコリント8・9)。

25 シメオンは正しい信仰深い人であった。正しいとは、彼の外側の生活を、信仰深いとは、神に対する敬虔な内的態度をさしている。特に彼は、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。彼は、心から救い主を待ち望む敬虔なイスラエル人であった。シメオンの歌(29～32節)は、マリヤの賛歌(1・46～55)と共鳴しているかのようである。

32 シメオンは目の前の幼子が、異邦人を照らす啓示の光、み民イスラエルの栄光になられること、つまり全人類の救い主となられたもうことを信仰をもって告白したのである。

34 さらに彼は、幼子がイスラエルの多くの人を倒れさせたり、定められていますと預言した。主は、信じ従う者には「生ける石」「尊い石」(Ⅰペテロ2・5、6)となられたが、拒む者には「つまずきの石、妨げの岩」(同8)となられた。主は、裁くためにではなく、救うために世に來られたが、彼を受け入れるか拒むかで、おのずと裁きを身に負うことになるのである(ヨハネ3・17、18)。

35 あなた自身もつぎで胸を刺し貫かれるでしょう。マリヤはすでに、救い主の母となる特権に對して高い代価を支払っていた。結婚前に身重になったことで、多くの人の中傷を受けていたことは容易に想像できる。しかし彼女は、さらに深刻な悲しみを味わうことになる。それは主が十字架にかかられたときに実現した。彼女は、我が子が呪いの木にさらされる姿を、目の当たりにしなければならなかったのである。

● 週 題 ナザレにて  
● 聖 書 マタイによる福音書2・13〜23  
● 暗唱聖句 イエスは両親と一緒にナザレに下  
って行き、彼らにお仕えになった。  
ルカ2・51  
● 目 標 主イエスにならって、両親を敬い、  
また日常生活で両親に従う者とな  
るよう指導する。

導入

「ねえ、マリちゃん。ちょっと晩ごはんのお手  
伝いしてちょうだい。」「えー、せっかく『ちびま  
る子ちゃん』がこれからじまるころなのに。」  
「もう仕方ない子ね。」お母さんはがっかりです。  
わたしたちならどうしますか。

ナザレでのイエス様

イエス様はベツレヘムでお生まれになったあと  
エジプトへ下られました。ヘロデ王が幼子イエス  
様の命をねらっていることを、天使が夢でヨセフ  
さんに知らせ、エジプトに逃げるように命令した  
からです。ヨセフさんは天使の告げた通りにしま  
した。しばらくしてまたナザレに行かれたのです  
が、その時も天使が同じようにヨセフさんに現れ  
て告げたのです。

ナザレという所はまわりが山に囲まれ、少し足  
を伸ばせばガリラヤ湖に行けるような、とても美

分 級 A

〈分級活動例〉

ネ、ネ、イエス様がケンちゃんやマリちゃんく  
らいのときってどんな子どもだったろうね。かわ  
い顔してたかな。けんかしてたかな。どんなお  
もちゃであそんだのかな。

イエス様のお父さんのお仕事は、おうちをつく  
る大工さんでした。お母さんは、お料理や、おせ  
んたくや、おそうじでとてもいそがしかったの。  
だから、イエス様はみんなと同じくらいるときも  
よくお手つだいをしましたよ。

みんなはどうかな。よくお手つだいする？  
「ちょっとこれをもってちょうだい。」  
「ちょっと弟とあそんであげて。」  
「おつかいにいつてちょうだい。」  
「ここをかたづけてちょうだい。」

こんなふうにいわれたことあるでしょう？そんな  
ときはどんな顔になりますか。にっこり顔かな、  
プーの顔かな。本当は、どっちの顔がいいのかな。  
わたしたちもイエス様のような子どもになれる  
ようにお祈りしましょう。

〈ワーク〉

一週間の生活のためにワークを用いてください。

分 級 B

〈キーポイント〉

つかえよう

〈導入〉

先週は母の日でした。六月の第三週には父の日  
があります。なぜこんな日が作られたのでしょう。  
それは、小さな時から両親に感謝し、つかえるこ  
とを学ぶためです。家庭でつかえることを学んだ  
ら、大きくなった時に、自然に人々につかえるこ  
とができるようになります。

イエス様も、小さな時から危険な目に会いまし  
たが、神様に守られて成長されました。そしてエ  
ジプトからナザレに帰り、両親にお仕えになられ  
たのです。

〈聖書に親しむ〉

マタイ2・13〜23です。きょうも一節ずつ、順  
番に読むことにします。暗唱聖句は、ルカ2・51

したちが神様を愛し、お父さんお母さんを愛し、  
お友だちやまわりの人たちを愛し、互いに仕える  
ためなのです。イエス様はわたしたちにお手本を  
示してくださったのです。

仕える者となるう

神様はわたしたちが、お父さんやお母さんの言  
われる事にいつでも「はい」と返事して仕えるこ  
とを願っておられます。なぜなら、お父さんとお  
母さんは、神様がわたしたちのために与えてくだ  
さったからです。聖書には次のように書かれてい  
ます。「子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。」  
(エペソ6・1) わたしたちを愛し、心をこめて  
育ててくださっているお父さん、お母さんに従い、  
心から仕えることは、神様が願っておられるだけ  
でなく、命令しておられることなのです。そして、  
神様の命令にはいつでも祝福の約束があります。「あ  
なたの父と母とを敬え。あなたが長く命を保ち、  
さいわいを得ることのできるためである。」(申命  
記5・16) 神様は祝福を与えるためにこのように  
語っておられます。

結び

みなさんは、お父さん、お母さんに対してどの  
ような態度をとっていますか。困らせたり、口答  
えしたりしていませんか。わたしたちを愛してど  
こまでも仕えてくださったイエス様にならって、  
お父さん、お母さんを愛し、尊敬し、仕える人  
になりましょう。

ですから、そこも聞いて、みんなで読んで覚えま  
す。

〈ワークをしましょう〉

口とか、○とか、□とかに、ふさわしい文  
字を書き入れてください。またあなたが両親にお  
つかえするには、どんなことができるか、書いて  
みてください。三つよりもっともつとあると思い  
ますよ。

〈つかえよう〉

イエス様は、三十才になられるまで、お父さん、  
お母さんにおつかえになられました。えらいです  
ね。神様は、子どもたちが親のことを思い、うや  
まい、つかえるのをとてもとても、喜んでくださ  
り、祝福してくださいます。さあ、きょうからい  
ろんなことをして、つかえよう！



## 分級C

—キーポイント—

## 両親に仕えよう

## 〈導入〉

先週は、赤ちゃんのイエス様がエルサレムの神殿で神様にささげられたことを学びました。

今日は、少年時代のイエス様について学びます。イエス様はどこで、どういつぶつに大きくなられたのでしょうか。

## 〈聖書を読もう〉

今日、みんなで読む聖書の箇所は、マタイによる福音書2章13節〜23節です。順番に読んでみましょう。

## 〈質問〉

①天使がヨセフさんに語ったことは何ですか(13節)。  
●ヘロデ王が、赤ちゃんのイエス様を捜し出して殺そうとしているので、エジプトへ逃げるようにと語りました。

②ヨセフさんはその時どうしましたか。

●ヨセフさんは主の使いが告げたことに従いました。「そこでヨセフは立って」とありますね(14節、21節)。ここにヨセフさんの、神様の導きに対してすぐにお従いする素晴らしい信仰があります。

## 研究資料

## 課題 ナザレにて

幼子イエスが、ナザレの町で、自分を低くして両親にお仕えになったことを学ぶ。主のみ告げでエジプトに逃れたヨセフと幼子イエスを抱いたマリヤは、ヘロデ大王の死の知らせを聞いて、エジプトから出てきた。ところが、大王の後を継いだ息子のアケラオが父に代わってユダヤを治めていると知らされ、彼を恐れて、ガリラヤのナザレに住むことにした。大王は、自分の地位を守るためには、実の息子や寵愛していた妻を平気で殺すような人物であったが、アケラオはさらにそれに輪をかけて残忍な人間であることが知れ渡っていたからである。一度は「イスラエルの地に行け」との御告げを受けた彼だが(20節)、やはり夢での御告げによって、アケラオほど残酷ではなかったヘロデ・アンティパス統治下のガリラヤに退いたのであった。

ナザレという町は、旧約聖書や、歴史家ヨセフスの著作や、ユダヤ教のタルムードなどに出てこないことから、小さな田舎町であったと思われる。この町に対する当時のユダヤ人の態度は「ナザレから、なんのよいものが出ようか」(ヨハネ1:46)という言葉に示されている。片田舎ナザレで、幼少期のイエスがどのように過ごされたか、マタイ

ベツレヘムでは、ヘロデ王によって二才以下の男の子が殺されるといふ、とても恐ろしい事件が起こりました。

しかし、そうしたなかで神様はイエス様を守られ、エジプトへと導かれたのでした。

③ヘロデ王が死んだのち、イエス様はどの地方の何という町にお住みになりましたか(23節)。

●ガリラヤ地方のナザレという町です。

④ここでイエス様が通られた所をたどってみることにしましょう。

●ベツレヘム↓エルサレム↓エジプト↓イスラエル↓ナザレ

当時の人たちはナザレの町を「ああ、あのナザレですか」とあまりいいようには言いませんでした。ナタナエルという人は「ナザレからなんのいいものが出ようか」と言っているくらいです(ヨハネ1:46)。けれども、四方が山に囲まれた、とても静かで美しい村でした。そのナザレでイエス様は少年時代を過ごされたのです。

⑤イエス様の父親であるヨセフさんはどんな仕事をしていたか(マタイ13:55)。

●大工さんでした。その暮らしぶりは豊かではなかったようです。イエス様はヨセフさんの仕事を手伝いながら、まだ弟や妹たちの面倒をみながらすごされたことでしょう。

⑥今日の暗唱聖句を開いてみましょう。ルカによる福音書2章51節です。イエス様はナザレで何をされたと言われてありますか。

●イエス様は両親を心から尊敬し、仕えられました。

は何も語らない。ただルカは、「イエスは両親と一緒にナザレに下って行き、彼らにお仕えになった」(2:51暗唱聖句)と紹介している。主は準備の三十年間、真心を尽くして両親にお仕えになった。

## テキスト

13 立つて、…エジプトに逃げなさい ヘロデのもくろみはイエス抹殺であった。博士たちを別の道を経て帰らせた主の使いは、ヨセフとマリヤにエジプト逃避を命じた。それは一見敗北のようである。

15 エジプトからわが子呼び出したは、ホセア11:1の預言の成就であった。エジプトは、かつてイスラエルの民の奴隷の地であり、小羊の血であがない出された忘れ得ぬ地である。主がそこに落ちのびられたのは、罪の奴隷であった我らの悩み、苦しみを知ってくださるためであり、また、そこから出てこられたのは、我らを罪の中からこの自身の血であがない出す十字架のみわざを示すためであった。

16 博士たちから確かめた時に基いて…ここにく殺したという表現から、この時のイエスの年齢は一才から二才までの間であったと推測される。18節はエシミヤ31:15の引用である。ヘロデによる幼児大虐殺については、一般の歴史には記録がないが、彼の残忍な性格を十分に物語っている。

19 ヘロデの死は紀元前四年であった。その後、主の使が…夢で現れて言った ヨセフに天使が夢で現れたという記録は、これで三度目である(1:1

だ。しかもご自分が神の子であり、神のもとからこの世界に遣わされていることをよく知った上、両親の言われることをよく聞き、両親の喜ばれることを進んでされたのです。

少年の時だけではありません。十字架にかけられた時でも母親のマリヤさんの事を心に掛けて、愛する弟子ヨハネさんにお世話をするようにお願いされました(ヨハネ19:26〜27)。

「自分が神の子であるにもかかわらず両親を心から尊敬し、仕えられたイエス様。

みなさんはどうですか？ お父さんお母さんを心から尊敬していますか？ いくら口で「神様を信じています」と言っても、お父さん、お母さんを尊敬できない人を、神様は祝福されません。

またお父さん、お母さんがみなさんを愛して一生けん命働いておられるのに、感謝の気持ちがなかったら、神様は喜ばれませんね。

神様を信じる人はお父さん、お母さんを心から尊敬する人です。神様はそういう人を愛し、祝福してくださるのです。

わたしたちにすばらしいお父さん、お母さんをごくださった神様に感謝しましょう。そして、イエス様のようにならなうように祈りましょう。

## 〈祈り〉

イエス様が心から両親を尊敬し、仕えられたように、わたしたちも両親を愛し、両親が喜ぶことを進んでできるように祈りましょう。

20、2:13。

23 この節はマタイ福音書中で最も問題になる箇所の一つだ。「彼はナザレ人と呼ばれるであらう」との引用文が、旧約聖書のどこにもないからである。重要なことは、マタイがこの引用をだれか特定の預言者のものとしなくて、「預言者たち」と幅を持たせたことである。したがって、これは一つの重要な真理の一般的な紹介と受け取ることができよう。初代教会のヒエロニムスらは、ナザレ人を「ナシル人」と関係あるものとみなし、宗教改革時代にカルヴァンらによって支持された。しかしこの説は、次の二点で退けられる。すなわち、(1)この二つの語のヘブル語の語根は非常に違っていること。(2)主がナシル人と自称されたこともなければ、そのような生き方をなさったこともなかったことである。より妥当と思われるヘブル語彙との関係は、「枝」または「芽」との関係で、これらの語は旧約聖書の様々な箇所に出てくる。その一例は、「エッサイの株から一つの芽が出る。その根から一つの若枝(ネツツェル)が生えて実を結び」(イザヤ11:1)である。「ナザレ人」はイエスと弟子たちに対して使われた侮蔑的な言葉であったが、しかし、初代教会はそれに対抗して、「ナザレ人」を「ネツツェル」に結びつけ、栄誉ある呼び名としたと考えられる。



## 礼拝メッセージ

●週題 少年イエス  
●聖書 ルカによる福音書2・41〜52  
●暗唱聖句 わたしが自分の父の家にいるはずのことを、「ご存じなかったのですか。」  
●目標 少年時代に自分の使命を自覚しておられた主イエスの姿を学び、それぞれが自分の使命を考えるきっかけとする。

### 導入

みなさんは、迷子になったことがありますか。お父さんやお母さんとはぐれてしまって、ひとりぼっちになってしまったとき、とてもみじめで悲しくなりますね。今日は、イエス様が迷子になった？お話です。

### 超越の祭り

ユダヤには、年に一度の超越の祭りがありました。それは、昔、イスラエルの人々が、エジプトでの奴隷の生活から救い出されたことを神様に感謝する大切な祭りでした。

その祭りの時には、人々はエルサレムの神殿に礼拝に行くのが習慣になっていました。イエス様が十二才になられた年も、超越の祭りに、ヨセフさんとマリヤさんはイエス様を連れて、ナザレからエルサレムに行きました。ナザレからは、ほかにもたくさんの人々が一緒でした。何日もかかる

## 分級 A

### ＜教師メモ＞

幼児は知識も経験も浅いので、世界がせまいものです。けれども、身のまわりにいる人たちを見まわしたり、テレビを通して知った人たちのことを思い出させて、どんな仕事につきたいか、目標を見つけてあげましょう。

それが実現できないことであっても、目標をもつと希望がうまれます。将来に希望をもっている子どもは輝きます。その心の風船がしまらないように配慮して育てるのが、大人の役目です。

### ＜用意するもの＞

いろいろな職業の人の絵

### ＜分級活動例＞

おはよう！！

ケンちゃんもマリちゃんも大きくなったら何を

する人になりたいの？  
もうきまってるかな、まだきめてないかな。ち

よっと考えてみようか。  
あのね、イエス様はお父さんが大工さんだったからよくおてつだいましたけど、大工さんにはならないで、神様のことをたくさんの人に伝える人になったのよ。

先生の知ってる八才のお友だちも大きくなったから神様のことを伝える牧師先生になるんだって。

長い旅でした。

祭りが終わって、ヨセフさんたちはナザレに帰ろうとしたんですが、イエス様が見あたりません。一緒にナザレから来た人々の中に混じっているのだからと思い、一日の道のりを来ましたが、一行の中にイエス様がおられないことが分かりました。大変です。イエス様は迷子になってしまったのです。

### 神殿の中のイエス様

ヨセフさんたちはイエス様を捜しながら、エルサレムまで引き返しましたが、とうとう三日も過ぎてしまいました。エルサレムに戻って、もう一度神殿に入ってみると、聞いた声がします。なんとイエス様が、神様の律法を教える教師たちの真ん中にすわって、話を聞いたり質問したりしておられるではありませんか。迷子になったと思って必死で捜していたイエス様は、初めから神殿におられたのです。

「イエス、どうしてそんなに心配をかけたのです？あなたを捜しまわったんですよ」マリヤさんが大声で尋ねると、イエス様は「どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家にいるはずのことを、「ご存じなかったのですか」と答えられました。

イエス様は神殿を「自分の父の家」と言われました。イエス様はご自分が神様の子であること、神様によってつかわれた救い主であることをはっきりと自覚しておられたのです。イエス様はすでにご自分の使命を知っておられました。ですが

いろいろな皆さんのお仕事があるね。

学校の先生、幼稚園の先生、会社員、病気をなおすお医者さん、看護婦さん、工場で機械や自動車をつくる人、新聞をつくる人、おうちをたてる大工さん。よその国まで行って神様のことを伝える人のことを宣教師というのよ。

電車の運転手やパイロットやスチュワーデスもあるし、お店屋さんもあるね。

さあ、どんなお仕事をしたいか決まった？もし決まったら神様にお祈りするのよ。

「〇〇にならしてください」って。そして、がんばってお勉強するの。

みんながそうやって、神様のお役にたつおしごとをしてくれたら、先生はうれしいよ。おいのりしてるからね。

### ＜ワーク＞

絵を見て、どんなことをしている人が、子どもに話してもらいましょう。そして、将来、どんな仕事をしたいか、絵にかいてもらいましょう。

## 分級 B

### ＜キーポイント＞

### 使命に生きよう

### ＜導入＞

この一週間は、神様にはもちろん、お父さんや

ら神殿のことを「自分の父の家」と言われたのです。

「自分の使命を知っていながらも、イエス様はヨセフさんとマリヤさんに仕えられました。」

### わたしたちの使命

こんな話があります。ヨーロッパのあるオーケストラが、近づく演奏会のために一生けんめい練習していました。ある時のこと、ピッコロというフルートよりも小さな可愛らしい楽器を持った人が突然思いました。「ぼくなんていてもいなくても同じだ。トランペットやトロンボーンのように大きくないし、それに格好よくないし、しかもこの曲じゃぼくの出番はたった一度だけじゃないか。やめた。」そして、彼は自分が吹かなければいけない時に吹かなかったのです。その時です。「ストップ！指揮者のものすごく大きな声にみんなびっくりしてしまいました。「ピッコロ、なぜ吹かないんだ？君が吹かなかったらこの曲は台無しだ！君がいるからこそ、この曲は演奏できるんだ！」その時彼は、自分にはなくてはならない大切な存在であること、自分にしかできない大切な使命があることが分かって、うれしくてたまりませんでした。その演奏会は大成功だったそうです。

### 結び

わたしたちにはそれぞれ神様から使命が与えられているのです。自分の使命を知って、神様にわたしたちを用いていただきましょう。

お母さんにも喜ばれる毎日過ごせたことでしょう。どうでしたか。きょうは礼拝で十二才のイエス様がもうちゃんと、自分が神様のお仕事をすることを知っておられたと聞きました。わたしたちも小さくても、今から、何がわたしたちのお仕事を神様に教えてもらって、しっかり準備できるとすばらしいね。

### ＜聖書に親しむ＞

ルカ2・41〜52です。先生がナレーターをしますから、みなさんは、お母さんマリヤと、イエス様役とにわかれて、そのセリフを読みましょう。暗唱聖句にはいつものように線を引いて覚えてください。いったい、どんな意味のみことばなのでしょうね。

### ＜使命ワークです＞

「しめい？」名前のことじゃないよ。これは、わたしたちがいったいどんなことをするためにこの世に生かされているかということを示すことばです。ちよっとむずかしいね。さて、十二才のイエス様が、お母さんマリヤさんにむかって何か言っておられます。「あんこう」を解いてみてください。

### ＜使命に生きよう＞

イエス様は十二才の時、「神様のお仕事を」「使命を知って、準備されたのです。さあ、ぼくやわたしは、どんなことが自分の使命なのか？お祈りして、早く知って、十分に準備できたら、すばらしい使命に生きられるよ！」

## 分級 A・B

## 分級C

—キーポイント—

## 使命の自覚

## 〈導入〉

みなさんは、将来自分は何になろうか、何をする人になるだろうか、と考えたことがありますか。そのように考えることはとても大切なことです。イエス様も十二才になられた頃にはすでに考えておられました。

## 〈聖書を読もう〉

それでは聖書を開きましょう。ルカによる福音書2章41節〜52節です。49節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

## 〈質問〉

①イエス様が、過越の祭りのためにエルサレムへ行かれたのは何才の時でしたか（42節）。

●十二才です。

イスラエルでは十二才と言えは一人のおとなとして認められる年令です。十二才になられたイエス様にとって、エルサレムへ行かれたのはとても記念すべき事でした。

②祭りが終わって帰られる時、イエス様はどうされましたか（43節）。

## 研究資料

## 課題 少年イエス

十二才になられた少年イエスが、神の子としての自覚を公に表明されたことを学ぶ。すべてのユダヤの少年は、十三才のときに、バル・ミツパ（アラム語で「律法の子」となる厳かな儀式を受けることになっている。しかし、キリストの時代には、十二才でも十三才でもよかったのである。したがって、これはイエスのバル・ミツパであったのかもしれない。バル・ミツパとなったユダヤの少年は、イスラエルの会衆の一員となった。幕で隔離された婦人のために当てられた場所に、母親と一緒にいなければならなかったこれまでと違って、成人した男性たちと共に、会堂において礼拝することができた。

イエスが神殿に入られたのは過越の祭りの時であった。この祭りは、イスラエルの民がエジプトから小羊の血によってあがない出されたことに由来するが、イエスが十字架にかかれたのも、過越の祭りのさなかであった。すなわち、主は罪の奴隷の中から我らをあがない出すために、過越の小羊となって殺され、十字架に血を流されたのである。これが父なる神から与えられた使命であった。そしてこの使命を、十二才のときの過越の祭

●エルサレムにそのまま残っておられました。

③イエス様の両親はそのことを知っていましたか。

●いいえ。てっきり一緒にいると思っていたところがおられませんでした。エルサレムへ引き返して、三日たって、ようやくイエス様を捜しあてました。

④イエス様は神殿（宮）の中で何をしておられましたか（46節）。

●教師たちのまん中にすわって、彼らの話を聞いたり、彼らに質問したりしておられました。

イスラエルの教師というのは、人々に律法を教える人たちで、律法のことなら何でもよく知っている人たちのことです。その教師たちを前にして、イエス様は彼らの話を聞き、質問をしておられたのです。

⑤その場で聞いていた人たちはどんな様子でしたか（47節）。

●まだ少年であったイエス様がとても賢く、知恵深いので大変驚いていました。教師たちと対等に話ができるこの少年は、いったい何者なのだろうと、だれもが思ったことでしょう。

⑥両親はやつとのことで神殿におられるイエス様を見つけました。お母さんのマリヤさんがとても心配したことを告げた時、イエス様は何と答えられましたか（49節）。

●「どうしてお捜しになったのですか。わたしが自分の父の家のいるはずのことを、ご存じなかったのですか」と言われました。

⑦イエス様はなぜ神殿のことを「自分の父の家」

りの時に自覚され、また暗に示されたのである。

## テキスト

41 イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上っていた。成人した全てのユダヤ人男性は、毎年過越の祭りに参加しなければならなかったが、婦人は三大祭り（過越の祭り、七週の祭り、仮庵の祭り）に参加することを義務づけられてはいなかった（申命記16・16）。しかし、主の両親は毎年エルサレムに上る、まれに見る敬虔な人々であった。

43 ナザレから一緒に旅をして来た大きなグループであったので、ヨセフとマリヤは、イエスがエルサレムにとどまっておられることに気づかなかった。

46 三日の後に、一日目は帰路の旅にあり、二日目にはエルサレムに引き返し、三日目にイエスを捜しあてた。主を見失うのは一日で十分であったが、再び見いだすには三日かかったのである（バックストン）。

47 イエスは並み居る教師たちを相手に、話を聞いた。質問したりしておられた。教師たちはイエスの知恵に驚いた。ユダヤの教師（ラビ）は、人並みはずれた勤勉によって、豊富な律法知識を誇っていたが、イエスはその彼らを驚嘆させるほどの知恵を表されたのである。

48 まだ十二才のわが子が、熟練した教師たちと互角に論陣を張っておられる様子を見て驚いた。そして、その驚きには「どうしてこんな事をして

と言われたのでしょうか。ここから、イエス様について何が分かりますか。

●イエス様がここで「自分の父」と言われたのは、父なる神様のことです。イエス様には、「エルサレムの神殿は、自分の真のお父様である神様の家だ」という自覚がありました。イエス様は、ご自分が神の子であること、そして、神様からつかわれ、神様によって立てられた救い主であることを知っておられたのです。イエス様はすでにご自分の使命を自覚しておられました。

イエス様はご自分が神の子であることを知っておられながらも、その後両親とナザレに戻られ、両親に仕えられたのです。

神様は、私たちに使命を与えてくださり、また期待しておられます。今から、神様のために何ができるのかを考え、具体的なものになったら良いですね。

## 〈話し合ってみよう〉

神様が私たちに期待しておられることは何だと思えますか？ 今の私たちにどのようなことができるでしょうか。話し合ってみましょう。また、大人になったら神様のためにこんなことがしたい、こんな人になりたいという夢や願いについても話し合ってみましょう。

## 〈祈り〉

心を合わせて祈りましょう。神様が、私に与えてくださる使命を知って、それに向かって生きることができまうように。

くれたのです」と、両親に心配をかけたことへの非難が込められていた。

49 自分の父の家にいるはずのことという返答は彼らをさらに驚かせ、困惑させた。イエスは、神殿を自分の父の家と認められた。少年の彼にはすでに「自分が神の子であること」の自覚があった。そしてこの自覚は、ご自分の身分の認識だけではなく、ご自分の使命、つまり、全人類の罪のあがないとして十字架にかかるために、父なる神から遣わされたものであるということの認識でもあった。両親には、このイエスの言葉の意味は悟れなかった。

51 しかも母はこれらの事をみな心に留めていた。羊飼いが来た時もそうであったが（19節）、老預言者シメオンの言葉や女預言者アンの言葉、そしてこのイエスの言葉などを、母は悟ることができないながらも、ことごとく心に留めていた。主の十字架の下に立ったとき、全てが記憶からよみがえって、明らかにしたのである。

52 イエスはますます「神と人から愛された」ここに主の健全な成長が現れている。「知恵が加わり」知育、「背たけも伸び」体育、「神と」霊育、「人から」徳育である。理想的な教会教育の根本である。子どもたちを神と人から愛される者にしていく。これが教会学校の使命である。



● 週 題 荒野の声  
● 聖 書 マタイによる福音書3・1～12  
● 暗唱聖句 主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよ。 マタイ3・3  
● 目 標 主の道備えをするヨハネの中心メッセージは悔い改めであったことを強調し、自分の罪を悔い改める者となる。

## 導入

日本は、山は緑でおおわれ、空も青々としています。とても過ごしやすい気候です。今月も私たちの信仰を導いてくださるイエス様を仰ぎ見つめましょう。

## バプテスマのヨハネ

ここは美しい花も緑豊かな木も何ひとつない、とても寂しいユダの荒野です。時々冷たい風が吹いたり、ゴツゴツした岩が散らばっていたり……。そのような寂しい所に一人の人が生活していました。その人は、数多くの人々にイエス様が来られる事を紹介したバプテスマのヨハネです。ヨハネはとてもすばらしい働きをした人です。

彼は叫びました。「悔い改めよ、天国は近づいた」。彼は、神様から特別な使命を与えられていました。それは、人々にバプテスマを授けて、心を神様に向けさせるということでした。もうすぐ救い主イ

エス様が来られるので、主の道を真っすぐに備えるのが、彼の仕事でした。

多くの人が、続々とヨルダン川のヨハネの所に集まって来ました。そして、心から罪を悔い改め、彼からバプテスマを受けました。今まで犯した罪は、小さい罪でも大きい罪でも、全部悔い改めたのです。

## ヨハネのメッセージ

ヨハネのもとには、パリサイ人やサドカイ人たちも集まって来ましたが、しかし、彼らは罪を悔い改めようとはせず、最近、人々の人気を集めているヨハネをひと目で見てやろうとして来たのです。彼らは、自分たちに罪があるなどとは思っていませんでした。

そんな彼らに対して、ヨハネは厳しく言いました。「まむしの子らよ、迫ってきている神の怒りから逃れられるなどと思っはけません。悔い改めにふさわしい実を結びなさい」。

自分たちには悔い改めなければならぬ罪などないと思うこそ、傲慢の罪であって、神様が悲しまれるかたくな心であるのに、彼らは、そういう自分の姿に気づいていなかったのです。

## 救いの第一歩

悔い改めは、救いの第一歩です。自分には罪がある、あれもこれも罪だったと認めて、神と人の前に一つ残らず罪を告白するのです。この悔い改めがよい加減であれば、すぐに救いの確信がなくなったりします。

洋服のボタンをかけるとき、一つかけ間違っ

ことがありますか。最初の一つ目のボタンを正しい位置のボタンホールにかけないと、二つ目、三つ目も違ってきますね。そして、洋服は着ているのですが、どこかおかしいということになります。またボタンを全部はずして、はじめからやり直します。

悔い改めは、ちょうどボタンの最初の一つ目と同じです。きちんと罪の悔い改めができていれば、救われたという確信が与えられ、さらに神様の恵みが次々に分かってくるのです。

罪を悔い改め、イエス様の十字架がわたしのためだったと信じるなら、「神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(1ヨハネ1:9)のです。

## 結び

みなさんは罪をゆるされましたか。イエス様をお迎えする備えができていますか。「ウーン、わからない」という人は、罪を悔い改めたかどうかを考えてください。悔い改めをしていなかった、まだはいいい加減だったという人は、今すぐにでも神様の前に祈りましょう。そして、思い出すかぎりの罪を悔い改めて、イエス様の十字架を信じましょう。そうすれば、必ず救いの確信が与えられ、神様の恵みがさらに分かって、イエス様をお迎えすることが出来ます。

神様は、わたしたちすべての者が悔い改めに至ることを望んでおられるのです。

## 分 級 A

## 〈準備のアイデア〉

- ①荒野で叫ぶバプテスマのヨハネの絵を準備して、ヨハネのイメージを子どもたちに知らせる。
- ②教師自身が、荒野のヨハネの服装をまねてみる。例えば、毛のヴェストのようなものを着て、腰をひもでくくる。

## 〈分級活動例〉

ヨハネさんは、こんな姿(説明を入れる)をして、神様のことをみんなに伝えました。

①神様に自分の罪をおわびしなさい。

②神様は、罪を行っている人に対してとてもおこ

③どんなお金持ちでも、どんなに頭がよくても、どんなにきれいな顔をしていても、罪があったら、何にもなりません。

ここにいますみなさん(名をあげて)は、神様に「ごめんなさい」と罪をおわびしましたか。これを悔い改めといいます。

イエス様は、悔い改めた人の罪を全部ゆるして下さいます。

では、お祈りしましょうね。

## 分 級 B

## 〈キーポイント〉

## くいあらためよう

## 〈導入〉

イエス様が、いよいよその「使命」に立ちあがられる日が近づきました。三十才になられようとしていました。そのイエス様のお働きのために「道

を備える役」をした、バプテスマのヨハネさんの登場です。

## 〈聖書に親しむ〉

マタイ3・1～12です。きょうはまた、一節ずつ、順番に読みましょう。暗唱聖句にはいつものように線を引いて、覚えましょう。

## 〈主のみちワークをどうぞ〉

わたしたちの心の道は、イエス様を心の中にお迎えするのに、とどのえられているかな？  
心の道にある、じゃまな罪の岩があれば、心からおわびしましょう。それを「くいあらため」と言います。1～6の岩についてどうかな？ まだあるかな？ みんなでおわびのお祈りしよう。アレック、ぬけている文字があるよ。1～6のぬけた文字をならべてみると……。

## 〈主よ、わたしの心に〉

罪をおわびして、もう二度としません、というのが「くいあらため」です。わがままや、たかぶりや、ひねくれて、曲がったりおちこんだりしている心を、たいらにまっすぐにしたいだいて、喜んで主を心にお迎えする準備をしましょう。



## 分級C

〈キーポイント〉

くいあらためよう

〈導入〉

「ガタツガタツガタツ」一九九五年一月一七日午前五時四六分、あの恐ろしい阪神淡路大震災が起こりました。わずか15秒で高層ビルが倒れたり、高速道路がゆがんだり…。六千人以上の尊い命が失われてしまいました。一体だれがあれだけの災害を予測できたでしょう。

イエス様は世の終わりの前兆として、「あちこちにきさんが起こり、また地震があるであろう」と言われました。イエス様のおいでが間近だと思われるこの時、わたしたちはイエス様をお迎えできるように備えることがなによりも大切です。聖書に、「あなたの神に会う備えをせよ」(アモス4・12)とあります。あなたの備えはどうですか？

〈聖書を読もう〉

マタイによる福音書3章1節〜12節を開いてください。順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は3節です。線を引いて覚えましょう。そしていつものように質問に答えてください。

〈質問〉

①ユダヤの荒野で、神様の教えを宣べ伝えていた人はだれですか。

## 研究資料

週題 荒野の声

今週から三週間かけて、イエス・キリストが本格的に伝道を始められる前のできごとを学ぶ。

今週のテーマである救い主の先駆者バプテスマのヨハネの使命は、「主のみ前に先立って行き、その道を備え、罪のゆるしによる救いをその民に知らせる」(ルカ1・76、77)こと、すなわち、①水による悔い改めのバプテスマを施すこと、②神の国の到来を告げ知らせること、③救い主イエスを指し示すことであった。彼は自分で「わたしは、預言者イザヤが言ったように、『…荒野で叫ぶ者の声』である」(ヨハネ1・23)と紹介したように、あくまでもへりくだって、自らをやがて消え去る声とし、消え去ることのない神の実体なる御子を、「世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ1・29)として示したのである。

テキスト

バプテスマのヨハネに関しては、他の三つの福音書も共通して記録している(マルコ1・2〜8、ルカ3・1〜22、ヨハネ1・19〜34、3・22〜36)。このことから、彼の活動は、主イエスの生涯にとって重要な意味を持つと考えられる。

●バプテスマのヨハネです。らくだの毛ころもを着物にし、腰に皮の帯をしめ、いなごの野蜜とを食物としていました。

②バプテスマのヨハネはどのような働きをすると言言されていましたか(2節)。

●イエス様が神様の働きを始められる前に、人々の前に現われ、救い主がすぐに来られるので準備をするようにと、イエス様のお働きの道備えをしました。

③人々はどこからバプテスマのヨハネの所に集まりましたか(5節)。

●エルサレム、ユダヤ全土、またヨルダン一帯から人々がぞくぞくとやって来て、ヨハネからバプテスマを受けました。

④バプテスマのヨハネが宣べ伝えた教えはどのような教えですか(2、8節)。

●「悔い改めよ、天国は近づいた」「悔改めにふさわしい実を結べ。」

⑤悔い改めるってどういうことでしょうか。

●悔い改めと後悔とはちがいます。悔い改めとは神様の前に自分の罪を認め、その罪を悲しみ、罪を離れる決心をすることです。まわれ右をし、神様の方へ心を向けることです。後悔は「あの時あんなことをしなければよかった」と思うことです。

みなさんのよく知っているペテロさん。彼はイエス様が十字架にかかれる前、イエス様を三度「知らない」と否定してしまいました。しかしその後、失敗を神様の前に心から悔い改めたのです。神様はペテロさんをゆるし、後にすばらしい働き

をペテロさんを通して進められました。

一方、イエス様の弟子として選ばれながら、わずか銀貨三十枚でイエス様を裏切ったイスカリオテのユダ。彼は後悔はしましたが、悔い改めなかったのです。その結果、自分で自分の命を断ってしまいました。

⑥どんなことが罪なのでしょう(マルコ7・21〜22)。

●ここに罪のリストがあります。「殺人なんてしてない」と言う人が中にいるかもしれません。しかし「あの子なんていなかったらいいのに。あんな子なんて嫌い」と思うことは人殺しと同じだと聖書は語っています。この罪のリストから逃れることのできる人はだれもいないのです。

⑦神様に対する、最も大きな罪は何だと思えますか。

●わたしたちを愛し、造ってくださいった神様を信じないことです。わたしたち自身のこのような罪を悔い改めましょう

⑧神様は、罪を告白し悔い改めるときに、どのような恵みを与えてくださいますか(1ヨハネ1・9)。

どこまでも真実で正しい神様は、私たちのすべての罪をゆるし、きよめてくださいます。

バプテスマのヨハネのもとに来た人々は、これまで犯してきた罪を隠すことなく、ありのまま告白しました。

わたしたちにとって最も大切な準備は、罪を告白し、悔い改めてイエス様を心にお迎えすることです。

1 そのころ ローマ皇帝ティベリウスの治政第十五年で、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデ・アンティパスがガリラヤ領主、兄弟ピリポ・ヘロデがイッリヤ・テラコニテ領主、ルサニヤがアビシネ領主、アンナスとカヤパが大祭司であったときである(ルカ3・1、2)。

教を宣べとはギリシャ語で「ケリユッソー」という。「布告するための伝令官」という意味である。伝令官は、軍隊の前進み出て司令官に代わって告示をしたり、群衆の前で統治者に代わって宣言を伝える人であった。伝令官は自分のために語ることはせず、ただ上官のために語るのである。ヨハネは、メシヤが来られるという重要なメッセージを告示する神の伝令官であった。

2 悔い改めよはヨハネの説教の基調である。悔い改めとは、単なる後悔ではなく、罪から離れて心を神に向けることで、生き方そのものの転換を表す。悔い改めなければならぬ理由は、天国は近づいたからだ。天国とは、場所的なものではなく、神の統治である。つまり彼は、終末が近いから、早く悔い改めて神の救いを受けよと語ったのである。

3 主の道を備えよ、その道筋をまっすぐにせよイザヤ40・3の引用。王が通るとき、人々は道を開けて王道を整えなければならなかった。人類の王の王イエスの到来を告示し、人々を悔い改めに導き、その心を神に向けさせて王道を設けることが、ヨハネの使命であった。

7 パリサイ人とサドカイ人は当時のユダヤ人の

二大派閥である。前者は、非常に注意深く律法を遵守する人たちで、汚れから自分たちを「分離する」という意味でパリサイ派と呼ばれた。彼らの起源はバビロン捕囚にまでさかのぼる。神殿を失ったユダヤ人は、モーセの律法を宗教生活の中心とした。そして異教的なヘレニズムの浸食に対抗して、ユダヤ教の純粋さを保持しようと努めた人々から起こった党派である。

一方後者は、祭司と貴族の党派である。パリサイ人たちがあちこちにある会堂で律法を教えたのに対して、彼らはエルサレムの神殿を管理した。紀元七十年に神殿が最終的に破壊されたからは、彼らは歴史から姿を消している。

7〜9 洗礼を受けようとして来たパリサイ人、サドカイ人たちを、ヨハネはまむしの子らよと厳しく責めた。彼らは、自分たちの父にはアブラハムがあると高慢になり、悔改めにふさわしい実など結んでいなかったからである。

11 わたしのあとから来る人ヨハネのイエス紹介のポイントは、①自分は彼の靴ひもを解く値打ちもない者であり、②聖霊によってバプテスマを授ける方であり、③麦とからを振るい分ける方である、ということだった。つまり、①我らを支配したもう王、②我らを罪から全く救いきよめるあがない主、③世の終わりに我らを正しく裁く審判者、これが我らの主キリストである。

ペンテコステ

週題 イエスの洗礼

聖書 マタイによる福音書3・13～17

暗唱聖句 見よ、天が開け、神の御霊がはとのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。

マタイ3・16

目標 主イエスの洗礼の時にくだった御霊は、現在のわたしたちにも与えられることを教える。

導入

今日はペンテコステです。復活されたイエス様が、天に昇られたあと、約束を信じて待っていた弟子たちに、聖霊が下られました。そして、その日に、世界で最初の教会ができたのです。

バプテスマのヨハネ

先週は、バプテスマのヨハネのお話を聞きましたね。ヨハネは、イエス様が働きを始める少し前から、ヨルダン川で人々に水でバプテスマを授けていました。彼が神様から与えられた使命は、人々を悔い改めに導き、心を神様に向けさせて、救い主をお迎えするための道備えをすることでした。たくさんの人々が、ヨハネのところに行き、罪を悔い改め、バプテスマを受けました。彼らはみな、救い主を待ち望んでいましたが、ヨハネのメッセージを聞いて、罪を持ったままでは救い主を

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん。ホラ、このあいだ「バプテスマのヨハネさん」のお話を聞いたね。おぼえてるかな？

ラクダの毛皮のお洋服を着て、ハチミツやいなごを食べてくらしていた人のこと。

この人がきょうも大きな声で「心をあらためて神様を信じなさい。神様を信じない人は天国にはいれませんよ」と、たくさんの人々にお話をしていました。

そして、「私は神様を信じます。そして、天国に行けるようになります」という人には「洗礼」ということをしていました。

「洗礼」というのは少しむずかしいことばだね。ヨハネさんは、神様を信じる人たちを川へつれて行って、一人ずつ川の中に入れ、頭から「ザブーン」と水につけました。

これが「洗礼」というのよ。そこへイエス様がこられました。

「わたしにも洗礼をさすってください。」

ヨハネさんはおどろいて、「あなたのようにきれいな心で立派な方が洗礼を受けるのですか？」といました。

お迎えできないということがわかり、心から罪を悔い改めたのです。

バプテスマを受けられたイエス様

そんなヨハネのところに、イエス様が近づいて来られました。そしてヨハネからバプテスマを受けようとするではありませんか。ヨハネはとても驚いて「イエス様、私こそあなたからバプテスマを受けるはずなのに」と言って断わろうとしました。なぜなら、バプテスマ（洗礼）は、神様の前に自分の罪を悔い改めた人々の罪を、水で洗い清めるしるしだからです。ヨハネは罪のない神の子イエス様が洗礼を受けられる必要はないと思ったのです。ところが、イエス様は「今は受けさせてもらいたい」とおっしゃいました。イエス様は神様の子でありながら、罪人のわたしたちと同じところまで下ってくださいました。そして、私たちに模範を示してくださいましたのです。

イエス様が洗礼を受けて水から上がられると、天が開け、聖霊がはとのようにイエス様の上に下りました。それだけではありません、天からすばらしい声が響きわたりました。「これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である」と。イエス様がどこまでも神様のまごころに従われたので、神様は聖霊をお授けになりました。

聖霊に満たされよう

バプテスマを受けられたイエス様に下られた聖霊は、やがてペンテコステの日に、待ち望んでいた弟子たちにも下られました。そして、神様のす

「そうです。神様がよごされることですから」とイエス様はいわれました。そして、イエス様もみんなと同じように洗礼を受けられました。その時、天からイエス様の上に聖霊がおりてきました。神様の声も聞こえました。

「これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である。」

イエス様のようにわたしたちも洗礼をうけて、神様によごされるようになろうね。

〈ワーク〉

バプテスマのヨハネとイエス様の絵に色をぬりましょう。

（教師は先に見本を作っておくといひましょう。これにわりばしなどをつけて、ペーパーサートのように用いることもできます。これから数週間、使うことができるので、ぜひ作ってみてください。）

分級 B

〈キーポイント〉

はとのように

〈導入〉

さあ、どんな一週間でしたか？罪を悔い改めて、神様に喜ばれる毎日だったでしょうか。きょうは、

ばらしい働きが始められたのです。

わたしたちも聖霊に満たされる時、弟子たちのようにすばらしい恵みをいただけます。

①力に満たされます。「ただ聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受ける」とイエス様は約束されました。この力はイエス様をお伝えする力です。ペテロさんはイエス様が十字架にかかれる前に「私はイエス様を知らない」と言って大きな失敗をしてしまいました。ところが聖霊が下った時、まっ先にペテロさんがイエス様のことをたくさんの人たちに語り、教会ができました。聖霊に満たされるなら、わたしたちも恐れずにイエス様の救いをお友だちに伝えることができるのです。

②愛に満たされます。みなさんの学校や塾にどうしても仲よくできない人はいませんか。ところがわたしたちが聖霊に満たされるなら、どんな人でも愛し、受け入れ、仲よくすることができるようになります。

③喜びに満たされます。イエス様を信じて救われた喜び、イエス様をお伝えする喜び、勉強する喜び、何でもお手伝いする喜び…

結び

今日はペンテコステ。わたしたちも、聖霊をいただきたいと思いますね。そして、イエス様のように、いつでも神様のまごころに従い、神様に喜ばれる者になっていきましょう。

イエス様の洗礼のことを聞きましたね。洗礼を受けたイエス様の上に聖霊がはとのようにくだりました。きょうはまた、「ペンテコステ」といって、イエス様が天に帰られて十日のち、弟子たちの上にも聖霊がくだった記念の日です。わたしたちの上にも聖霊をくだしていただけるように祈りましょう。

〈聖書に親しむ〉

マタイ3・13～17を、ナレーター、イエス様、ヨハネ、天の声と役を決めて読みます。暗唱聖句は線を引いてみんなで読みましょう。そして覚えます。

〈はとワークをしましょう〉

聖霊は、ちようどはとのように、きよい、平和の霊です。ふさわしいハートをはとの足に結びましょう。わるい心をおわびして、神様に従いましょう。真剣に求めさえすれば、神様はわたしたちにも聖霊を与えてくださいます。きよい平和な心で、神様の道を歩みましょう。

〈きょうのお祈り〉

神様、心の中のいやなものをおわびします。イエス様の十字架によっておゆるしください。神様の言われるようにしますから、今、きよい、平和の霊を心にみだしてください。イエス様のみ名によって。アーメン



## 分級C

――キーポイント――  
聖霊に満たされよう

## ＜導入＞

今日はペンテコステ。イエス様が天に昇られて十日の後、聖霊が弟子たちに注がれ、教会が誕生した日です。弟子たちはイエス様の約束にしたがって、聖霊に満たされるよう祈り求め、ついに聖霊がくだられたのです。弟子たちは新しくつくり変えられました。彼らを通して、イエス様を信じて救われる人が次々に起こされました。そして教会が誕生し、宣教のわざが進められたのです。わたしたちも、弟子たちのように聖霊に満たしていただきましょう。

## ＜聖霊を読もう＞

マタイによる福音書3章13節～17節を開いてください。先週はその前の12節まで学びましたね。13節から順番に読んでみましょう。今日の暗唱聖句は16節です。線を引いて覚えましょう。

## ＜質問＞

①バプテスマのヨハネはヨルダン川で何をしていましたか。

●集まってきたたくさんの人々にバプテスマを授

けていました。人々は、ヨハネの叫ぶ声に真剣に耳を傾け、悔い改めの心をもってバプテスマを受けました。

②イエス様は、どこからヨルダン川に来られましたか（13節、2・22～23、マルコ1・9）。

●お育ちになったガリラヤのナザレです。

イエス様がナザレで少年時代を過ごされた事はすでに学びましたね。イエス様はおよそ三十才のときに神様の働きを始められました。

③イエス様がヨハネのところに來られたのは何のためですか（13節）。

●ヨハネからバプテスマを受けるためです。イエス様は、それが父なる神様に喜ばれることだと分かっておられました。

④イエス様がバプテスマを受けられたのは、罪を悔い改めるためですか。

●いいえ。イエス様は一度も罪を犯したことはありません（Ⅱコリント5・21）。イエス様は、罪とは全く無関係の方なので、罪を悔い改める必要はありませんでした。

⑤何のためにイエス様はバプテスマを受けられたと思いますか。

●ご自分からすすんで、救いを受けようとする人々と同じ立場に立つてくださるためであり、メシヤ（救い主）が到来したという事実を公に知らせるためでした。

⑥イエス様がバプテスマを受け、水から上がられた時、何がございましたか（16節）。

●天が開け、聖霊がはどのようにイエス様の上に

下りました。このように、イエス様は聖霊に満たされて働きを始められました。

⑦イエス様の上に、聖霊はどのように下られました。それでは、ペンテコステの日弟子たちにはどのように下られましたか（使徒2・3）。

●炎のように分かれてです。弟子たちの心の中には、聖霊の火によってきよめていただかなければならない汚れがあったからです。

⑧今日わたしたちは、イエス様がバプテスマを受けられ、聖霊に満たされた事を学びました。わたしたちはどうすれば聖霊に満たされることが出来るのでしょうか。

(1)神様に求めましょう。イエス様の弟子たちは心を合わせてひたすら祈り求めました。イエス様も次のように約束しておられます。

「天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあろうか」（ルカ11・13）。

(2)信じましょう。「こんなわたしでも聖霊に満たしていただけるかな」と疑ってはいけません。神様は信じる人に必ず聖霊を満たしてくださるのです（ガラテヤ3・14）。

(3)従いましょう。聖霊はわたしたちに働きかけ、まちがいや失敗を示してください。友だちから借りっぱなしにしている本はありませんか。いつでも聖霊の導きに従いましょう（使徒5・32）。神様は、わたしたちが聖霊に満たされた、きよい道を歩むことを願っておられます。

今日、聖霊に満たされて、神様の働きに用いていただきましょう。

## 研究資料

## 週題 イエスの洗礼

なぜイエスは洗礼を受けようとしたのか。罪の悔い改めのためではなかった。なぜなら、神の子イエスには悔い改めるべき罪がまったくなかったからである（Ⅰペテロ2・22）。また、単にヨハネの活動を支持するためでもなかった。洗礼は、メシヤが到来したという事実を公に知らせるためであり（ヨハネ1・33）、またこの儀式を通して、ご自身をメシヤの働きに献げられるためであった。今週のテキストは、イエスが公生涯に立ち上がられる前の、準備の三十年の総括部である。イエスの受洗に伴って三つのでき事があった。①天が開けた。すなわち神ご自身をご覧になった。②御霊が下った。すなわち聖霊のバプテスマである。③天から声があった。すなわちイエスに対する神のご承認である。これはイエスの預言者としての就任式であり、また祭司としての（マタイ17・5）、王としての（詩篇2・6、7）就任式であった（バックストン『マタイ伝ノーツ』）。

「これはわたしの愛する子」という天からの声に関して、小島伊助師は『キリスト伝』の中で「イエスだからこのみ声がかかれたと思うな。このように神から言われるのがクリスチャンだ。この声をかけることのできる魂であることを神は願っ

ておられる。このために血が流された」と語っておられる。そのような魂にされるのは、聖霊のバプテスマをいただき、内住のキリストを得ることによる以外にない。イエスは、ここから御霊に押し出され、また御霊に伴われて、十字架までの三年半の公生涯へと出て行かれたのである。

## テキスト

13 ガリラヤを出てとあるが、厳密には故郷ナザレを出てヨルダン川へ行かれた（マルコ1・9）。主は故郷の家族を献げて出て来られたのである。

14 思いとどまらせよというギリシア語はここだけにしか出てこない。「妨げる、止める」を意味する語である。ヨハネは、バプテスマを授けていただく必要のあるのは自分であって、その逆ではないことを感じたのである。

15 すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである。詳訳は、「正当な事は何でも完全に遂行するための、正当な道だからである」。主は、「ご自分がバプテスマを受けなければならぬ理由として、それはイエスにとってもヨハネにとっても、法的に正当なことだということを示された。つまり、ヨハネがイエスに授洗したのも、イエスがヨハネから受洗されたのも、いずれも神のみ旨への従順の表明であった。

16 神の御霊がはどのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。ここマルコ1・10では、鳩の幻はイエスだけに見えたと言っているかのように思える。しかし、ルカ3・22では、「イエ

スの上に下り」とあり、ヨハネ1・32～34でも、これは神からバプテスマのヨハネに与えられたしるしであることを述べている。このことから、聖霊が鳩のかたちをとって下られたということは、決してイエスの単なる主観ではなく、客観的な事実であったことが分かる。鳩は、御霊の柔和さの象徴である。

17 これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。イザヤ42・1からの引用。御子の服従に対する御父の信任を表現している。「愛する」という語の意味の一つは「ひとりの」である。神は、ひとり子であり、十字架の死に至るまで従順なしもべであるイエスを信任された。この受洗によって、イエスは、イザヤ書（42、49、52、53章）に書かれている主のしもべとしての職分を果たされた。ここで最初に公に示された父の御旨への服従は、カルバリーにおいて頂点となるのである。わたしの心にかなうが不定過去時制であるのは、「わたしの喜びはこの子である」という意味であり、御父が御子を愛の視点で見られるという永遠的な行為を示している。

神は、イエスの洗礼を通して、「ご自身が父と子と聖霊の三位一体の神であられることを啓示された。そして、これによって、我が水のパプテスマを受けるのは、三位一体の神の御名においてであることが実証されたのである。さらに、聖霊のバプテスマも、父なる神が、御子の十字架のあがないを通して我らに賜う恵みであることが暗示されている。



父の日  
週題 荒野の試み  
聖書 マタイによる福音書4・1-11  
暗唱聖句 主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ。 マタイ4・10  
目標 主イエスがみことばによってサタンに勝利されたことを示し、心の内にみことばをたくわえるように励みます。

導入

先週はペンテコステで、イエス様がヨルダン川で洗礼を受けられたところを学びました。その後どうされたでしょうか。一緒に学んでみましょう。

空腹になられたイエス様

洗礼を受けられたイエス様は聖霊に満たされて、荒野に出て行かれました。それは、悪魔の誘惑を受けられるためでした。

イエス様は、四十日四十夜、断食をされました。断食というのは、何も食べないでお祈りをする事です。四十日たつてから、イエス様は空腹を感じられました。

イエス様は神の御子だから、空腹になることはなかったのでしょうか。いいえ、イエス様は、わたしたちと同じ人間となられたのです。ですからわたしたちと同じような弱さを持っておられました。

分級 A

〈分級活動例〉

イエス様の所に悪魔がやってきました。そして、全世界のせいんぶを一本に見せて言いました。「もし、わたしを拜んだら、この地球の全てはあなたにあげましょう。」ってね。イエス様は「ワイー顔をして言われました。」

「あくまよ、あっちへ行っちゃえ。」そして「ただ神にのみ仕えよ」と聖書に書いてある」と言つて、悪魔に負けられませんでした。

悪魔はね、イエス様を信じようとしている誰のところにもやってきますよ。マリちゃんの所にだつて、ケンちゃんの所にだつてきますよ。「わたしを拜んでこらん。マリちゃんのほいもの、何だつてあげるよ。」っていわれたら、マリちゃんはどうするか。ケンちゃんが病気の時に「ケンちゃん、わたしを拜みなさい。そうしたら、そんな病気になるかすぐになおしてあげるよ。」って悪魔が言ってくるかもしれないよ。ケンちゃんはどうする？

神様はお一人だけだから、悪魔を拜むなんて、どんな悪いことするよりも悪いことですよ。イエス様にいつも守っていただいて、悪魔がやさしい顔してやってきても、こわい顔してやってきても、「あくまよ、あっちへ言っちゃえ。」って、ヒクヒクしないで言いましょう。

た。わたしたちのようにおなかもすき、のどもかわき、痛みも感じ、涙も流されたのです。罪は犯されませんでした。わたしたちと同じ弱い人間となつてくださったのです。

み言葉による勝利

イエス様が弱さを覚えられたとき、すかさず悪魔がさやいてきました。悪魔は「イエス様に、」石をパンに変えて「こらんない」と言ってきました。もちろんイエス様は、そうしようと思えばできたでしょう。しかし、悪魔の言うことに従うイエス様ではありませんでした。イエス様は、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る言葉によって生きる」と聖書に書いてある」と言われて、誘惑を退けられました。

しかし、それで引き下がる悪魔ではありません。イエス様を神殿の頂上に立たせ、「飛び降りてこらんない。聖書には御使いが支えてくれると書いてあるから」と言いました。悪魔も聖書の言葉を使うのです。しかし、イエス様は悪魔の心の内をご存じでした。「聖書には「主なる神を試みてはならない」とも書いてある」と言われ、その誘いには乗られませんでした。

こうなると悪魔は、最後の手段を使います。イエス様を高い山に連れて行き、この世の繁栄ぶりをを見せて、「おれを拜んだら、栄えているこの世を全部おまえにやろう」と、なりふりかまわずに挑みかかってきました。しかしイエス様は、厳しく叱りつけて、「サタンよ、退け。聖書には「主なる

〈おいりの時〉

きょうは一人ひとりとお祈りしましょう。幼い子たちは先生のひざの上で、子どもの手を先生の手でしっかりと握ってお祈りしてあげてください。大きい子たちは口移しに、自分の声でお祈りできるように。

〈ワーク〉

自分の一番好きなものが描いてあるカードはどれですか。それに色をぬりましょう。

〈さんび〉

「まことの神さま」の歌の本をつくってみよう。  
一、表紙に「まことの神さま」  
二、裏表紙に「みなさんはよく信じましょう」  
三、一頁〜六頁にそれぞれ適当な絵と共に書く。

- ①ただひとり ②いけるかみ
- ③つくりぬし ④きなるかみ
- ⑤すくいぬし ⑥あいのかみ

分級 B

〈キーポイント〉

サタンよ、しりぞけ！

〈導入〉

イエス様の準備はつづけられていきます。洗礼を受けられたイエス様は、今度は、おそろしい荒野でサタンの誘惑を受けるのです。でもイエス様は、みことばによつてみことばにサタンに勝たれます。神様のことを伝えようと思えば、サタンがじゃまをしてきます。このサタンとわたしたちも戦わねばなり

あなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」と書いてある」と言われました。

こうしてイエス様は、悪魔の誘惑に勝利されました。何によつて勝たれたでしょうか。み言葉によつてです。イエス様は、いつもみ言葉に従つておられましたから、いつでもみ言葉を使って悪魔に勝つことができたのです。

神様だけに仕える者に

悪魔の目的は、わたしたちが、神様だけに仕えないようにすることです。そして本当の神様ではない偶像を拜むように、神様を大切にすること、お金や遊びを大切にすること、また、教会学校に行くより、友だちと遊びにいくほうを選ぶように、わたしたちを誘惑してきます。そんな悪魔の誘惑に負けないようにしましょう。主なるわたしたちの神様だけに仕える者となりましょう。

結び

聖書のみ言葉は、神様の剣です。イエス様は、み言葉という剣によつて悪魔の誘惑に勝たれました。わたしたちも、み言葉によつて勝つことができます。毎週の暗唱聖句をしっかりと覚えて、み言葉に従っているなら、わたしたちもイエス様のようになつても悪魔に勝つことができるのです。

ませんが、自分の力ではダメ。神様のみことばの力がどうしても必要なのです。イエス様のようになつて、「みことば」をしっかりと心にたくわえましょう。

〈聖書に親しむ〉 マタイ4・1-11です。

先生がサタンのところを読みますから、みんなは、ナレーターとイエス様にわかれて読んでください。暗唱聖句にはいつものように線を引いて、しっかりと覚えましょう。

〈荒野迷路ワークに挑戦〉

スタートからはじまって、途中の石に書いてある文章を読み、もしサタンの誘惑だったら、「サタンよ、退け！」って、大声で言つて×をつけ、次に進みます。もし、まことの神様に近づける内容だったら、「アーメン」と大声で言つて、好きな色（できれば明るい色）でぬって、次に進んで、まことの神様のゴールまで行つてください。

〈きょうのおいりの時〉

神様、イエス様が、荒野でサタンにみことばによつて勝つてくださったことをありがとうございます。わたしの心にもたくさんみことばをたくわえてください。そしていつでもみことばを思い出して、サタンの誘惑に勝てる子どもになれますように。

〈今週のやくそく〉

「荒野日記」をつけてみよう。日曜日から土曜日まで、いろんな誘惑があったらそれを書きます。そして、その誘惑にどのようにして勝つことができたかも書いてみましょう。毎朝、学校に行く前には、「サタンよ、退け！」と言い、そして、きょうの暗唱聖句を言ってから出かけましょう。

## 分級C

—キ・ポイント—

## みことばによる勝利

## 〈導入〉

「あーあ、今日はひどい雨だ。こんな日に教会学校に行くなんていやだな。テレビゲームでもしていよう。ちよっとぐらい休んだってどうってことないし」「ちよっとぐらいウソをついてもだいじょうぶだよ」「これぐらいしてもいいじゃないか。だれも見ていないし」

これらはすべてわたしたちを神様から引き離そうとする悪魔の働きです。悪魔は言葉上手にわたしたちの心に働きかけて誘惑をしかけ、悪の道へと引きずりこもうとします。わたしたちはいつも心の目をさましていなければなりません。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえだけるしのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」(1ペテロ5・8)。

## 〈聖書を読もう〉

今日はマタイによる福音書4章1節〜11節です。10節の『』が今日の暗唱聖句です。しっかり線を引いて覚えましょう。

## 研究資料

## 課題 荒野の試み

我らは、日々の生活のなかで絶えず試みにあう。そして、その試練の中で苦しみ、悩み、自らの力なさを知って絶望する。しかし、我らより前に、主イエスが試みに会われた。この荒野の試みがそれであり、さらに十字架の苦難へと続いていく。主がまず我らのために試みられ、苦しまれたからこそ、試練の中にある我らを助けることができる(ヘブル2・18)。すべてのことについて我らと同じように試練に会われた主は、大祭司として、我らの弱さを思いやってくださるのである(同4・15)。

今週のテキストは、イエスの洗礼に続く記事で、章は変わっているが連続している。並行記事はマルコ1・12〜13、ルカ4・1〜13。公生涯に立ち上がる前に、イエスが通らなければならなかったのは、ヨルダン川とこの荒野であった。御霊を受け、神からの信任を得られたイエスは悪魔に試みられるために荒野に行かれた。これは、準備の三十年の卒業試験ともいべきものであった。神は何をテストしようとしたのか。

小島伊助師の『キリスト伝』によれば、イエスの神へのトラスト(信頼)である。第二のパンの

## 〈質問〉

① イエス様は何のために荒野に導かれたのですか。  
● 悪魔の試みを受けられるためです。イエス様が荒野で悪魔の誘惑にあわれることも神様の計画の一つでした。

② イエス様が断食されたのは、何日間でしたか。  
● 何と40日間もイエス様は断食をされ、空腹になられました。

③ 最初に悪魔は、イエス様が神の子ならどうしてごらんと言いましたか(3節)。

● イエス様のお腹がペコペコになられた時です。その時に悪魔は「これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」と誘惑してきました。これは肉体の弱い時に襲ってくる誘惑でした。

④ イエス様はどのように答えられましたか(4節)。

● 「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」。イエス様は、申命記8章3節のみ言葉を引用され、どのような時にも神様に信頼すべきことを語られました。

⑤ 次に悪魔は、どのような方法でイエス様を誘惑しようとしたか。それに対して、イエス様は何と答えられましたか(5〜7節)。

● 悪魔は、イエス様を聖なる都へ連れて行き、宮の頂上に立たせて、「下に飛びおりてごらんなさい」と言ってきました。そして詩篇91篇11節〜12節のみ言葉を上手に引用して働きかけてきたのです。それに対してイエス様は、「主なるあなたの神を試みてはならない」と言われました。これは申命記

試みは、神へのハーフ・トラスト(半信)。「自分の食物のごとくらい神に頼らずに自分でやれ」という誘い。第二の宮の頂上から飛び降りるという試みは、オーバー・トラスト(過信)。必要以上に信じ過ぎて神を試みるという誘い。第三の悪魔を拜むという試みは、ノー・トラスト(不信)。「世の全ての栄華を与えるから、神など信じるな」という本性むき出しの誘いである。イエスは、これらに対して、ことごとくフル・トラスト(全き信頼)で応戦された。

最初のアダムは、神への信頼を失って悪魔の誘惑に負けたため、人類に罪と死が入ったが、第二のアダムとして来られたイエスは、どこまでも御父に信頼して誘惑に勝利された。この主が我らを罪から救い、神と我らとの関係を回復するメシヤなのである。

## テキスト

1 イエスは海面下三百メートル以下のヨルダン溪谷から、淋しいユダヤの荒野の岩だらけの高地へと上って行かれた。しかも、自分の意志ではなく、御霊によってである。マルコでは「御霊がイエスを荒野に追いやった」(1・12)、ルカでは「荒野を四十日のあいだ御霊にひきまわされて」(4・2)とあるように、御霊を受けた主は、御霊のままなる存在になっておられたのである。試みられるはギリシャ語の「ペイラソー」で「試験する」、試す、実証する」という意味。御父は、御子が公生涯に入られる前にテストされることをお許しになったのである。しかし、サタンの側からすれば、

6章16節のみ言葉です。わたしたちの方からあえて神様をだめするようなことをしてはならないと語られ、誘惑を退けられました。

⑥ 悪魔の三度目の誘惑のことは、どのようなものでしたか(9節)。

● 「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拜むなら、これらのものを皆あなたにあげよう」。

⑦ それに対してイエス様はなんと答えられましたか。今日の暗唱聖句です。

● 「サタンよ、退け。主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」。

悪魔は、ほかの人よりも偉くなりたいたい、また、たくさんのおもちゃをもちたいと思う心に誘惑をしかけてきました。しかし、わたしたちが礼拝し仕えるべきお方は、ただ神様だけです。

⑧ イエス様は三回にもわたる誘惑に対して、「何々と書いてある」といすれもみことばをもって勝利されました。私たちが誘惑に勝つためにはどうしたらよいでしょうか。

● 詩篇119篇11節に「わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、心のうちにみ言葉をたくわえました」とあります。

悪魔は思いがけない時に、思いがけない方法で、わたしたちに誘惑をしかけてきます。しかし、みことばを覚えており、またいつもみことばを読んでいるなら、わたしたちは悪魔の誘惑に対して勝利することができるのです。

イエスをあわよくば堕落させようとして、試みる者としてやって来た。

2 四十日とは、試験の期間を表す。モーセもシナイ山で(出エジプト34・28)、エリヤも荒野で(列王上19・8)四十日間断食した。この四十日間において、父との祈りの交わりに没頭したために空腹を感じられなかったというイエスの神性と、我らと同じように空腹を感じる肉体を持つておられたというイエスの人性の両面を知ることができる。

3 もしあなたが神の子であるなら、「もしは、9節のそれとは異なる。ここでは仮定ではなく、神の子であるのだから」という確実な事実に基づく条文である。「これはわたしの愛する子」という天からの声がイエスにかけられたことを、サタンも知っていたのである。悪魔はイエスがメシヤであることを疑わない。だからこそ試みに来たのである。

4 人はパンだけで生きるものではなくは、申命記8・3の引用。主は神の言葉によって生きておられたのであって、自分の気まぐれな欲望によって生きておられたのではなかった。

6 神はあなたのために御使たちにお命じになるとは、詩篇91・11、12の引用。悪魔も聖書のみ言葉に精通している。

7 主なるあなたの神を試みてはならない 申命記6・16の引用。無謀な行動は、信仰の証拠ではなく憎悪の証拠である。

10 主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ 申命記6・13の引用。人間の第一にして最高の義務は、神を礼拝することである。



# 礼拝メッセージ

- 週 題 神の小羊
- 聖 書 ヨハネによる福音書1・29～34
- 暗唱聖句 見よ、世の罪を取り除く神の小羊。
- ヨハネ1・29
- 目 標 主イエスが、一人ひとりの罪を取り除く神の小羊だと信じられるように指導する。

## 導入

みなさんは羊を見たことがありますか。小羊は、ムクムクとした毛でおおわれて、とてもかわいらしいですね。でも聖書では、小羊には特別な意味があります。

## バプテスマのヨハネとイエス様

少し前に聞いた、バプテスマのヨハネのお話を覚えていますか。イエス様が伝道の働きを始める少し前に、ユダの荒野で神様のメッセーじを伝えた人ですね。彼は、「悔い改めよ、天国は近づいた」と言いながら、人々に水でバプテスマを授け、主の道を備えました。イエス様にもバプテスマを授けましたね。

ヨハネは、イエス様のことを次のように紹介しました。「救い主はわたしよりも後からおいでになるが、わたしはその方のくつのひもを解く値打ちもない。」また、「わたしは水でバプテスマを授けているが、御霊によってバプテスマを授けられる

お方だ。」

ヨハネは、自分は決して救い主ではなく、ただ救い主の道を備える者で、イエス様は自分よりもずっとすぐれたお方だと、徹底してへりくだったのです。神様は、このような心の低い人をお喜びになります。

## 神の小羊

イエス様が洗礼をお受けになって、しばらくしてから、ヨハネはイエス様が歩いておられるのを見ました。そして、自分の弟子たちに、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と言いました。神の小羊と聞いて、弟子たちの心に浮かんでくるものがありました。それは、律法に定められている、犠牲の小羊のことです。

イスラエルの人々が、罪を犯したとき、その罪を神様にゆるしていただくために、どのようなことをしたか、前に学びましたね。祭司の所に小羊を連れて行きます。祭司は、その小羊の頭に手を置いて祈り、刃物を小羊の首に刺して殺すのです。祭司は、流れ出た血を祭壇に注ぎ、小羊の体を祭壇の上で焼きます。これが、罪のあがないの儀式で、こうすることによって、その人の罪はゆるされました。

小羊は、罪を犯した人の身代わりになり、その罪を背負って殺され、神にささげられたのです。

## 私たちの罪を取り除くお方

ヨハネは、イエス様のことを、その神の小羊と

同じだと言ったのです。どういうことでしょうか。

イエス様は、罪のない神の子でした。しかしわたしたちのために、十字架にかかってくださいました。ほんとうは、罪を犯してばかりいるわたしたちが、神様からさばかれて、十字架につけられなければならないのです。ところが、わたしたちがそのようにならないように、イエス様が身代わりに十字架にかかれ、血を流してくださいました。イエス様は神にささげられた犠牲の小羊となってくださいました。

わたしたちは、もう小羊を祭司の所に連れていく必要はありません。イエス様を信じればよいのです。罪を悔い改め、イエス様の十字架がわたしたちのためだったと信じるなら、だれでも罪がゆるされ、救われます。

さらに、「罪を取り除く」とありますから、イエス様の血は、救われた後でもわたしたちに罪を犯させる古き人を取り除き、わたしたちを全くきよめます。これがイエス様のあがないなのです。

## 結び

みなさんは、もう神の小羊イエス様の救いをいただきましたか。罪をゆるしていただきましたか。一日も早く、救いの恵みをいただいでください。また、もう救われた人は、神の小羊であるイエス様によって、あらゆる汚れからきよめられている、神様のものとされ、いつも神様に喜んでいただく子どもにしてくださいませ。

# 分級 A

## △用意しておくこと△

ワークブックに印刷されている小羊カードを一枚さきにつけておく。またみんなのカードをはるために、大きな模造紙に野原の絵を描いておく。このカードは七月二十三日にも用いるので、保存しておいて下さい。

七月二十三日のために、きょうのクラスのあと、子どもたちの誕生日を書きこんでおいて下さい。教師のカードには受洗日も。

## △分級活動例△

（小羊カードを用いて）これは何でしょう。これは羊です。小さくてかわいい小羊です。でも、このかわいい小羊は、殺されて死んでしまいました。どうしてかと言うと、シヨバル君が助かるためでした。シヨバル君は、とてもわがままで、ひどいいたずらをして、神様をとても悲しませてしまったのです。もし、神様にゆるしていただけないと、地獄行きになってしまいます。でも、この小さいかわいい羊が、シヨバル君のかわりに死んで、お仕置きを受けてくれたのです。シヨバル君は死んでしまった羊に「ごめんね。ぼくのかわりに死んでくれて。ほんとうにごめんね。ぼくもうしないよ。」って心からあやまりました。マリちゃん、ケンちゃんは、わがままをしませんか。（いろいろヒントをあげて聞いてみましょう。）やっぱりいろいろありますね。でも、マリ

# 分級 B

## △キーポイント△ 見よ！

## △導入△

さて、イエス様はいよいよ、はじめの伝道をされます。今月はその頃のお話です。イエス様のどんなことが出てくるのか、楽しみですね！

## △聖書に親しむ△

ヨハネ1・29～34を一節ずつ順番に読みましょ

う。きょうの暗唱聖句には赤線を引いて覚えませう。

## △こひつじワークをしましょう△

イエス様に洗礼をさすけたバプテスマのヨハネさんが、イエス様を指さして言ったことばをーからたどります。ひつじの中の字の上に赤い十字架をかきこみつ進んでください。ゴールの十字架まできたら、赤で十字架をぬりましょう。そしてもう一度暗唱聖句を言いましょう。

## △例話△

チャールズ（スボルジョン）君の救い。一八五〇年一月六日、日曜日の朝。ロンドンから八十キロほどはなれたエセックス州コルチェスターの町はとてもひどいふぶきでした。チャールズは小さなメソジスト教会に決心したようにして入り、前の方にすわると礼拝が始まりました。十五名ばかりの人々にメッセーじが語られましたが、急にその人は、チャールズに向かって大声で、「若者よ、イエス様を仰ぎなさい、仰ぎなさい！」（イザヤ45・22）と叫びました。チャールズはその日十字架上の神の小羊を仰いで救われました。そして、イギリスの大説教者となったのです。

## △きょうのお願い△

十字架のイエス様を仰ぎ、イエス様を救い主と信じます。これからイエス様を仰ぎながら毎日すこせるようお守りください。み名によって、アメン。

## △今週のやくそく△

毎日、夜ねる前に、イエス様の十字架を仰ぎましょう。おわびしなければならぬことがあれば、おわびのお願いをして、やすみしましょう。



## 分級C

—キーポイント—  
神の小羊

## 〈導入〉

皆さんは上手に自己紹介ができますか？言葉だけで自分のことを相手に正しく理解してもらうのは、なかなか難しいものですね。では皆さんの家族や友だちを紹介するのはどうでしょうか？上手に紹介できるでしょうか。もっと難しいかもしれませんね。

さて、バプテスマのヨハネはイエス様についてとても素晴らしい紹介をしています。今日は、ヨハネがイエス様のことをどのように人々に紹介したかを学んでみましょう。そして、ヨハネが紹介したイエス様を、その通りの方として信じましょう。

## 〈聖書を読もう〉

ヨハネによる福音書1章29節〜34節を開いてください。今日の暗唱聖句は29節ですね。もう覚えましたが。

## 〈質問〉

①ここに登場するヨハネはバプテスマのヨハネのことです。彼はイエス様に何をした人ですか（31節）。

## 研究資料

## 週題 神の小羊

今週から六週間にわたってイエスの初期の伝道を学ぶ。これらはヨハネ福音書にのみ記されていることに注目したい。

イエスに関するバプテスマのヨハネの証言の中心は、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」（29節）だった。このときのヨハネの脳裏には、イザヤ書53章の受難のしもべの姿があったであろう。「彼はしえだげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切るものの前に黙っている羊のように、口を開かなかった」（イザヤ53・7）。

「ほふり場にひかれて行く小羊」とは、過越の祭りに使われる小羊である。由来は出エジプト記12章にある。神は、イスラエルの民をエジプトの奴隷の地から救い出す手段として、各家庭に一頭ずつ、傷のない雄の小羊をほふることを命じられた（出エジプト12・3、5）。人々は命じられたように小羊を火で焼いて食べ（8、9節）、その血を二本の柱とかもいに塗った（7節）。さばきを行う主の使いは、小羊の血の塗られているイスラエルの民の家の前は過越し（13節）、そうでないエジプト人の家には災いを下した。民はこうして、小羊

●ヨルダン川でイエス様に洗礼を授けた人です。バプテスマのヨハネは「主の道をまっすくにせよ」と呼びわり、イエス様のお働きの道備えをしましたね。

②その時、ヨハネは何を見たと言っていますか（32節）。

●聖霊が、はどのように天から下って来られ、イエス様の上にとどまるのを見ました。バプテスマのヨハネはその目ではっきりと目撃したので、確信をもってイエス様を紹介できたのです。

③バプテスマのヨハネはイエス様がどなただと証言していますか（34節）。

●イエス様こそ、父なる神様から遣わされた神の子であると証言しました。ヨハネは神様から救い主がどのような方か知らされていたのです。

④バプテスマのヨハネは、イエス様をどのように人々に紹介しましたか（29節）。

●「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

ヨハネは、多くの祭司やパリサイ人たちを相手にして、大胆に力強く語りました。

⑤バプテスマのヨハネはイエス様を人々に紹介するのに、「世の罪を取り除く神の小羊」と言いました。イエス様が神の小羊であるとは、どのような意味があると思いますか。

●神様が備えてくださった小羊という意味です。

この答えは少しむずかしいかも知れませんが、旧約聖書の時代は、自分が神様の前におかした罪を赦してもらうために、子牛ややぎ、小羊を神殿の祭壇の前まで引いて来て、その家畜を殺して神様

の血によって贖い出された。イスラエルの民は、これを記念して、過越の祭りを大切に守ってきたのである。

ヨハネは、イザヤの言葉と、この出エジプトの故事を思い起こしつつ、イエスを指さして「見よ、神の小羊」と言ったのである。

今週のテキストは「その翌日」（29節）ではじまる一段落だが、本章にはこの言葉が三回記されている（29、35、43節）。エルサレムから遣わされたユダヤ人たちとヨハネとの論争（19〜28節）を第一日とすると、第二日にヨハネはイエスを神の小羊と証言し（29〜34節）、第三日と第四日に、イエスは最初の弟子たちであるアンデレ、ペテロ、ピリポ、ナタナエルを選ばれた（35〜42、43〜51節）。こういう時の流れの中でのヨハネの証言である。

## テキスト

29 見よ、世の罪を取り除く神の小羊。世の罪とは、社会悪ではなく、一人ひとりの思いと行いにおける罪、汚れである。イスラエルの民が小羊の血によって奴隷の地エジプトからあがない出されたように、我々が「先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、…きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである」（1ペテロ1・18、19）。主は十字架にかかり、我らのために、罪と汚れからの全き救いを成し遂げられた。

30 わたしよりも先におられたからである。ヨハネはイエスの先在性を認めていた（1・1〜5、コロサイ1・15〜17）。

におささげし、自分の罪を赦していただいたのです。けれども、それは不完全な犠牲ですから、何度でも繰り返さなければなりません。これに対してイエス様は、「ご自分から進んで私たちの罪の赦しのために十字架におかかりになり、死んでくださいました。神の御子であられた方が、私たちの罪を背負って死んでくださったのです。そういうわけでイエス様のことを神の小羊と言うのです。この神の小羊であるイエス様は、一度ささげられたら、二度と繰り返す必要のない完全な小羊です。

⑥「世の罪」とありますが「世」とは何を指しますか。

「世」とは「世界」のことを表しています（ヨハネ3・16、4・42）。

「世の罪」とは全世界のすべての人の罪、という意味です。イエス様は私たちすべての人の罪を取り除いてくださる方なのです。ですから、大胆に「イエス様はほくの（わたしの）罪のために十字架にかかってくださった」と信じましょう。

神の小羊として来られたイエス様こそ、私たちの罪の解決者、まことの救い主です。この方を信じて従いましょう。

## 〈祈り〉

神の御子であるイエス様が、神の小羊として、私たちの罪の身代わりに十字架で死んでくださったことを感謝します。このイエス様を多くの人に紹介できるように力を与えてください。

31 ヨハネは、主の道を備えるという、自分に与えられた使命を正しく把握していた。すなわち、メシヤに会い、バプテスマをほどこし、世にこの方を紹介するのが彼の役割であった。

32 わたしは、御霊がはどのように天から下ってマタイ3・16を参照。

33 ヨハネはイエスの優越性をあかしした。すなわち、自分は水による悔い改めのバプテスマを施していたが、自分より後に来られるイエスは、汚れをきよめるための聖霊による授洗者であることを証言したのである。この二つのバプテスマは、のちに初代教会でも問題になった（使徒18・24、19・7）。エペソ教会の信徒は、はじめアポロの導きによって、ヨハネの名によるバプテスマを受けていたが、「聖霊なるものがあること」さえ聞いたことがありません（同19・2）と答えるありさまだった。しかしパウロの導きによって、イエスの名によるバプテスマを受けた。

この二つのバプテスマは、ローマ書においてパウロにより神学的に一本化されている。キリスト・イエスにあずかるバプテスマは、主の死と命にあずかるバプテスマである（ロマ6・3、4）。すなわち、過去の罪に対して死に、ゆるされて、主の命にあずかる者とされるという救いの面と、自我に対して死に、キリストの内住をいただいた、主の命によって生きるという聖めの面である。キリストの救いは二重である。この全き救いを我らに与えるために、主は「世の罪を取り除く神の小羊」となられたのである。

●週 題 最初の弟子たち

●聖 書 ヨハネによる福音書1・35～51

●暗唱聖句 わたしに従ってきなさい。

●目 標 最初の弟子たちのように、友だち

をさそって主イエスの所に行くよ  
うに導く。

## 導入

いよいよイエス様が公の伝道活動を始められる時が来ました。イエス様は、これから始まる伝道生活で、いつも弟子たちといっしょに過ごされました。そのお弟子たちとはどのように出会われたのでしょうか。

## ふたりの弟子

イエス様の最初の弟子になったのは、バプテスマのヨハネの弟子であったアンデレさんと、もうひとりのお弟子さんでした。

彼らは、バプテスマのヨハネがイエス様を見て、「見よ、神の小羊」と言うのをそばで聞いていました。また、ヨハネがその前の日にも「わたしよりもすぐれたかた」としてイエス様を紹介していたことも知っていました。

ふたりの、自分たちが尊敬するヨハネ先生がどのように紹介するイエス様ってどんな方なのだろうと思ひ、すぐにイエス様について行きました。そして、イエス様の泊まっておられるところにいっしょに泊まり、イエス様のお話をじっくりとお

聞きました。

この時から、アンデレさんたちは、イエス様の弟子となりました。このふたりは、ヨハネからイエス様について聞いただけでなく、直接、イエス様とお話をして、イエス様が確かに救い主であることを信じるようになったのです。

アンデレさんたちの心は喜びでいっぱいになりました。長い間、イスラエルのたくさんの人たちが待ち望んでいた救い主が、とうとう来られたからです。しかも、救い主イエス様にお会いして、イエス様から直接お話を聞くことができたのですからこれは何と光栄なことでしょうか。ふたりは喜んでイエス様の弟子になろうと心に決めました。

## 最初の伝道

イエス様の最初の弟子になったアンデレさんは早速、兄のシモンさん（後のペテロ）の所に行きました。そして「わたしたちはメシヤ（救い主）にいま出会った」と言って、イエス様のもとに連れて来たのです。

アンデレさんはイエス様にお会いできたことがうれしくてたまりませんでした。だれかに話さなくては、じっとしておれない思いだったので、すぐにシモンさんの所に出かけました。そして、自分の信じた通りのことを兄弟のシモンさんに伝え、さらに、イエス様のもとに連れて来たのです。

イエス様は、アンデレさんのその心を喜ばれました。そして、シモンさんがイエス様のもとに来た時に、「あなたはヨハネの子シモン（小石という意味）ですね。しかし、これから私はあなたのことをペテロ（岩という意味）と呼びますよ」とお

たちになったのです。

## △あそび△

イエス様の命令。

先生が「イエス様の命令。手をあげてください」と言った時だけ、その通りにする。「イエス様の命令」と言わなかったら、してはいけません。ほかに「手を上げて」「手をまわして」などと言う。だれがまちがわなくて最後まで残るかな？

さいごに「イエス様の命令。次の週、だれがお友だちをさそってきてください」と言うのも、いいかもしれません。

## △ワーク△

三人の弟子たちに色をぬりましょう。バプテスマのヨハネとイエス様の絵も利用して、ペープサートのように入れて使ってくださるのもいい方法かとおもいます。

## 分 級 B

〈キーポイント〉

## イエス様の弟子になろう

## △導入△

もしみんなが一人で勉強しなければいけないとすると、どうでしょうか。きつとたいへんでしょう

声をかけられました。アンデレさんが誘ってくれたおかげで、シモンさんもイエス様の弟子となったのです。

## イエス様の招き

こうして、たちまち三人になったお弟子さんたちでしたが、翌日、イエス様はピリポさんに出会って、「わたしに従ってきなさい」と言われました。すると、ピリポさんもすぐにイエス様に従って行ったのです。

このように、イエス様の招きは「弟子になったら、こんな良い事があるよ」とか「このようにしてあげるよ」なんてことは何も言われず、ただ一言の命令でした。でもだれもがイエス様に喜んでついて行きました。

ピリポさんも、その言葉に従い、その後すぐに、友人ナタナエルさんにイエス様を紹介しました。その結果、ナタナエルさんもイエス様の弟子になったのです。（彼はバルトロマイとも呼ばれています。）

イエス様の弟子となるためには、年齢、性別、学力は関係ありません。又、何の資格もいらないのです。ただ必要なのは、素直にイエス様を信じ、忠実にその命令に従うことです。そして、イエス様のことをひとりでも多くの人に伝え、イエス様の喜ばれることをしたいと願う心なのです。

## 結び

イエス様は、わたしたちにも、「わたしに従ってきなさい」と声をかけておられます。はじめの弟子たちのように、素直に従ってイエス様の弟子にしたいと思いませんか？

うね。だれか教えてくれる人がいて、はじめて勉強も良くなるようになります。イエス様は、最高の先生です。どんな人たちが、その弟子になったのでしょうか。

## △聖書に親しむ△

ヨハネ1・35～51を、ナレーター、バプテスマのヨハネ、イエス様、アンデレ、ピリポ、ナタナエルのそれぞれの役にわかれて読みましょう。暗唱聖句は短いので、すぐ覚えられますね。

## △弟子ワークです△

イエス様に従って弟子になるとは、どういうことかな。ワークに書かれていることを、一つ一つ考えてみよう。もしイエス様が「わたしに従ってきなさい」とあなたに言われたらどうする？「いやです」と言う人は、なぜかを書いてください。

## △私たちもイエス様の弟子になろう△

五人の人たちは、イエス様の最初の弟子たちになりました。そして、イエス様と一緒に生活をして、イエス様がほんとうに救い主であることを知ったのです。

あなたもイエス様の弟子になりたいと思いませんか。イエス様はあなたにも「わたしに従ってきなさい」と言っておられます。自分だけでなく、お友だちも誘って教会学校に励みましょう。そして、もっともってイエス様のことをよく知るようになりましょう。

## 分 級 A

## △分級活動例△

ケンちゃんが教会学校にきはじめたのは、お兄ちゃんがさそってくれたからだったよね。ではマリちゃんは、だれにさそわれて教会に行くようになったのかな？

だれでも、最初に教会にくるときには、だれかに教えてもらったり、連れてきてもらったりしたんだね。お父さんやお母さんにつれてきてもらったおともだちもいるね。

イエス様の所に最初にきた人は、アンデレさんとヨハネさんというふたりの人でした。このふたりは、バプテスマのヨハネさんから「イエス様こそ、本当の救い主ですよ」と言われて、イエス様のところに来たのです。

アンデレさんは、イエス様のお話を聞いているうちに、「本当にこの方は、わたしの罪をゆるしてくださいさるんだ」とわかって、うれしくなりました。そしてさっそく、お兄さんのシモンさんのところに行き、「お兄さん、いっしょにイエス様の所に行こうよ」とさそったのです。

その日から、シモンさん、アンデレさん、ヨハネさんは、イエス様といっしょに生活するようになります。この人たちがイエス様の最初の弟子



## 分級C

キーポイント

## イエス様の弟子になろう

## 〈導入〉

わたしたちは、たくさんの人たちの中で、いろいろなつながり（関係）をもって生活していますね。例えば、お父さんやお母さんとは親子のつながり、お兄さんや妹とは兄弟のつながり、学校の先生とのつながりは師弟関係、友だちとのつながりは友人関係と云います。

それでは、イエス様とわたしたちとのつながりは何と云うのでしょうか。「主」なるイエス様は、信じる私たちを「弟子」と呼んでくださるのです。「主と弟子」との関係ですね。今日はイエス様の最初の弟子になった人たちについて学びます。

## 〈聖書を読もう〉

ヨハネによる福音書1章35節～51節を開いてみましょう。少し長いところですが、どんな人が登場するのか注意深く読んでいきましょう。今日の暗唱聖句は43節です。

## 〈質問〉

①バプテスマのヨハネが、自分の弟子たちといっしょにいた時です。ヨハネはイエス様が歩いておられるのを見て、何と言いましたか（36節）。  
●「見よ、神の小羊」と言いました。先週学んだ

## 研究資料

## 週題 最初の弟子たち

イエスが荒野の誘惑に勝利され、最初のお働きを始めた一週間の第三日から第四日までにはじめての弟子となる人々がイエスと出会った。第三日はアンデレともう一人の弟子（多分ヨハネ、それにシモン・ペテロが（35～42）、第四日にはピリポとナタナエルが（43～51）、イエスの弟子となった。ところが他の福音書の記事によれば、シモン・アンデレ・ヤコブ・ヨハネの四人はガリラヤ湖畔で網を繕っている時に、「わたしについてきなさい」とイエスが声をかけられて、すべてを後にして従ったという（マタイ4:18～22、マルコ1:16～20）。またヨハネの福音書は、アンデレともう一人は、元来バプテスマのヨハネの弟子であったが、ヨハネに導かれてイエスの弟子となったと告げている。おそろく、ヨハネの福音書の報じる出来事がマタイやマルコの記事に先行しているであろう。そう考えると、彼らが舟と網を後にしてイエスに従ったのは、イエスのことを初めて聞いた時ではなく、すでにヨハネの教えも、イエスご自身の教えも聞いていた時期のことになる。弟子たちがイエスに回答するのにそれぞれの段階があり、それにふさわしい備えの機会が与えられていた。

ように、イエス様はわたしたちの罪の身代わりとして十字架にかかってくださいました。イエス様は神様にさげられた犠牲の小羊となってくださいました。イエス様がこの世にいられた目的を知っていたバプテスマのヨハネだからこそ、イエス様のことを「見よ、神の小羊」と繰り返して紹介できました。

②このふたりの弟子は、ヨハネの言葉を聞いてどうしましたか（37節）。

●ふたりはバプテスマのヨハネのお弟子さんたちでしたが、「神の小羊」とよばれるイエス様がどういう方なのかを知りたくて、すぐにイエス様について行きました。

③このふたりの弟子の名前は何か。

●アンデレさんともうひとりです。もうひとりの名前はここにはっきりと書かれてありませんが、おそろくこの福音書を書いた、ゼベダイの子とよばれるヨハネさんだと思われます。ヨハネさんが福音書を書いたのはそれからずっと後のことでしたが、イエス様に出会った時間を「午後4時ごろ」と記憶していました。ヨハネさんにとって、イエス様との最初の出会いは、感激で胸一杯になるほどの、生涯忘れられない出来事だったのでしょう。

④イエス様にお会いしたアンデレさんは、兄弟のシモンさんに何と言いましたか（41節）。

●アンデレさんも、救い主イエス様に出会えたことがうれしくてたまりません。急いで兄のシモンさんの所に行き、「わたしたちは今メシヤ（救い主）に出会いました」と興奮気味に伝えました。そして、シモンさんを早速イエス様の所に連れて来た

のです。

⑤シモンさんに目をとめられたイエス様は、その後シモンさんのことを何と呼ぶと言われましたか（42節）。

●「あなたをケバ（ペテロ）と呼ぶことにします」と言われました。「シモン」とは「小さな石」という意味です。それに対して、「ペテロ」とは硬くて大きな「岩」を指します。イエス様はシモン・ペテロさんが後になって、神様の大きな働きをする人になることをここで予告されました。こうして、シモンさんもイエス様のお弟子さんとなったのです。

⑥その翌日、イエス様はだれに出会い、何とお声をかけられましたか（43節）。

●ピリポさんです。イエス様は彼に出会うとすぐに、「わたしに従ってきなさい」と言われました。イエス様に直接声をかけられたピリポさんは、すぐにイエス様に従いました。

⑦ピリポさんは早速友人のナタナエルさんにイエス様にお会いしたことを話し、イエス様のもとに連れて行きました。こうして、ナタナエルさんもイエス様の弟子となったのです。これまでに何人の人がイエス様の弟子となりましたか。

●五人です。たった数日の間に、五人もの人がイエス様の弟子となりました。

⑧わたしたちがイエス様の弟子になるためにはどうしたらいいのでしょうか。

●「わたしに従ってきなさい」と言われるイエス様に単純に従うことです。イエス様を救い主と信じ、わたしたちもイエス様の弟子とならせていただきます。

した（29）。

37 イエスについて行つた このことは、きつぱりイエスの弟子に切り替えたことを意味する。なぜなら、ヨハネはメシヤ（キリスト）ではなく、イエスこそメシヤである事実を認めたからであり、この事はヨハネも望んでいた。

38 どこにおとまりなのですか 彼らはイエスとひざを交えて語り合い、親しく教えを受けたいと願ったのであろう。

41 シモンに出会って 「見つけて」（新改訳）。捜し出したあげく「見つけ出して」の意。

42 ケバ ギリシャ語に訳せば「ペテロ」で「岩」の意。イエスは彼のうちにある純情や熱心が、いつか彼を「岩」のような人物にすると見通しておられたのであろう。

44 おそろくピリポは、アンデレやペテロを知っていたのであろう。

46 ナタナエル ガリラヤのカナの出身（21:2）。このナタナエルはバルトロマイと同一人物と考えられている。ナザレから、なんのよいものが出ようか ナザレからメシヤを、まだだれかすぐれた預言者を期待する聖書の根拠があるうか。これはことわざのように言われていたのかも知れない。

48 いちじくの木の下の 黙想の場を意味し、祈っているのを見られたのであろう。

49 神の子、イスラエルの王 キリストの人格と職分の両方を告白したもの。

50 これよりも、もっと大きなこと イエスの生涯、その奇跡、その愛の業、その十字架の死と復活等。



## ● 週 題 カナの婚礼

● 聖 書 ヨハネによる福音書2・1～11

● 暗唱聖句 このかたが、あなたがたに言いつ

けることは、なんでもして下さい。

ヨハネ2・5

● 目 標 主イエスのみことばに従ったとき  
になされたみわざを学び、喜んで  
主に従う者となる。

## 導入

みなさんは、結婚式に出席したことがありますか。きれいに着飾った花婿さんと花嫁さんが、たくさんの人々の祝福を受けて、うれしそうにしている様子は、ほほえましいですね。今日は、イエス様が結婚式に招かれた時のお話です。

## なくなったぶどう酒

ガリラヤのカナという町で、結婚式がありました。イエス様も弟子たちも、そこに招待されました。おいしいごちそうが並び、にぎやかな披露宴が何日も続きました。ところが、大変なことが起こりました。たくさん用意してあったぶどう酒が、なくなってしまったのです。

「ぶどう酒は、お祝いの席にはなくてはならない物です。それが途中でなくなってしまうのは、お客様に対して失礼になり、招いた主人にとっても恥ずかしいことでした。どうしたらよいのでしょうか。」

「ぶどう酒がなくなったことに真っ先に気がついたのは、イエス様の母マリヤさんでした。たぶん台所のお手伝いに来ていたのでしょうか。彼女はとっさに、「そうだ、イエスなら何とかしてくれるに違いない」と思い、そつとイエス様に近寄り、「ぶどう酒がなくなってしまいました」とささやいたのです。」

## マリヤの従順

マリヤは、イエス様がすぐに立ち上がったのを見ると思っていました。ところがイエス様は、こう言われたのです。「女の人、あなたはわたしと何の関係があるのですか。わたしの時はまだきていません」。何だかとても冷たい言葉のように聞こえますね。

しかし、実はこれは、冷たい言葉ではありません。イエス様は、「わたしの時」が来なければ、みわざを行われないお方でした。自分の都合のいい時に合わせるのではなく、いつも神様の時に合わせておられたのです。

そこでマリヤさんは、しもべたちに言いました。「この方があなたがたに言われることには、何でも従ってください」。マリヤさんは、イエス様はいつも神様のみに従うお方だということを知っていました。ですから、自分もイエス様に従おうと思い、また、しもべたちにも、イエス様に従うように言ったのです。

## イエス様に従ったしもべたち

しもべたちはイエス様が何を言われるのか、じつとその言葉を待っていました。するとイエス様は、水がめを水をぶちまけたいいに入れた、料理がしらのところに持って行くように言われたのです。八十リットルから百二十リットルも入る石の水がめが六つも置いてあり、しかも水をぶちギリギリまで入れて、料理がしらのところに持って行く……。これは実に大変な労働でした。しかし、しもべたちの中に誰一人不平や文句を言う人はいませんでした。彼らはただイエス様の言われる通りにしたのです。

するとどうでしょう。持ってきた水は、全部上等のぶどう酒に変わっていたのです。宴会の料理がしらは、そんな上等のぶどう酒がどこからきたのか知りませんでした。知っていたのは、イエス様のみ言葉に従い、苦勞して運んだしもべたちだけでした。

## 結び

イエス様のみ言葉に従うとき、神様のすばらしさが現れます。そのみ言葉が、その時はよく理解できなくても、ただ従っていけば、神様はすばらしいことをしてくださり、なぜあの時きき言われたのか、わけも分かります。

いつも主のみ言葉に従いましょう。さからったり、疑ったりしないで、そのまま素直に信じて従いましょう。そして、神様のすばらしい栄光を見せていただきますように。

## 分 級 A

## 〈分級活動例〉

先週はイエス様の弟子たちのお話を聞いたね。きょうは、ケンちゃんもマリちゃんもお友だちを連れてきたので、人数が増えました。ワークブックの数が足りるかな？

イエス様が結婚式に招かれたとき、同じようなことがおこりました。多分お弟子さんたちも一緒だったでしょうね。結婚式の「ごちそうや、ぶどう酒が足らなくなったのです。」

お母さんのマリヤさんは心配して、イエス様に相談しました。そこでイエス様は、台所にいた男の人たちに、「あそこに置いてある六つの水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われたのです。

たいへんな仕事でしたが、みんな一生懸命、そうしました。するとイエス様は「それをくんで、料理長のところに持っていきなさい」と言われます。「ぶどう酒が必要なのに、なぜ水を？」と思っただけかもしれませんが、言われた通りにしたのです。すると、料理長はびっくり。「こんなおいしいぶどう酒ははじめてだ」と叫びました。

イエス様の言われるようにするとき、びっくりするようなことがおこります。みんなの中で、お祈りしたら、こうなったということ、ありませんか。ぜひ聞かせてください。

## 分 級 B

## 〈キー・ポイント〉

## 「はい」と従う

## 〈導入〉

みんな、お父さんやお母さん、また学校の先生の言われることに「はい」って返事をしていますか。「いやだよ」「そんなの、したくない」ということが多いではありませんか。きょうは、イエス様のことは「はい」と従ったときに、どんなすばらしいことがおこったかを学びます。

## 〈聖書に親しむ〉

ヨハネ2・1～11を、ナレーター、イエス様、マリヤ、料理がしらとわけて読んでみましょう。暗唱聖句には線をひいて、覚えましょう。

## 〈しもべワークをやってみよう〉

イエス様はなんでもできるのに、「ぶどう酒のいっぱいはいったかめを出さなかったのは、なぜでしょう。か。イエス様があなたに「これをしなさい」と言われていることがありますか。

## 〈従うことが一番大切〉

聖書に書いてあることの中には、今のわたしたちが読んだら「おとぎ話」のように思われる物語もあります。でも、イエス様は神の子だからこそ、それらを行なうことができたのです。

きょうの学びで一番大切なのは、何の役にも立たないと思われることであっても、しもべたちがそれに素直にしたがったことです。

たとえば、お友だちの中には、「教会学校に行ったら、何の役にも立たないじゃない」と言う人がいるかもしれません。でも、イエス様は「まず神の国と神の義とを求めなさい」(マタイ6・33)と言われました。それに従うなら、きつとすばらしい結果になります。黒人奴隷を解放したリンカーン大統領、貧しい人たちに仕えたマザー・テレサ、五千円札に載っている新戸渡稲造などはみんな、イエス様に従った人々です。

## 分級C

—キ・ポイント—

お言葉に従うところに勝利！

〈導入〉

結婚式と聞けば、どのようなイメージを思い浮かべますか。華やかな雰囲気、まっ白なウェディングドレス、テーブルいっぱいに並べられたごちそう……。結婚式に集まっている人たちを見ていると、みんなとても嬉しそうでニコニコしていますね。だれもが喜びいっぱいの結婚式です。

その日、イエス様と弟子たちも結婚式に招かれておられました。

〈聖書を読もう〉

先週はヨハネによる福音書1章を学びましたね。今日は2章1節～11節を開いてみましょう。5節が今日の暗唱聖句です。線を引いてしっかり覚えましょう。

〈質問〉

①結婚式が行われた場所はどこですか。  
●ガリラヤのカナです。  
②喜びいっぱいの結婚式の最中に、台所では思いもよらないハプニングが起こりました。どんなことが起こったのですか。

●ぶどう酒がなくなっていました。ぶどう酒は当時の結婚式にはなくてはならない、とても大切なものでした。「ぶどう酒のないところには、喜

びはない」と言われていたほどです。その肝心なぶどう酒がなくなったのですから一大事です。

③イエス様の母マリヤさんは、ぶどう酒がなくなったことをイエス様に告げました。なぜでしょう。

●マリヤさんは、目の前に起きた出来事を、包み隠さずありのままイエス様に申し上げました。母親として息子に頼る気持ちもあったでしょう。また、息子のイエスなら必ずこの問題を解決してくれるだろうと信頼していたからかもしれません。

それに対してイエス様は、「わたしの時はまだ来ていません」とおっしゃいました。このイエス様の言葉は「心配しないでください。あなたはどんな成り行きかよくわかりにならないのです。この事態を私にまかせてください。そうすれば、私のやり方でそれを解決しましょう」という意味なのです。

④5節のマリヤさんの言葉から、マリヤさんにはどんな確信があったと思いますか。

●マリヤさんには、「イエス様はこの事態を必ず解決してくださる。イエス様の言われるとおりにすれば道は開かれる」という、信仰による確信がありました。

⑤イエス様はしもべたちに何を命じられましたか。  
●「かめに水をいっばいに入れなさい」と言われました。  
⑥しもべたちは、イエス様の命令に対してどうしましたか(7節)。

●だれひとりの文句も言わずにすぐに従いました。一斗は18リットルですから、少くとも72リットルも入るかめが六つもありました。しかも、ふちのと

ころまでいっばい水をを入れるのは大変な作業です。しかし、彼らはイエス様の言われるとおりにしたのです。

⑦しもべたちがイエス様の言われた通りにした結果、何が起こりましたか。

●しもべたちは、イエス様の言葉に従ってかめの水をくみ、料理がしらのところに持って行きました。するとどうでしょう。くんだはずの水がぶどう酒、しかも最高級のぶどう酒に変わっていたのです。

イエス様は結婚式で一番最初のしるし(奇跡)を行い、神の子としての栄光を現されました。この事を通して、弟子たちは、イエス様が力と権威に満ちた救い主であることを知ることができたのです。今日わたしたちは、イエス様が奇跡を行われ、すばらしい栄光が現された事を学びました。結婚式がこのように祝福された背景に、マリヤさんがイエス様を信じきっていた事、そしてしもべたちがイエス様のお言葉に忠実に従った事があったことを心にとめましょう。

しもべたちは、ただイエス様の言われるとおりに従いました。どんな事であってもイエス様のおっしゃるとおりに従うとき、そこに神様の栄光が現されるのです。

「もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行なうならば、あなたの神、主はあなたを他のものもろもの国民の上に立たせられるであらう」(申命記28・1)。

イエス様のお言葉に従うところに勝利と祝福がある事を覚えて、いつもお従いしましょう。

## 研究資料

週題 カナの婚礼

四福音書を通じての最初の奇跡である。「神の子が世に降りたまいました」と最初に栄光をあらわしたまいますかならば、神の宮殿ではなく、かえって家庭の裡でありました。なぜならば、家庭は神の真正の宮殿であるからであります(バックストン『ヨハネ伝講義』三九ページ)。主は最初のしるしを、衆目を集めて都の中心で行われたのではなく、ガリラヤの片田舎の、無名の村人の婚礼の席で、しかもひそかに行われたのである。

ユダヤ人の婚礼は、長時間を要する祝典であり、そのためにまるまる一週間が費やされ、時として二週間に及ぶこともあった。花むこは花嫁と共に行列をつくり、彼の家まで彼女を連れて来て、ゲーム、ダンス、歌と続き、宴会は盛大になり、多くのぶどう酒が飲まれた。

その祝宴に不可欠なぶどう酒が切れたということとは、接待する側には重大事件であり、招いた客に失礼なことであった。しかし、これがイエスにとって第一のしるしを行う好機となったのである。人間の危機は、神が働かれる時である。

## テキスト

1 三日目に エルサレムからパリサイ人たちがバプテスマのヨハネのもとに遣わされて後(1・19)、「その翌日」が三度あり(1・29、35、43)、さらにその三日目であるから、最初から数えて一週間後である。イエスは、バプテスマをお受けになって後一週間、ユダヤに留まっておられた。

3 ぶどう酒が底を突いたことをだれよりも早く察知したのは、主の母マリヤだった。いかにも女性らしい細やかな心配りである。そしてこれは、何とかしてほしいという、わが子イエスへの訴えであった。

4 婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますかは、一見冷淡な言葉と受け取られる。しかしこれは、常に神の時に従われた主の従順を表す言葉であった。主がみわざを行われるのは、母に従ったことではなく、神の時、神のみことろに従ったことであった。しかし最初のしるしであるから、主は母に言うておく必要があった。ここにイエスの従順がある。

5 要求を拒まれたように思ったマリヤだが、イエスに対する彼女の信頼は変わらなず、「このかたが、あなたがたに言いつけることは、なんでもして下さい」と言った。彼女はイエスを、わが子という私情を越え、「無から有を呼び出される」(ロマ4・17)全能の父なる神のひとり子として見ていた。これはマリヤの従順であった。彼女の生涯は従順を学ぶ歩みであった。彼女は最初から「わたしは主のはしのためです」(ルカ1・38)と、神のみこと

ろに従っていた。みこころに従うとは、シメオンから「あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう」(同2・35)と予告されたように、苦難の生涯である。その絶頂は、わが子が十字架につけられるカルバリ丘であった。しかし彼女は、信仰によってわが子をささげ、神の子として従い通したのである。

6 みわざに用いられた水は、ユダヤ人のきよめのならわしに従って、食事の前に念入りに手を洗ったり、市場から帰ったとき身をきよめたりする(マルコ7・3、4)ために用意されたものであった。四、五斗 原語は二、三メートル(八〇、一二〇リットル)であるから、四八〇〜七二〇リットルにも及ぶ大量の水であった。

7 彼らは口のところまでいっばい入れた。僕たちは、疑いもせず、またつぶやきもせず、何の益もないと思われるような重労働にたずさわった。9 しかし、その報いとして、水をくんだ僕たちは、ただの水が極上のぶどう酒に変わったことを知る特権にあずかった。従順な魂に与えられる報酬である。このように、今週のテキストには、主イエスの従順、マリヤの従順、僕たちの従順が描かれている。従順な魂に、神の栄光が現される。

11 最初のしるし 本書にはイエスによる七つのしるしが記録されている。①カナの婚礼(2章)。②役人の子のいやし(4章)。③ベテスタの回廊でのいやし(5章)。④パンの奇跡(6章)。⑤湖上の奇跡(同)。⑥生来の盲人のいやし(9章)。⑦ラザロの復活(11章)。



● 週 題 宮きよめ  
● 聖 書 ヨハネによる福音書2・13〜22  
● 暗唱聖句 わが家は祈りの家であるべきだ。  
ルカ19・46  
● 目 標 教会は祈りの家であることを自覚し、祈り心をもって教会での活動をすべきことを教える。

導入

わたしたちは、毎週教会学校に来て、神様に礼拝をささげ、一生けん命に聖書のお話を聞いていますね。神様がどれほど喜んでおられることでしょうか。教会に来ることはとても素晴らしいことです。

お怒りになるイエス様

イエス様という、だれでも、もの静かでやさしいお姿を想像しますね。しかし、時には激しくお怒りになることもあったのです。

過越の祭りが近づいてきたころ、イエス様は、エルサレムの神殿に入られました。神殿では、人々が商売をしていました。礼拝でささげるための牛、羊、はとを売る人、また献金をするために必要なお金に両替する人などが、神殿の中に座っていました。動物の鳴き声や、商売人たちが客を呼

ぶ声などが飛びかっ、大変にぎやかです。

この様子をご覧になったイエス様は、とてもお怒りになりました。縄でむちを作って、牛や羊を追ひ出され、両替人たちのお金をまき散らされ、また台をひっくり返されるという、それは大変なお怒りようでした。人々は、これはいったい何事かと、ぼう然となりました。イエス様は大声で叫ばれました。「商売道具を持ってここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな！」

弟子たちも、びっくりしました。そして、旧約聖書に書いてある、「あなたの家を思う熱心が、わたしを食いつくすであろう」という言葉思い出して、あれはイエス様のこういうお姿のことを言っているのだろうかと思いました。

三日のうちに建てる

イエス様のこのふるまいを、祭司や律法学者たちが黙って見ているはずがありません。「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか」と詰め寄りました。

するとイエス様は、「この神殿を壊してみなさい。わたしは三日で建て直してみせます」と言われました。彼らはこの言葉に驚きました。この神殿を建てるのに四十六年もかかっているのに、それをたったの三日で建て直すとは…

イエス様は、「自分が十字架にかかり、三日目によみがえらるる事を言われたのです。ところがユダヤの人たちの心は不信仰で一杯でしたから、イエス様の言われる事を理解することができません

んでした。

教会とわたしたち

神殿とは、わたしたちの教会のことです。教会は、神様があられる、とてもきよい所です。

イエス様は「わたしの父の家」と言われました。そのようにきよい神様があられる所が教会です。ですから教会のなかで走りまわったりするのはやめましょう。また、教会の物も大切に扱いましょう。

②神様を礼拝する所です。

わたしたちが毎週教会学校に来るのは、先生やお友だちと会うことよりも、まず神様を礼拝するためです。一週間様々なことの中にも守られた事を感謝し、心からの感謝をもって神様を礼拝するのです。神様はわたしたちのささげる礼拝をどれほど喜んで受け入れてくださるでしょうか。礼拝はわたしたちに与えられている、最も素晴らしい恵みです。

③神様に祈る所です

イエス様は、「わが家は祈りの家であるべきだ」と言われました。わたしたちが祈るとき、神様はわたしたちの祈りを聞いてくださいます。もちろん、お祈りは教会に行かなくてもできます。でも教会に来て、先生やお友だちと心を合わせてお祈りできる事は、なんと素晴らしいでしょう。

結び

イエス様が教会を心から愛しておられるようにわたしたちも教会を愛し、なお続いて心からの礼拝とお祈りをささげましょう。

分級 A

〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん。教会へ行くときって、お友だちの家へいくときとちがう気持ちがある？ 教会ではどんなことをするのか？ そっだね、教会にいったらうたをうたったり、お祈りをしたり、聖書のお話を聞いたりするんだね。それを「礼拝」というのよ。神様のことを考えるときなのね。

ある日、イエス様が神殿といって神様にお祈りをするところへいかれました。すると、たくさんの方の大声がするし、動物たちのなき声がきこえてとてもさわがしいのです。中に入ってみると、そこでお店屋さんをひらいていたのです。少しでもたくさんお金をもうけようと思って、大声でさっけんで売っていました。それを「ごらんになったイエス様は大変おこって、売っているものをみんなひっくりかえしてしまいました。みんなびっくり。それはそれは大さわぎになりました。

みんなどっちが正しいと思う？ 神様にお祈りをするところでお店屋さんをしてお金もつけしている人かな？ それとも、それをおこったイエス様かな？

そうよね。イエス様はみんなにいました。

分級 B

〈キーポイント〉  
かみさま！

〈導入〉

七日のうちいちにち あそぶことも忘れて神様の家に来て 聖書ならうたのしよ。  
(おりかえし)

イエス様もこの世で お守りなされたこの日をわたしも 守りましょう。

(聖歌四五九のメロディーで) この「開校の歌」を知っていますか？

「さあ、ここから出ていきなさい。ここは商売をするところとちがいます。ここは静かに祈りをするところですよ。みんなはスゴスゴと出ていきなさい。」

教会は神様を礼拝してお祈りをするところなのね。

〈ワーク〉

いろいろな形の教会がありますね。でも、どの教会でもみんな祈りをしています。お祈りしている自分を、好きな教会の中はいつけてみましょう。教会にもきれいに色をぬってください。

〈聖書に親しむ〉

ヨハネ2・13〜22を一節ずつ順番に読みましょう。暗唱聖句のルカ19・46も聞いて、線を引いて覚えよう。

〈神の家ワークをやってみよう〉

神の家(教会)はきよい所。それに必要でないものには×をします。ふさわしいもののわくの中を好きな色でぬってみましょう。そして、ぬったわくの外側をずっと赤線で囲むと、何ができますか？ (十字架)

おわりにみんなで「七日のうちいちにち」を歌いましょう。

〈きよいのいのり〉

神様、教会は神様のきよい家です。そこでまごころから、神様を礼拝し、さんびし、「かみさま」とお祈りができるようにしてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。



## 分級C

――キ・ポイント――

### 教会はきよい神の宮

#### ＜導入＞

大介君はとても元気のいい男の子です。賛美歌を歌う時も、お祈りをする時も、み言葉を読む時いつも大声でみんなを引っ張ります。

ある日曜日のことです。教会学校の礼拝が終わって分級までの間、礼拝堂で友だちと鬼ごっこをして走り回っていました。すると教会学校の先生が「大介君、ここは教会だよ。神様を礼拝するきよい所で、そんな風にして遊んではいけませんよ」と注意をしました。大介君はすぐに「教会は遊ぶ所じゃないんだな」とわかりました。

#### ＜聖書を読もう＞

ヨハネによる福音書2章13節～22節を開きましよう。今日の暗唱聖句はルカによる福音書19・46です。いつものように質問に答えましょう。

#### ＜質問＞

①イエス様がエルサレムに上られたのはいつですか。  
●過越の祭りが近づいてきた時です。過越の祭りはイスラエルの三大祭りの一つです。イスラエルの人々がエジプトから救い出されるとき、人々は家の入口の二本の柱に小羊の血を塗りました。神様はその血をこらんに塗って、さばきを過ぎ越されました。それ以来、記念として行われていた大切な祭りでした。この時、都エルサレムには各地

## 研究資料

### 過越 宮きよめ

宮きよめは、そもそもユダヤ教の祭りであった(10・22)。紀元前一六五年、マカベア家のユダによって定められた年ごとの祭りで、前一六八年に、アンティオコス・エピファネスの命令により、ギリシャの偶像礼拝の導入によって汚された神殿の再聖別を祝うために、キスレフの月(十二月)の二十五日から八日間わたって祝われた(日本基督教団出版局『聖書辞典』参照)。しかし、いつしか祭りの意義が忘れられ、人々は私利私欲のために神殿を利用し、祭司たちも自分たちに見返りがあるために不正を容認するという風潮がはびこっていた。

イエスは、過越の祭りを守るために都へ上り来られたが、神殿の汚されている様子に立腹され、真の意味での宮きよめを行われたのである。

イエスの公生涯は、荒野の試み以後にすでに始まっていたが、実際のかつ公にわざをなさったのはこの宮きよめが最初である。共観福音書はこのできごとを主のご生涯の終わりのころのこととして記しており(マタイ21・12～16、マルコ11・15～18、ルカ19・45～46)、主を十字架に追いやる敵対行為を起こした原因の一つとみなしている。しか

からたくさんの人たちが集まってきました。  
②イエス様が来られたとき、神殿はどのような様子でしたか(14節)。  
●牛や羊、はとを売る者や両替をする者などが、神殿の庭にどっかりとすわり込んで商売をしていました。

③その姿をこらんにあったイエス様はどうされましたか(15節)。

●なわでむちを作り、羊も牛もみな神殿から追い出し、商売人のお金を散らし、その台をひっくりかえされました。

周りにいた人たちがびくつきするほどイエス様は怒りを表され、ものすごく激しい態度をもってそのようになされたのです。

④16節からイエス様は、何に對してお怒りになられたことがわかりますか。

●イエス様は「これらのものを持って、ここから出て行け。わたしの父の家を商売の家とするな」と言われました。

イエス様は神殿のことを「わたしの父の家」とおっしゃいました。神殿は父なる神様を礼拝するきよい所です。ところが神殿にすわり込んでいた人々は、自分の欲のために商売をしていました。中にはお金だけをだましてとったりする商売人もいました。

神様を礼拝する神殿が、いつしか商売人たちの欲のかたまりとなってしまうのです。イエス様はそのことに対してお怒りになられました。

⑤弟子たちは旧約聖書の中のどんな言葉を思い出しましたか(17節)。

●弟子たちは詩篇のなかに「あなたの家と思う熱

し本書はこれできごとを公生涯の初期に属するものとして描いている。学者によって諸説があるが、イエスは公生涯の中で二度宮きよめを行われたと解釈するのが妥当である。

### テキスト

13 ユダヤ人の過越の祭(り)が近づいた。主の公生涯中、過越の祭りが四度あった。2・13、5・1・6・4、11・55である。最後の過越の祭りは、主が十字架につけられた時であった。このことから、公生涯は三年余りであったことがわかる。

14 牛、羊、はとを売る者や両替する者。礼拝に不可欠な犠牲を携えてくることできない遠方からの礼拝者のために、いけにえにするための動物が、神殿内で法外な値で売られていた。しかも神殿貨幣で支払うことが求められたため、高額な手数料を取る両替人が私腹を肥やしていた。さらに祭司たちも、彼らに場所を提供しているというところで、もうけの一部を彼らから受け取り、その商売を黙認していた。こうして、礼拝は費用をかけなければできないものとなってしまった。このような形骸化した礼拝と、長い間温存されていた腐敗の構造に對して、イエスは敢然と立ち上がったのである。

16 わたしの父の家を商売の家とするな。共観福音書では、イザヤ56・7から引用して、「わたしの家は、祈の家となえられるべきである」とある。祈の家を強盗の巢にしたと主は厳しく非難されたのだ。主はすでに十二才のとき、両親に「わたし

心が、わたしを食いつくすであろう」と書かれていますことを思い出しました(69・9)。  
⑥イエス様は「この神殿をこわしたら、わたしは三日のうちに、それを起すであろう」と言われました(19節)。この言葉は何を意味しているのでしょうか。

●イエス様はご自分が十字架にかかれ、三日目によみがえられることを言われました。

⑦今日学んだ、イエス様の宮きよめを通して、教会はどのような所と考えられますか。

(1)教会は神様を礼拝するきよい所です。

いつも神様を礼拝するのにふさわしい所としておく事が大切です。もし礼拝堂の中に散らかっている所があればどうでしょう。建物の外側はどうですか。気づいたところがあれば、すすんできれいにしましょう。

教会はきよい所ですから、大声を出して走りまわったり、悪ふざけをしたりするのはふさわしくありません。けん力をするなんてもってのほかです。

(2)神様はわたしたち一人ひとりをも神の宮としてくださっています(1コリント3・16、17)。

イエス様の救いにあずかったわたしたちは神の宮なのです。ですから、心も体もきよく保つように心がけたいですね。きよい神様が住んで下さる宮として頂いている事を感謝し、神の宮にふさわしく生活しましょう。

(3)神様に祈る所です。

暗唱聖句にあるように、教会ではいつも神様に祈る心ですこししましょう。神様はそれを一番喜んでくださいます。

が自分の父の家にいるはずのことを」と言われた(ルカ2・49)。神殿は主にとって父なる神の家であり、神聖な祈りの家であった。それを人々が欲望を満たすために土足で踏みじったため、あなたの家と思う熱心が、わたしを食いつくすであろうこの聖句(詩篇69・9)を弟子たちが思い出すほどに、主は激しく怒られたのである。

18 これまで暗黙の了解のうちに許されてきた神殿での行為がイエスによって否定されたので、ユダヤ人たちは、何の権威によってこんなことをするのかとイエスに問いたのだ。

19 この神殿をこわしたら イエスは、ご自分がやがて十字架につけられ、三日目によみがえられることを、早くもこのことばで予告された。もちろんユダヤ人たちは理解できなかったろう。建築に四十六年もかけた目に見える神殿を誇り、しかも、その神殿内で私利私欲をむさぼってはばからないという霊的麻痺状態の彼らに、主の深遠な予告が理解できるはずもなかった。それどころか、彼らはイエスに死刑判決を下すために、この主の言葉を証拠として突きつけるありさまだった(マタイ26・61)。

イエスが、宮きよめとご自身の十字架・復活とを結びつけた意味は深い。宮きよめは我らの魂のきよめを表す。我らの古き人はキリストと共に十字架につけられて破壊され、内に復活の主がお住みになり、我らは新しき人として建設される。主の上になされた破壊と建設のみわざは、信じる我らの内にもなされるのである。

● 週 題 ニコデモ

● 聖 書 ヨハネによる福音書3・1～15

● 暗唱聖句 だれでも新しく生(ま)れなければ、神の国を見ることはできない。

ヨハネ3・3

● 目 標 ニコデモの例を通して、神の国に入るためには新しく生まれることが必要であることを教える。

導入

みなさんは自分の誕生日を知っていますか？自分の誕生日がいつか知らない人がいても、誕生日のない人はいませんね。みんなそれぞれ生まれた日があります。ところがイエス様を信じる人は、みんな誕生日が二つあるのです。二つ目の誕生日とはどういうことでしょうか。

ニコデモの訪問

「トントンスみません。ちょっとお話があるのですが。」ある晩のことです。イエス様のところに一人のお客さんが来ました。その人はニコデモさんという人で、聖書にたいへん詳しく、神様の教えを熱心に守るパリサイ人の一人です。しかもユダヤ人の間でも実に評判のいい、立派な先生でした。そのようなニコデモさんがある夜、こっそりとイエス様のところに來たのです。

分 級 A

〈分級活動例〉

ある日、真っ白いおひげのニコデモさんがイエス様のところへきました。このニコデモさんは、聖書をよく読んで、なんでもよく知っている先生でした。ところが一つだけわからないことがありました。それで、だれにもわからないようにそーっと、夜、くらくなってからイエス様のところへきたのです。

イエス様はまだ聞いてないのにニコデモさんの心の中をよくごそじでした。そこでイエス様はニコデモさんにいわれました。「ニコデモよ、あなたは聖書の約束をよく守っていますね。でも、約束を守るだけでは天国に入ることはできないのですよ、生まれかわらなければいけません。」エッ！生まれかわるですって。わたしはこんなにおじいさんになっていきますのに、もういちどお母さんのおなかに入って生まれるのですか。「いいえ、生まれかわるというのは、からだのことではなく、心が生まれ変わることです。」

さあ、ここがうまれかわるってどんなことだろう。それはね、イエス様を信じて、イエス様に心に住んでいただくことなのよ。そうすると神様の子どもになって天国に入ることができるのよ。ニコデモさんは、その時にはよくわからなかつ

いましたがイエス様は神様のもとから來られた本當の教師だと信じていました。イエス様からいろいろな事を教えてもらいたい、ニコデモさんは願っていました。そこでついに、仲間たちにわからないうちに、夜を選んでイエス様に会いに來たのです。

新しく生まれなければ

そのニコデモさんに対してイエス様は、「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」とおっしゃいました。ニコデモさんは、イエス様の言われた事がどういう事かまったく分かりません。ニコデモさんは頭の中で考えました。新しく生まれるって、もう一度お母さんのおなかの中に入ることだろうか。でもそんな事はできるはずないし……。

ニコデモさんは、新しく生まれるとはどういうことか、イエス様に尋ねました。イエス様は、何が新しく生まれなければならないと言われたのでしょうか。それは、心です。

わたしたちの心は、生まれつきのままでは、罪に満ちています。お父さんやお母さんに逆らう、友だちを憎む、悪口を言う、いじめる……というような、神様に喜ばれない悪いことばっかりです。そのままでは、わたしたちは、神の国に入ることろか、滅んでしまいます。

しかし、そんなわたしたちのために、イエス様は十字架にかかって死んでくださいました。わたしたちが自分の罪を悔い改め、「イエス様の十字架はわたしたちのためだ」と信じるなら、どんな罪でも

たけど、あとになってイエス様のいわれたことがよくわかりました。そして、イエス様を信じて心がうまれかわりましたよ。

(六月二十五日に作った小羊カードを見せて)

ちよつと先生のカードを見てください。みんなとちがいますね。どこがちがう？ そうです。おたんじょう日が二つかいてありますね。そう、先生はおたんじょう日が二つあるんですよ。先生はどうして二つのおたんじょう日ができたか教えてあげましょうか。

先生はね、イエス様を信じて、洗礼というのを受けたからなのです。教会学校の先生たちは、みんなおたんじょう日を二つもっているんですよ。それは体と心のおたんじょう日です。みんなの持っているのは、体のおたんじょう日です。早くみんなも二つもつことができるように、お祈りしましょう。

〈ワーク〉

どちらが新しく生まれかわったニコデモさんでしょうか。生まれかわったニコデモさんに色をぬりましょう。

分 級 B

〈キーポイント〉

新しく生まれる

〈導入〉

きょうも「神の家」にきて、みんなで礼拝ができ

ゆるされ、新しい神の子としての命がいただけるのです。イエス様は「だれでも」と言われました。イエス様を信じる信仰によって、新しく生まれることが、すべての人に必要なのです。

信仰による救い

昔、イスラエルの人々がエジプトの国を出て荒野を旅していた時、指導者のモーセさんに向かってつぶやき始めました。フツフツ文句を言うイスラエルの人たちに対して、神様は火のへびを送られました。そのへびが人々をかんだので、多くの人が死んでしまいました。そのため、モーセさんが神様にとりなしの祈りをささげたところ、神様は青銅でへびを造って、それをさおの上に掛けるように言われたのです。モーセさんはそのようにしました。そして神様は、「それを見るならば生きるであろう」と言われました。イスラエルの人たちが信じてへびを見上げた時に生きることができたように、イエス様の十字架はわたしたちのためと信じるなら、わたしたちは新しく生まれた者となり、神様の国に入ることができるのです。これは信仰によっていただく恵みです。

結び

みなさんはイエス様を信じて、新しく生まれましたか。罪をゆるしていただいて、永遠の命をいただいた確信がありますか。この第二の誕生日を与えられて、一人残らず神様の御国に入っていた

て感謝でしたね。きょうは聖書の中にしか出てこない、とっても大切な大事なすばらしいことを聞きました。「新しく生まれ変わる」ということでした。ニコデモさんのチンパンカンパンのようすがおもしろいですね。わたしたちはどうか？ あなたの心は新しく、生まれ変わっていますか？

〈聖書に親しむ〉

少し長いですが、ヨハネ3・1～15を、ナレーター、イエス様、ニコデモとわけて読みましょう。暗唱聖句は、おわりにもう一度みんなで読み、線を引いて、覚えましょう。

〈神の国ワークです〉

①点線のハートを黒でたどります。その心は、どんな心が言ってみましょう。  
②点線のわくの中に赤で十字架を書きこみます。そして、「イエス様の十字架を信じて」と言ってみましょう。

③かがやくハートを黄色でぬります。その心はどんな心か、書き入れてみましょう。

どんな年令の人でも、みんな、みんな、ただイエス様の十字架を信じて、はじめて罪ゆるされ、心が新しくよく生まれかわって、神の国に入れる心にしてもらえます。そして、天でも大きな喜びがあって、神様からもみんなからも「おめでとう」と言ってもらえます。二つめの誕生日です。

〈きょうのおいのり〉

神様、わたしの罪をおゆるしくください。イエス様の十字架でゆるしをいただいて、生まれかわった新しい神の国の心をください。



## 分級C

――キーポイント――

## 新しく生まれ変わる

## ＜導入＞

それを持つていなければ、日本を離れることも他の国に入ることもできない物があります。それは何か知っていますか。パスポートです。外国へ行くにはまずパスポートを手にしなければなりません。それは、わたしたちが日本の国民であることの証明書だからです。

それでは、神様の国に入るのには、何が必要になると思いますか。イエス様は、この事がなければ神の国に入るところか、神の国を見ることができないと言われました。

それはどういう事でしょうか。いっしょに学んでみましょう。

## ＜聖書を読もう＞

ヨハネによる福音書3章1節～15節を開いてみましょう。3節が今日の暗唱聖句です。線を引いて覚えましょう。

## ＜質問＞

①ある夜、こっそりとイエス様のもとにやって来た人はだれですか。

●ニコデモさんです。

②今日の箇所から、ニコデモさんはどのような人だとわかりますか（1、4、10節）。

## 研究資料

## 週題 ニコデモ

ニコデモは、十二弟子以外では、公生涯に入らなかったイエスと個人的に出会った最初の人物である。彼は、パリサイ人の一人で、ユダヤ人の指導者（1節）とあるから、エルサレムの最高議会サンヘドリンの一員だった。彼は老練であり、また高度な知識を持つイスラエルの教師（10節）でもあった。このような、地位も役職もそろっており、経験も豊かで、何不足ないと思われるニコデモが、イエスのもとに来たのである。

彼のイエスとの会見は、サンヘドリンを代表してではなく、プライベートなものであった。従者も連れずにたった一人で、しかも、夜を選んでイエスのもとに来た。それは、同労者たちの目を忍んでの行動だからであろう。このころのサンヘドリンは、まだイエスに対する態度を明らかにしていなかったにせよ、宮きよめのことば祭司たちから聞いており、自分たちが宮々と築き上げてきた伝統や、暗黙の了解で認めてきた習慣が、イエスによって破壊されようとしているという危機感をいだき始めていたはずである。彼らの中には、イエスを敵視する者も現れていたと思われる。彼がひそかにイエスのもとに来たのには、そういう理由であった。

●パリサイ人、ユダヤ人の指導者、年をとった人、イスラエルの教師であったことが分かります。

③ニコデモさんがイエス様のもとに来たのはなぜでしょう。

●ニコデモさんは、聖書について十分な知識をもっている人でしたが、たましいの深い問題について、イエス様からいろいろと教えてもらいたかったのだでしょう。

ニコデモさんはパリサイ派に属している人でした。パリサイ人と呼ばれている人たちは、旧約聖書にある様々な律法を忠実に守っていました。それだけに、律法を守っていない人を厳しくさばいていました。彼らはまた、いつもイエス様の言われる事に対して反発していました。

ところが、同じパリサイ人でも、ニコデモさんはイエス様に対して全く別の考えをもっていました。彼は、イエス様がエルサレムで行われた数々の奇跡を見て、イエス様こそまことの教師だと見抜いたのです。

④イエス様はニコデモさんに、どのようにしなければ神の国を見る（神の国に入る）ことはできないと言われましたか（3節）。

●「だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言われました。

⑤この言葉に、ニコデモさんは何と答えましたか。

●ニコデモさんはとても驚いた顔をして「人は年をとってから生まれることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生まれることができませんか」と言いました。ニコデモさんには、イエス様の言われた言葉の意味が理解できませんでした。

イエスとの出会いは、彼のその後を決定的な影響を与えた。主の言葉は、当座は理解できなかったが、彼の心に深く刻み込まれ、ついにはイエスを神の子と信じるに至った。それは、主が十字架で処刑されたのち、アリマタヤのヨセフが主の遺体を引き取ったときに、ニコデモが遺体に塗るために没薬と沈香とを混ぜたものを持って来たことからわかる（19・39）。

今週のテキストには「生（ま）れる」（ギノマイ）という語が八回も使われている（3、4、4、5、6、6、7、8節）。論点は新しく生まれること、新創造されることで、救いの核心に触れる問題が取り扱われている。幼子の魂を取り扱う教会学校教師自らが、深く学ぶべき箇所である。

## テキスト

2 イエスがニコデモに、「わたしをどう思うか」と問われたのではなく、彼のほうから先生、あなたが神からこられた教師であることを知っていますと言いながら主に近づいてきた。主に對するあいさつであったが、決して形式でもお世辞でもない。彼は心からの思いを表現したのである。

3 彼は地位も経験も知識も兼ね備えていたが、自ら何か欠けを感じていた。主はその何かを知っておられた。それは新生、新創造という彼の魂の根本問題であった。これなくして、他は一切むなしと言っても過言ではない。新しく生（ま）れるの原意は、「上から生まれる」で、人間的、自然的な誕生ではなく、神的、超自然的誕生、つまり聖

⑥行いが立派な人なら、神の国に入ることができるといえる。

●いいえ。どんなに立派な人であっても、あらゆる点ですぐれた人であっても、新しく生まれ変わるなければ、神の国に入ることはできません。

また逆に、どんなに罪を犯した人であっても、新しく生まれ変わるならば、神の国に入ることができるのです。

⑦新しく生まれ変わるとはどういう事でしょうか。

●もちろんニコデモさんが言ったように、もう一度お腹の中に入ることはありませんね。「新しく」とは「上から」「神様から」という意味です。15節に「それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」とあります。

新しく生まれ変わるために必要な事、それは、これまでの罪を悔い改め、「イエス様はわたしの罪のために十字架にかかってくださった」と信じる事なのです。その時、永遠に生きる命が与えられ、やがて神の国（天国）に入ることが出来ます。

私たちは、お母さんから生まれた時に、この世で生きる命を神様からいただきました。けれども、イエス様を信じて新しく生まれることによって、今度は天国で生きるための永遠の命をいただくことができるのです。

## ＜祈り＞

みんなで心を合わせて祈りましょう。イエス様を心から信じて、新しく生まれ変わることが出来ますように。また、わたしたちの家族やお友だちが新しく生まれ変わって、神様の御国に入ることが出来ますように。

霊による誕生を指す。神の国を見るは、神の国に入る（5節）と同じ意味で、神の支配のもとに生きることである。律法を行っているから神の支配下に生きているのではなく、御霊によって魂が根本的に新しく造り変えられて、初めて真に神の臨在の中を歩むことができると、イエスは言われたのである。

5 水と霊とから生（ま）れなければ、の「水と霊」が何を指すかには諸説がある。バックストン師の次の言葉は示唆に富む。「私共はあらたに生まれることを望みますれば、水と霊のバプテスマを受けなければなりません（1・33）。水は死を指します。霊は生命を指します。私共は地獄につける生命が死にまして、天国につける生命を受けなければなりません。今までの肉につける生命を殺して、新しい霊の生命を受けなければなりません。かく天につける生命を得て、初めて天の処に生涯を送ることが出来ます」（『ヨハネ伝講義』48ページ）。

14 モーセが荒野でへびを上げたように、イエスは民数記21・4～9の荒野のへびの故事を引用し、ご自分を呪いのへびと同一視された。罪なき神の子イエスは、極悪人のようにして呪いの木にかけられ、罪そのものとなってくださった。

15 この主の十字架を信じる者が、罪ゆるされ義とされ、さらにあらゆる汚れからきよめられて、永遠の生命を得て主に従う歩みをなすのである。新しく生まれるとは、この主の十字架によって我らの魂の内になされる、全きあがないのみわざである。



● 週 題 サマリヤの女

● 聖 書 ヨハネによる福音書4・1～15

● 暗唱聖句 わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであらう。

ヨハネ4・14

● 目 標 主イエスが与えてくださった水こそが、永遠の命を与えることを教える。

## 導入

のどが渇く季節になりました。のどがカラカラにかわいた時に飲む水は、とてもおいしいですね。今日は、わたしたちの魂に与えられる永遠の命の水のお話です。

## サマリヤを通られたイエス様

ある日、イエス様は、ユダヤからガリラヤに行こうとされたとき、サマリヤを通ろうとされました。サマリヤはユダヤとガリラヤの間にありましたが、しかし、当時ユダヤ人は、サマリヤ人をきらい、軽べつしていたので、決してサマリヤを通らないで、わざわざヨルダン川に沿った道を選んで、遠回りしていました。

ところがイエス様は、今日はどうしてもサマリヤを通らなければならないと思われました。それは、そこにイエス様の救いが必要としている一人

の人がいることをご存じだったからです。イエス様は、本当に救われたいと求めている人が一人でもいれば、困りから迷い出た一匹の羊を捜す羊飼いのように、出かけて行かれます。

## かわくことのない水

イエス様は旅の疲れを覚え、サマリヤのスカルという町にある井戸のそばにすわって、休まれました。弟子たちは買物に出かけ、イエス様お一人が残られました。昼の十二時ごろ、一日で一番暑い時です。

するとそこに、一人の女の人が、井戸の水を汲みにきました。普通、水を汲むのは涼しい朝のうちだったのですが、彼女は、わざわざ暑い昼を選んで汲みにきたのです。彼女は、恥ずかしい罪の生活を送っていて、町の人々から冷たい目で見られていたからです。だから彼女は、人目を避けて、暑いときに水を汲みに来たのです。

イエス様は、この女の人のことを全部知っておられました。またイエス様は、この人がそのような生活から救われたいと思っていることもご存じでした。

イエス様は、彼女に「水を一杯ください」とお声をかけることから始めて、彼女を救いに導こうとされました。また、「この井戸の水を飲んで、すぐにまた渇くでしょう。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも渇きません。さらに、その人の内に泉ができて、永遠の命に至る水が湧き上がります」と言われます。彼女は、すぐるよ

うにして、イエス様に「その水をわたしにください」と求めました。

## 聖霊の泉

イエス様が言われた、永遠の命に至る水とは何でしょうか。それは、わたしたちの内に住んでくださる聖霊のことです。

わたしたちは、罪を悔い改め、十字架を信じて、すべての罪がゆるされ、救われました。でも、今の自分はどうかと振り返れば、神様に喜ばれる生活を送っていると言えるでしょうか。わがままで、意地悪で、お父さんやお母さんにさからってしまっているからです。

しかし、十字架の血は、そんなわたしたちの内側の汚れを全きよめます。そして、聖霊なる神様がわたしたちの内に住み、わたしたちは、喜んで神様のみに従う者、いつも喜びと感謝の心をもって歩む者、また福音を大胆に伝えていくことができる者になります。なんとすばらしい恵みではありませんか。

## 結び

あなたも、永遠の命に至る水がほしいと思いませんか。まだ救われていない人は、イエス様の十字架を信じて、救いの恵みをいただきましょう。そして、救われた人は、「聖霊を内にください」と、イエス様に求めていきましょう。神様は、求めてくる者に必ず与えてくださいます。

## 分 級 A

## 〈分級活動例〉

ケンちゃん、マリちゃん、おはよう!!

きょうは朝からとても暑いね。

外で遊んで帰ってきたときには、すぐに冷蔵庫をあけてつめたいお茶をのむんでしょね。

イエス様も暑い暑い屋間に外を歩いていたので、とてものがかわきました。だから、水がたくさんわいている井戸へいきました。するとそこに女の人が一人水をくみにきていました。

「すみませんが、わたしは水をくむものをもってないので、はい水をのませてくださいますか。」

「いいですよ、さあぐんであげましょう。」

イエス様はおいしそうにお水をのんでから、女の人にこういわれました。「ありがとう。おいしかったよ。こんどはわたしがあなたに『生ける水』をあげましょう。この井戸の水は、飲んでもすぐにのどがかわいて、またくみにこなければなりません。けれども、わたしがあげる水はいつまでもかわかないで、その人の中で次から次からわいてくるのですよ。」

「ヘエーッ、そんな水どこにあるのですか。もし本当にあるでしたら、わたしにもくださいな」と、女の人はいいました。

## 分 級 B

## 〈キーポイント〉

## 「こころの泉」

## 〈導入〉

先週は、ひとりの年とったおじいさん先生、ニコデモさんのお話でした。きょうは、サマリヤの女のお話です。でも「心」はみんな同じ。男

## 〈聖書に親しむ〉

ヨハネ4・1～15です。きょうも、ナレーター、イエス様、サマリヤの女とわかれて読みましょう。暗唱聖句には、線を引いて覚えよう。

## 〈泉ワークをどうぞ〉

○の中にふさわしい文字を入れてください。泉から水がわきあがるのはどちらかな? きれいにぬってください。絵を見ながら、いろいろ話し合ってみましょう。

## 〈「こころからわきあがる泉」〉

井戸の水を飲んでもまたかわきます。それは、ちよど罪の楽しみの水、この世の中の楽しみの水は決して心を満たさないで、もっともっとかわかせるようなものです。心の井戸をイエス様によってそうじして頂いて、イエス様(聖霊)を心にお迎えして、はじめて心は満たされ、いのちの喜びがわきあがるのです。

『「スベルミューシク」29番の「平和、川のように」をみんなで歌いましょう。特に3番の「喜び、泉のように」は、きょうのお話にぴったりです。

## 分級C

キーポイント  
いのちの水

## 〈導入〉

毎日暑いですね。「ミーン、ミーン、ミーン」とにぎやかに鳴くせみ、シリシリと照りつける太陽。夏本番です。こんなに暑い時によく冷えたお水や麦茶、ジュースはもうたまりませんね。なんともいいことでしょう。

ところが「あーおいしい！」と思っても、時間がたてばまだのどが渇きますね。だからと言って一滴も飲まなければ大変なことになってしまいます。わたしたちの体の70%は水ですから、水分を欠かすことはできません。

からだにとって水が必要であるように、わたしたちのたましいのためにもしのちの水が必要ですよ。いのちの水ってどのような水でしょう。

## 〈聖書を読もう〉

ヨハネによる福音書4章1節～15節です。今日の暗唱聖句は14節です。しっかりと覚えましょう。そしていつものように質問に答えましょう。

## 〈質問〉

①イエス様がユダヤからガリラヤへ行かれるのに通られた所はどこですか（4節）。

●サマリヤです。

## 研究資料

## 週題 サマリヤの女

ニコデモに続いて、イエスに個人的に出会ったのは、サマリヤの女である。彼女はニコデモと対照的な人物であった。第一に、彼女はユダヤ人から嫌われたサマリヤ人であった。第二に、彼女は人へ後ろ指を指される罪人であった。第三に、彼女からイエスを訪ねたのではなく、イエスのほうから彼女に出会われた。そして第四に、彼女はその場で救われた。

当時、ユダヤ人はサマリヤ人と交際していなかった（9節）。それは数百年にも及ぶ歴史的不和だった。サマリヤは、オムリ王によって建設され、北朝滅亡まで北王国イスラエルの首都であった。地域としてのサマリヤ地方は、サマリヤを中心に、北のガリラヤ、南のユダにはさまれた中央パレスチナで、北イスラエルの領土の主要部分を占めた。分裂王国初期から、歴代の王によって偶像礼拝が取り入れられたため、エリヤをはじめ、エリシヤ、アモス、ホセア、ミカ、イザヤ、エゼキヤらの預言者によって厳しく糾弾された。特に北王国がアッシリヤ帝国に滅ぼされた後、サマリヤ人は異民族と雑婚して混血民となり、イスラエル宗教の純粋性は決定的に失われた。その結果、サマリヤ地

ユダヤ人とサマリヤ人は、昔から仲が悪く、多くのユダヤ人はわざわざ遠回りをしてでもサマリヤの町を避け、険しいヨルダン川の深い谷に沿った道を選んだほどです。ところが、イエス様はあえてサマリヤをお通りになりました。「それには一つの目的があった」（現代訳聖書）からです。

②旅の疲れを覚えられたイエス様は、どこで体をやすめられましたか（5、6節）。

●イエス様は、サマリヤのスカルの町にあるヤコブの井戸のそばにすわっておられました。弟子たちが買物に出かけていき、イエス様が一人になられた時、一人のサマリヤの女の水をくみに来ました。

③何時ごろ水をくみに来ましたか（6節）。

●昼の十二時ごろです。その地方では、ふつう水をくむのは夕方でした。この女は昼間のだれもくみに来ない時に来ました。ほかの人と会うのが恥ずかしい事情があったからです。

④イエス様はこの女の人に何と声をかけられましたか（7節）。

●イエス様の方からサマリヤの女の人に対して、水を飲ませてください」と言われました。この事は女の人にとっては大変な驚きでした。ユダヤ人とサマリヤ人とは仲が悪かったにもかかわらず、ユダヤ人であるイエス様の方からこの女の人に声をかけられたからです。

⑤さらにイエス様は、この女の人がイエス様に願い出て、何をもらおうと言われましたか（10節）。

●生ける水です。それは永遠にかわくことのない命

方の住民（サマリヤ人）と、エルサレムを中心とするユダヤ人との確執が強まり、エズラ・ネヘミヤ時代、ユダヤ人はサマリヤ人をエルサレム神殿に受け入れなかった。これに対抗して、サマリヤ人はゲリシム山に自分たちの神殿を建て、またサマリヤ五書を編集した（日本基督教団出版局『聖書辞典』参照）。

イエスは、こうした民族的、宗教的反目を超えて、スカルの婦人に伝道され、サマリヤのらい病人をきよめ（ルカ17・11～19）、「良きサマリヤ人」のたとえ（ルカ10・30～35）を語られた。ユダヤ人からは神の救いから除外された民と見られていたサマリヤ人に、福音の光を与えられたのである。イエスがサマリヤの婦人に言われた言葉（14節）は、先週の聖句（3・3）と同様、我らの魂に根本的にかかわるみ言葉である。

## テキスト

1 イエスが、ヨハネよりも多く弟子をつくり主がユダヤを去られたのは、ご自身とバプテスマのヨハネとを比較して何かをするということを避けるためであった。ヨハネはすでにイエスをメシヤとあかしし（1・29、36）、自分は衰えゆくべき者であることを証言していた（3・30）。主は、両者の弟子たちにいたすらに妬みや優越感をいだかせることを避けようとしたのであろう。

4 イエスはサマリヤを通過しなければならなかった。「彼にはどうしてもサマリヤを通って行か

る水のことです（14節）。これはイエス様しか与えることのできない、心の内にわき上がる泉なのです。⑥どうすれば、決してかわくことのないいのちの水をいただくことができますか（21節）。

●イエス様は、「女よ、わたしの言うことを信じなさい」と言われ、ご自身がメシヤ（救い主）であることを明らかにされました（25、26節）。この女は、イエス様をその通りの方と信じました。⑦目の前におられる方が救い主であるとわかった女は、そのあとどうしましたか（28、29節）。●大切な水がめをそこに置いて町に出かけて行き、人々に、「さあ、見に来てごらんささい。もしかしたらこの人がキリストかもしれない」と言って、次々と人々をイエス様のもとに連れて来ました。あれだけ人に会つのを避けていたにもかかわらず、女は人を出かけて行ったのです。サマリヤの町の人々は、女の人の言葉を通してイエス様にお会いし、イエス様こそ救い主だと信じました。

サマリヤの女はイエス様を信じました。そして心の内にイエス様の与えられるいのちの水をもつことができたのです。そればかりか、サマリヤの町の人々にも、救い主イエス様にお会いした喜びがわき上がりました。

イエス様が与えてくださるいのちの水（聖霊）は、罪を悔い改めてイエス様を信じるわたしたちのうちに働かせるのです。

わたしたちもイエス様を信じて、いのちの水をいただきますように。

の地に足を踏み入れることを嫌った。彼らがユダヤからガリラヤに行こうとするときは、サマリヤ通過という近道を選び、わざわざ遠回りをして、ヨルダン川に沿った険しい道を選んだのだ。しかし主は、あえてサマリヤを通られた。救いを要する魂のために、そうする必要を感じられたのであろう。

5 この町はヤコブがその子ヨセフに「旧約聖書中にスカルの名は出てこないが、おそらくシケムの町であろう。ヤコブが他の兄弟に与えず、ヨセフに与えた場所である（創世記48・22）」。

9 イエスがユダヤ人であることは、その服装から彼女にもすぐにわかった。彼女の驚きは、ユダヤ人から声をかけられたからだけではなく、男性から話しかけられたからでもあった。ユダヤ人は男性のほうから女性に話しかけることはしなかったからである。

10～14 イエスは、ご自分が彼女に与えようとされる救いが、神の賜物であることを示し、彼女のうちに渴望をかきたてられた。ヤコブの井戸の水は肉体の渇きをいやすが、限度がある。しかし、主が与える水は、心の渇きをいやすばかりか、永遠の命に至る水が、わきあがるのだ。井戸の水は古い形式主義を意味し、主が提供される水は、恵みによる魂の救い、十字架による罪のゆるしときよめを表していた。